

電一車一哩ニ對スル電氣使用量	載	本期間總數
	貨	平均一日
	數	平均一車一哩

注意
一、哩以下ハ小數一位トス但シ四捨五入ノコト
二、電氣使用量ハ之ヲ算出セル場所(發電所、變電所等)ヲ記載スルコト

第十七表 供給(又ハ使用)電氣力及電氣力量等

何々發電所	電燈、電力(晝間電力ヲ除ク)又ハ電氣鐵道	晝間電力
本期間供給(又ハ使用)時間數	「キロワット」時	「キロワット」時
本期間總供給(又ハ使用)電氣力量	「キロワット」	「キロワット」
本期間最大供給(又ハ使用)電氣力	「キロワット」	「キロワット」
本期間平均供給(又ハ使用)電氣力	「キロワット」	「キロワット」

本期間平均發電機荷重率	「パーセント」	「パーセント」
本期間平均發電所荷重率	「パーセント」	「パーセント」
發電所發電容量	(常用) 「キロワット」	(豫備) 「キロワット」
蓄電池放電容量(三時間放電ニテ)	(常用) 「アムペア」時	(豫備) 「アムペア」時

注意
一、本表ハ發電所毎ニ毎月及毎報告服ノ分ヲ調製シ發電所ニ於ケル數量ヲ計上スルコト但シ發電所、變電所、蓄電所又ハ開閉所ニ於テ電氣供給ヲ受クルトキハ其ノ發電所、蓄電所又ハ開閉所毎ニ供給ヲ受クル電氣力ニ就キ別ニ本表ヲ調製スルコト
二、同一ノ發電所ヨリ電氣供給ト電氣鐵道トニ送電スルトキハ同一ノ發電機ヲ共用スル場合ヲ除クノ外電氣供給及電氣鐵道毎ニ本表ヲ調製スルコト
三、本表ハ一表毎ニ(電氣供給用)(電氣鐵道用)又ハ(電氣供給及電氣鐵道共用)ト記載スルコト
四、電力計ノ備付ナキ發電所ニテハ「キロワット」又ハ「キロワット」時ノ代リニ「キロヴォルトアムペア」又ハ「キロヴォルトアムペア」時ヲ以テ表示スルコト
五、「本期間平均最大供給(又ハ使用)電氣力」トハ毎日ニ於ケル最大供給(又ハ使用)電氣力ノ本期間ニ於ケル平均數ヲ謂フ
六、「本期間平均發電機荷重率」トハ毎日ニ於ケル平均供給(又ハ使用)電氣力ノ毎日ニ於ケル最大供給(又ハ使用)電氣力ニ對スル比ヲ本期間ヲ通シテ平均シタルモノヲ謂フ

出		兼業
其	他	
總計		

○朝鮮電氣事業取締規則

(明治四四、三、六) 朝鮮令二四

- 第一章 總則
- 第二章 許可、認可、申請及届出
- 第三章 工事ノ著手落成検査及使用認可證
- 第四章 主任技術者
- 第五章 工事施設、送電及記録
- 第一節 通則
- 第二節 電燈及電力
- 第三章 電氣鐵道
- 第六章 監査、試験、改修及停止並許可、認可ノ失效及取消

- 第七章 罰則
- 第八章 官廳施設電氣事業
- 附則
- 第一章 總則
- 第一條 本令ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ
 - 一 一般ノ需用ニ應シ電氣ヲ供給スルモノ
 - 二 一般運送ノ用ニ供スル鐵道(輕便鐵道及軌道ヲ含ム以下同シ)ノ動力ニ電氣ヲ使用スルモノ
 - 三 前二號ノ外電氣ヲ使用又ハ供給スルモノ但シ他ヨリ電氣ノ供給ヲ受クルモノニシテ其ノ使用上ノ責任ヲ供給者ニ於テ負擔スルモノヲ除ク

第二條 本令ハ左ニ掲クルモノニ之ヲ適用セス

- 一 電信電話又ハ信號ニ電氣ヲ使用スルモノ
- 二 一般運送ノ用ニ供スル官設鐵道ノ動力及其ノ車輛内ニ電氣ヲ使用スルモノ
- 三 電線路ノ施設ナクシテ車輛又ハ船舶ニ電氣ヲ使用スルモノ
- 四 電壓十「ヴォルト」以下ノ電氣ヲ使用スルモノ
- 第三條 本令ニ於テ電線ト稱スルハ電氣傳送ニ用ウル金屬體ヲ謂フ
- 第四條 本令ニ於テ電路ト稱スルハ發電機其ノ他ノ機械、器具、電線、大地等電流ノ通スル一般全路ヲ謂フ
- 第五條 本令ニ於テ電線路ト稱スルハ屋外ニ施設スル電線及之ヲ支持シ又ハ保藏スル工作物ヲ謂フ
- 第六條 本令ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設シタル機械、器具、電線路及其ノ他ノ工作物ニシテ直接電氣事業ノ用ニ

供スルモノヲ謂フ

- 第七條 本令ニ於テ引込線ト稱スルハ使用場所外ノ最終ノ支持物ヨリ使用ノ場所ニ達スル屋外電線ヲ謂フ
- 第八條 本令ニ於テ電車ト稱スルハ電動車及電氣機關車ヲ謂フ
- 第九條 本令ニ於テ低壓ト稱スルハ直流式ニ在リテハ六百「ヴォルト」、交流式ニ在リテハ三百「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂ヒ高壓ト稱スルハ低壓ノ制限ヲ超過シ三千五百「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓、特別高壓ト稱スルハ高壓ノ制限ヲ超過スル電壓ヲ謂フ
- 第二章 許可、認可、申請及届出
- 第十條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業ヲ經營セムトスル者ハ起業目論見書及工事設計書ヲ具シ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ
- 前項ノ申請書ニハ電氣事業者ノ商號又ハ名稱、工事費豫算及事業上ノ收支概算ヲ記載シタル書

類ヲ添附スヘシ

第十一條 前條ノ起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 事業ノ目的
 - 二 資本金
 - 三 供給區域又ハ鐵道ノ經過地名
 - 四 發電所、變電所、配電所ノ位置並其ノ位置ヨリ供給區域又ハ鐵道ニ達スル電線路ノ經過地名
- 前項第三號ノ供給區域及第四號ノ事項ハ別ニ縮尺及電線路直長ノ概數ヲ記載シタル圖面ヲ以テ表示シ又第三號ノ鐵道ノ經過地ハ縮尺二萬五分ノ一以上トシ鐵道ノ位置、近傍ノ地名、他ノ鐵道ト交叉スル所アルトキハ其ノ交叉ノ前後二町以內ニ在ル鐵道ノ位置、鐵道ノ位置ヨリ約一町以內ニ在ル架空ノ電線、電話線、電氣信號線、電燈、電力、電氣鐵道用電線ノ位置、單線式其ノ他電路ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ電氣鐵道ノ位置ヨリ約十町以內ニ在ル地中施設ノ金屬線、金屬管其ノ他金屬體ノ位置ヲ記載

シタル圖面ヲ以テ表示スヘシ

- 一 營セムトスル者ニ限ル
 - 二 電氣方式(特別高壓、高壓、低壓ノ區別、直流式、交流式ノ區別、單相式、二相式、三相式等ノ區別、二線式、三線式ノ區別等)
 - 三 「ワット」數及最大電壓(多線式ニアリテハ最大ノ電壓ヲ與フル兩線間ノ電壓又ハ電流變式機及電動發電機ニ在リテハ一次及二次回線及最大電壓)
 - 四 電線路ノ種類(架空線、地中線ノ區別等)
 - 五 電氣鐵道方式(架空單線式、架空複線式、暗渠單線式、暗渠複線式ノ區別等)
- 第十二條 電氣事業ノ許可ヲ受ケタル後起業目論見書又ハ工事設計書ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ關係ノ書類及圖面ヲ具シ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ

第十三條

電氣事業ノ許可ヲ受ケタル者ハ指定ノ期間内ニ左ノ書類ヲ具シ朝鮮總督ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ

- 一 工事設計明細書
 - 二 工事費豫算書
 - 三 落成期限書(工事ヲ數部ニ區分シ各部ノ落成毎ニ第三十六條ノ檢査ヲ受ケムトスルトキハ其ノ各部ノ落成期限)
- 前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ
- 一 組合事業ニ在リテハ其ノ組合ニ關スル契約書謄本
 - 二 會社ニ在リテハ其ノ登記謄本及定款謄本
 - 三 公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ決議書
- 第一項ノ申請書ハ第十條ノ申請書ト同時ニ之ヲ提出スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ工事設計書ハ之ヲ提出スルコトヲ要セス
- 朝鮮總督ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ電氣事業者ノ申請ニ依リ第一項ノ期間ヲ伸長スルコトアルヘシ

第十四條

工事設計明細書ニハ左ノ事項及圖面ヲ記載又ハ具備スヘシ

- 一 原動機(汽罐ノ種類、箇數、當用汽壓、馬力數)又ハ加熱面積、加爐面積、水車ノ種類、箇數、馬力數、流量、落差、調整器ノ種類、汽機瓦斯發動機、石油發動機、電動機等ノ種類(電動機ハ發電機ノ例ニ倣フ)馬力數、調整器ノ種類其ノ他附屬機械、器具ノ種類及箇數等)
- 二 發電所、變壓所又ハ配電所ニ於ケル機械、器具ノ裝置及接續法並其ノ圖面
- 三 發電機、電動發電機、電流變式機、蓄電池及「アスター」ノ種類、箇數「ワット」數電流ノ種類(交流式ニ在リテハ周波度數、單相式、二相式、三相式等ノ區別、結線法共)、勵磁法「直流式ニアリテハ直列卷、分電卷、複卷ノ區別、交流式ニ在リテハ單一勵磁、合成勵磁等ノ區別共」、最大電壓、多線式ニ在リテハ最大電壓ヲ與フル兩線間ノ電壓、

- 四 電流變式機及電動發電機ニ在リテハ一次及二次回線ノ最大電壓)
- 五 變壓器ノ種類(一次及二次回線ノ電壓、單相式、二相式、三相式等ノ區別(結線法共))
- 六 電氣方式(特別高壓、高壓、低壓ノ區別、直交流式、交流式ノ區別、單相式、二相式、三相式等ノ區別、二線式、三線式ノ區別等)
- 七 電線路ノ種類及其ノ構造(架空線、地中線ノ區別、裸線、被覆線ノ區別、電線並被覆絕緣物ノ種類及電線路構造ノ大要)
- 八 電線路圖(發電所、變壓所、配電所及電線路ノ位置並其ノ近傍ノ地名等ヲ記入シタル縮尺圖)
- 九 保安裝置(開閉器、自動遮斷器、檢漏器ノ種類及避雷ノ裝置、他ノ電線トノ混觸豫防裝置、高壓及低壓電線相互ノ接觸ヨリ生スル危險豫防裝置、危險豫防ノ爲器具材料ニ設備シタル接地其ノ他ノ裝置)
- 第一條第三號ノ電氣事業ニ在リテハ前項各號ノ

- 一 外左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ前項第六號ノ事項ニ關シテハ電車線ノ品質、形狀、太サ、腕金式、吊線式ノ區別等ヲモ記載スヘシ
- 二 電車内機械、器具ノ裝置及接續法並其ノ圖面
- 三 電車内電動機、蓄電池ノ種類、箇數及馬力數又ハ「ワット」數並附屬機械、器具ノ種類(電流ノ種類、交流式ニ在リテハ周波數、單相式、二相式、三相式等ノ區別結線法共)、勵磁法「直交流式ニ在リテハ直列卷、分電卷、複卷ノ區別、交流式ニ在リテハ單一勵磁、合成勵磁等ノ區別共」、最大電壓「多線式ニ在リテハ最大電壓ヲ與フル兩線間ノ電壓、電流變式機及電動發電機ニ在リテハ一次及二次回線ノ最大電壓」)
- 四 電氣鐵道方式(架空單線式、架空複線式、暗渠單線式、暗渠複線式ノ區別等)
- 五 鐵道ノ構造(軌鐵ノ種類、重量、軌間並鐵道

- 六 橫斷圖面(單線式其ノ他電路ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ電氣鐵道ニ在リテハ「ボンド」線及補助線ノ種類、太サ其ノ他軌鐵ノ接續法又暗渠式及釘式等ニ在リテハ其ノ構造及電線施設法共)
- 七 電車ノ構造、重量及運轉車輛數
- 八 防難裝置(制御機、制動機、避難器、排障器ノ種類、信號法及鐵道ト他ノ鐵道ト交叉スル場合ニ於ケル衝突豫防法等)
- 九 鐵道實測平面及縱斷圖面(平面圖ノ縮尺ハ二萬五千分ノ一以上トシ鐵道ノ位置及互長近傍ノ地名、道路ノ幅員、他ノ鐵道ト交叉スル所アルトキハ其ノ位置及前後二町以內ニ在ル部分、電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ架設アルトキハ鐵道ノ位置ヨリ約一町以內ノ區域ニ在ル部分、單線式其ノ他電路ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ電氣鐵道ニ在リテハ其ノ鐵道ノ位置ヨリ約十町以內ノ區域ニ在ル地中施設ノ金屬線、金屬管

- 其ノ他金屬體ノ位置、發電機又ハ電流變式機ノ一極ヲ接地シタル點ノ位置、縱斷圖面ノ縮尺ハ長サハ平面圖ト同一ニシテ高サハ千八百分ノ一以上トシ中心線、地面ノ高低、築堤、切取、隧道、橋梁ノ位置、道路又ハ他ノ鐵道ト交叉スル場合ニ在リテハ其ノ位置、鐵道ノ勾配及經過地名)
- 第十五條 第一條第三號ノ電氣事業ヲ經營セムトスル者ハ第十一條第一項第一號及第三號及第四號ノ事項ヲ記載シタル書類及圖面ノ外第十四條ノ工事設計明細書及落成期限書ヲ具シ朝鮮總督ニ認可ヲ申請スヘシ
- 左ニ掲クルモノヲ除クノ外二千「ワット」ヲ超過セサル低壓電氣ヲ供給又ハ使用セムトスル者ハ前項ノ申請ヲ要セス其ノ工事施設ノ後遲滞ナク前項ニ準シ管轄警務部長(京城ニ在リテハ朝鮮總督府警務部長以下同シ)ニ届出ツヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ亦同シ
- 一 火藥又ハ石油ノ貯藏場、紡績又ハ綿打工場

其ノ他爆發性、燃焼性若ハ發火性ノ物質ヲ製造シ又ハ藏置スル場所ニ電氣ヲ使用スルモノ

二 爆發性、燃焼性若ハ發火性ノ瓦斯其ノ他ノ物質ヲ發生スルノ虞アル場所ニ電氣ヲ使用スルモノ

第十六條 電氣事業者工事設計明細書又ハ落成期限書其ノ他認可ニ係ル事項ヲ變更セムトスルトキハ關係書類及圖面ヲ具シ朝鮮總督ニ認可ヲ申請スヘシ但シ第十九條及第二十條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

發電所、變壓所又ハ配電所ノ電氣工作物ヲ撤去スルニ依リ工事設計明細書中ノ事項ニ變更ヲ生スルモ電氣方式及其他ノ電氣工作物ノ狀態ニ變更ヲ生セサル場合ニハ前項ノ手續ニ依ラス直ニ關係書類及圖面ヲ具シ朝鮮總督府通信局長官ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第十七條 電氣事業者第一條第二號ノ電氣事業ニ關スル起業目論見書、工事設計書、工事設計明細書及工事費豫算書ヲ提出スル場合ハ之ヲ鐵道

ニ關スル許可又ハ認可ノ申請書類ト共ニ提出スヘシ

第十八條 第一條第一號ノ電氣事業者ハ料金其ノ他電氣供給ノ條件ヲ定メ朝鮮總督ヘ認可ヲ申請スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十九條 電氣事業者第三十六條ニ依リ使用認可證ノ下付ヲ受ケタル後電氣線路ヲ新設延長又ハ其ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ左ノ書類及圖面ヲ具シ警務部長ニ工事施行ノ許可ヲ申請スヘシ其ノ落成期限ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ引込線共同引込線(二箇以上ノ使用場所ニ達スル引込線)使用者構内、發電所、變壓所及配電所構内ノ電線路ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

一 電線路圖(發電所、變壓所、配電所及電線路ノ位置並其ノ近傍ノ地名等ヲ記入シタル縮尺圖)

二 落成期限書(工事ヲ數部ニ區分シ各部ノ落成毎ニ第三十六條ノ検査ヲ受ケムトスルトキハ其ノ各部ノ落成期限)

第二十四條 左ノ場合ニハ電氣事業者遲滞ナク其ノ事項ヲ具シ通信局長官ニ届出ツヘシ

一 電氣ノ使用ヲ開始シタルトキハ其年月日

二 電氣事業者其ノ名稱又ハ商號ヲ變更シタルトキハ其名稱又ハ商號

第二十五條 左ノ場合ニハ電氣事業者其ノ日時場所、原因其ノ他必要ナル事實ヲ具シ警務部長ニ届出ツヘシ

一 電氣事業ヨリ災害其ノ他ノ故障ヲ生シタルトキ

二 送電ヲ中止又ハ之ヲ復舊シタルトキ

第二十六條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者ハ毎年決算期又ハ六月及十二月ニ於テ事業概況報告書ヲ調製シ通信局長官ニ届出ツヘシ前項ノ報告書ニハ業務上各般ノ報告、報告期末現在ニ於ケル電線路亘長及電線延長、需用者數並電燈、電動機及電車ノ箇數ヲ記載スヘシ但シ電線ノ延長ハ電壓ノ類別ニ依リ電燈ハ白熱燈、弧光燈及「ワット」數ニ依リ、電動機及電車ハ其

第二十條 同一支持物又ハ同一暗渠内ニ於テ電線ヲ増設若ハ撤去シ又ハ電線路ヲ撤去シタルトキハ遲滞ナク警務部長ニ届出ツヘシ但シ引込線、共同引込線並使用者構内、發電所、變壓所又ハ配電所構内ノ電線路ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 火災其ノ他ノ原因ニ因リ電氣工作物ヲ滅失損壞シタル爲復舊工事ヲ施サムトスルトキハ電線路ニ關シテハ第十六條第一項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ工事ヲ急施スルノ必要アルトキハ其ノ滅失若ハ損壞シタル電氣工作物ノ原狀ヲ變更セサル場合ニ限リ前項ノ手續ニ依ラス通信局長官ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者ハ警務部長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ事業ノ全部又ハ一部ノ休止ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非サレハ事業ヲ廢止スルコトヲ得ス

ノ種類及「ワット」數ニ依リ區別スヘシ
 第二十七條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者其ノ事業ヲ讓渡サルトキハ當事者連署ノ上朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ
 前項ノ讓渡ヲ終了シタルトキ又ハ第一條第三號ノ電氣事業者其ノ事業ヲ讓渡シタルトキハ當事者ヨリ遲滞ナク通信局長官ニ届出ツヘシ電氣事業ヲ相續シタル者ハ前項ノ規定ニ準シ届出ツヘシ
 第二十八條 電氣事業ヲ讓受又ハ相續シタル者ハ讓渡人又ハ被相續人カ本令ニ依リテ有スル權利義務ヲ承繼ス
 第二十九條 本令ニ依リ提出スル書類及圖面中技術ニ關スルモノハ主任技術者之ニ署名捺印スヘシ其ノ主任技術者ノ選任前ニ在リテハ擔當技術者之ニ署名捺印スヘシ
 第三十條 朝鮮總督、通信局長官又ハ警務部長ハ許可又ハ認可ニ條件ヲ附シ又ハ審査上必要ト認ムル書類及圖面ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第三十一條 本令ニ依リ朝鮮總督又ハ通信局長官ニ提出スヘキ書類圖面ハ警務部長ヲ經由スヘシ
 第三十二條 警務部長ハ前條ノ書類ニ意見ヲ附シ通信局長官ニ提出スヘシ但シ第十條第一項ノ電氣事業許可申請書及第十三條第一項ノ工事施行認可申請書ニ限リ道長官ヲ經由スヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ事業カ他ノ地方管内ニ係ルモノナルトキハ道長官ヨリ關係道長官ニ商議スヘシ
 第三十三條 警務部長ハ許可、認可若ハ命令シタル事項ヲ其ノ都度通信局長官ニ通報スヘシ
 第三章 工事ノ著手、落成、検査及
 使用認可證
 第三十四條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ指定ノ期間内ニ工事ニ著手スヘシ第十六條又ハ第十九條ノ認可ヲ受ケタルトキ亦同シ
 朝鮮總督又ハ警務部長ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ電氣事業者ノ申請ニ依リ前項期間ノ伸長ヲ認可スルコトアルヘシ

第三十五條 電氣事業者工事ニ著手シタルトキハ遲滞ナク其ノ認可ヲ受ケタル官廳ニ届出ツヘシ其ノ落成シタルトキ亦同シ
 第三十六條 通信局長官又ハ警務部長ハ工事落成ノ届出アリタルトキハ吏員ヲシテ其ノ電氣工作物ヲ検査セシメ支障ナシト認ムルトキハ電氣事業者ニ使用認可證ヲ下付スヘシ但シ検査ノ必要ナシト認ムルトキハ直ニ使用認可證ヲ下付スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ検査ノ結果電氣工作物ヲ不完全ナリト認ムルトキハ其改修ヲ命スヘシ
 第三十七條 前條ノ検査吏員ハ検査ノ結果危險ノ虞ナシト認ムルトキハ限リ電氣事業者ニ假使用認可證ヲ下付スルコトアルヘシ
 前項假使用認可證ノ效力ハ其ノ下付ノ日ヨリ起算シ六十日以内トス但シ其ノ期間内ト雖通信局長官又ハ警務部長ニ於テ電氣工作物ヲ不完全ナリト認ムルトキハ其ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十八條 第三十五條ニ依リ届出ヲ要スル電氣工作物ハ使用認可證又ハ假使用認可證ノ下付ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ第二十一條第二項ノ電氣工作物ニ限リ其ノ落成ノ日ヨリ六十日間ヲ限リ使用認可證又ハ假使用認可證ノ下付ヲ受ケスシテ之ヲ使用スルコトヲ得
 第四章 主任技術者
 第三十九條 電氣事業者ハ工事著手前學識經驗アル主任技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ但シ第一條第三號ノ電氣事業ニシテ第十五條第二項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第四十條 電氣事業者主任技術者ヲ選任又ハ改任シタルトキハ遲滞ナク左ノ事項ヲ具シタル履歷書ヲ添へ通信局長官ニ届出ツヘシ
 一 主任技術者ノ氏名、住所、年齢及國籍
 二 學 歴
 三 官廳、公署又ハ會社其ノ他ノ事業ニ從事シ

タルトキハ其ノ勤務場所、職務ノ種類及其ノ終始ノ年月日

四 卒業又ハ修業證書ノ謄本

第四十一條 通信局長官ハ不適任其ノ他ノ事由ニ因リ主任技術者ノ改任ヲ命スルコトアルヘシ

第四十二條 主任技術者疾病、不在其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ擔當ノ職務ヲ執ルコト能ハサルコト三十日以上ニ亘ルトキハ電氣事業者ハ其ノ代務者ヲ選任シ通信局長官ニ届出ツヘシ

代務者ノ行爲ニ付テハ主任技術者其ノ責ニ任ス

第五章 工事施設、送電及記録

第一節 通 則

第四十三條 電路ハ大地ヨリ絶縁スルコトヲ要ス但シ危險又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ通信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 電路ニハ必要ナル場所ニ避雷裝置及開閉器ヲ設備スヘシ

第四十五條 電路ニハ漏電ヲ檢スルノ裝置ヲ爲ス

ヘシ但シ通信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 電線ハ使用電流ノ爲攝氏二十度以上ノ溫度ヲ増スコトナク且其ノ絶縁物ハ之カ爲變化ヲ顯ハササルモノナルコトヲ要ス

第四十七條 各電線ニハ如何ナル場合ニ於テモ電流ノ爲攝氏四十度以上ノ溫度ヲ増ササル様完全ナル自動遮斷器ヲ裝置スヘシ

各高壓電線並電氣鐵道用各幹線ニハ發電所及變電所ニ於テ特ニ鋭敏ナル自動遮斷器ヲ裝置スヘシ

第四十八條 架空電線ハ絶縁物ヲ以テ被覆シ且外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル様外裝スヘシ
三百「ヴォルト」以上ノ低壓ニ使用スル架空電線ハ二重以上ノ木綿編組線ニシテ其ノ被覆物ハ常ニ耐水質絶縁性ヲ具ヘ且其ノ厚サ五厘以上ノモノ又ハ之ト同等以上ノモノナルコトヲ要ス
高壓ニ使用スル架空電線ハ護謨又ハ之ニ相當スル良好ナル絶縁物ヲ以テ被覆シ其ノ厚サ三厘五

毛以上ニシテ其ノ絶縁力ハ二十四時間以上水中ニ浸シ一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ一分時間充電ノ後攝氏十五度ニ於テ一里ニ付四十萬「オーム」以上ノモノナルコトヲ要ス左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ前二項ニ適合セサル電線ヲ使用スルコトヲ得

一 堅牢ナル電線墜落豫防裝置ヲ爲シ斷線スルモ危險ノ虞ナキトキ又ハ相當ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコトキ

二 電信線、電話線又ハ電氣信號線トノ電氣的混觸ヲ豫防スル架空線ノ上部ニ堅牢ナル豫防裝置ヲ爲ストキ但シ架空電線ノ上部ニ於テ之ト交又若ハ接近シテ電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ架設ナキ場所ニ在リテハ其ノ架設ニ至ル迄此ノ裝置ヲ爲ササルコトヲ得

人家ヲ離隔シ交通稀少ナルカ又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ前各項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

得

本條ノ規定ハ電車線ニ之ヲ適用セス

第四十九條 架空電線ハ電車線ヲ除クノ外直徑六厘五毛ノ圓形ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第五十條 市街地ニ限リ道路ニ建設スル架空電線路ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ工地上又ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得サル場所ニシテ通信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 道路ノ兩側ニ跨ラス其ノ一側ニミ架設スルコト

二 道路ノ一側ニ架空ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線アルトキハ他ノ一側ニ架設スルコト、若其ノ一側ニ架空ノ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線アルトキハ之ト同側ニ架設スルコト

本條ノ規定ハ電車線ニ之ヲ適用セス

第五十一條 架空電線ハ地表ヲ距ル十六尺以上トシ造營物ニ沿ヒ架設スルトキハ三尺、以上其ノ

上部ヲ架渉スルトキハ高壓電線ハ六尺以上、其ノ他ハ三尺以上離隔セシムヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場合ハ警務部長ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五十二條 架空ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架空電線ヲ建設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ電信線電話線、又ハ電氣信號線管理者ノ承諾ヲ得タルトキ及引込線、共同引線電ニシテ工事以上ムヲ得サルトキニ限リ二尺迄ニ短縮スルコトヲ得

第五十三條 他人ニ屬スル電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉シ若ハ之ニ接近シテ架空電線ヲ建設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ工事以上ムヲ得サル場所ニシテ通信局長官ノ認可ヲ受ケタルモノ又ハ同一ノ電柱ニ架渉スルモノハ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五十四條 架空ノ電信線、電話線、電氣信號線又ハ電燈、電力若ハ電氣鐵道用電線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ若ハ接近シテ架空電線ヲ建設セム

トスルトキハ其ノ前日迄ニ關係管理者ニ通知シ立會ヲ請求スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理若ハ撤去スル場合亦同シ

第五十五條 架空電線ノ分岐ハ其ノ電線ノ支持點ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ通信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 電柱ニハ番號ヲ記入スヘシ高壓電線ヲ支持スル腕木ハ全部赤色ニ塗ルヘシ

第五十七條 坑内、隧道、橋梁等ニシテ人畜ニ危害ヲ及ボスノ虞アル場所ニ施設スル電氣工作物ニハ完全ナル危險豫防方法ヲ設ケ高壓電線ニ在リテハ特ニ之ヲ堅牢ナル管若ハ樋内ニ藏ムルカ

又ハ他ノ適當ナル方法ヲ設クヘシ

第五十八條 電線ヲ藏メ若ハ之ヲ鍍裝スル爲用ウル金屬體ハ完全ニ大地ト電氣的接觸ヲ爲スヘシ但シ電燈球取附用器具其ノ他之ニ類スル短少ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十九條 開閉器、自働遮斷器、抵抗器其ノ他導體ニ接スル器具ハ耐火質絶縁性ノモノナルコ

トヲ要ス

第六十條 變壓器、直列式弧光電燈其ノ他高壓電氣ノ通スル機械、器具ハ容易ニ人ノ觸レサル様取附クヘシ

第六十一條 變壓器ノ一次線輪ト二次線輪トノ間ノ絶縁力ハ使用電壓ノ二倍ノ電壓ヲ以テ試験シ三十分時間以上之ニ耐フルモノナルコトヲ要ス但シ特別高壓電氣ニ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 屋外ニ設置スル變壓器ハ耐火水ノ函内ニ藏メ地表ヲ距ル十四尺以上ニ於テ電柱ニ取附クヘシ
石造、煉瓦造土藏造ノ建物ノ外部ニシテ人ノ觸ルル虞ナキ場所ニ限リ前項ノ規定ニ依リ取附クルコトヲ得

危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ警務部長ノ認可ヲ受ケ前二項以外ノ場所ニ取附クルコトヲ得
第六十三條 電路ハ之ヲ検査シ安全ト認ムルモノニ非サレハ之ニ送電スルコトヲ得ス

第六十四條 電氣事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ失火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫

ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出シムヘシ其ノ派遣員ハ警察官ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ退場スルコトヲ得ス

出火ノ場所ニ派遣ノ技術者又ハ工夫ニハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ携帯セシムヘシ

第六十五條 電氣事業者ハ送電中失火、暴風其ノ他非常ノ場合ニハ危險ノ虞アリト認ムル区域内ノ架空電線ニ對シ速ニ其ノ送電ヲ遮斷スヘシ

前項ニ依ル送電ヲ中止シタル区域内電線路ノ各要所ニハ晝間ハ標旗、夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ

第六十六條 通信局長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ電氣事業者ニ對シ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第六十七條 特別高壓電氣工作物並地中電線路ノ施設制限ニ關シテハ本章ニ規定スルモノノ外別ニ定ムル所ニ依ル

第六十八條 本章ノ規定ニ依ル記録ハ五年間之ヲ

保存スヘシ

第二節 電燈及電力

第六十九條 高壓電路ノ架空部分絶縁電路ノ地中ニ施設シタル部分ノ大地トノ絶縁力ハ一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試験シ電線ノ長サ一里ニ付前者ニ在リテハ二萬五千「オーム」後者ニ在リテハ使用電壓一百「ヴォルト」毎ニ六十萬「オーム」ヲ下ルヘカラス

低壓電路ノ大地トノ絶縁力ハ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ一千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス

土地ノ狀況ニ依リ危險又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ニハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第一項及第二項ノ絶縁力ハ三月毎ニ一回之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録スヘシ

第七十條 架空電線ヲ架空ノ電氣線又ハ電氣信號線ト並行シテ建設スルトキ及直流式電燈線ヲ架空電話線ト並行シテ建設スルトキハ六尺以上、

架空ノ電力線若ハ交流式電燈線ヲ架空電話線ト並行シテ建設スルトキハ十二尺以上ヲ離隔スヘシ但シ電氣信號線又ハ電氣信號線管理ノ承諾ヲ得タルトキハ二尺迄ニ短縮スルコトヲ得

第七十一條 共同引込線ノ分岐シタル部分ハ三十分以上ト爲スコトヲ得且道路ヲ横斷セス人ノ容易ニ觸レサル様屋外ニ取附クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ警務部長ノ認可ヲ受ケタルトキハ私道ニ限り横斷スルコトヲ得

第七十二條 屋内ニ施設スル電線ハ左ノ制限ニ依ルノ外絶縁物ヲ以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル様外表シタルモノナルコトヲ要ス但シ特別ノ場合ニ於テハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ裸線ヲ用ウルコトヲ得

一 點檢容易ナル場合ニ施設スル電線ハ第四十八條第二項ニ規定スル電路若ハ之ト同等以上ノモノナルコト

二 點檢容易ナラサル場所、點檢シ能ハサル場所、濕氣ノ充チ易キ場所又ハ工事上已ムチ

得ス人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル電線ハ第七十三條ニ規定スル高等絶縁電線若ハ之ト同等以上ノモノナルコト但シ點檢容易ナラサル場所ト雖二百五十「ヴォルト」以上ノ電壓ニ限り特別ノ方法ニ依リ施設スルトキハ第四十八條第二項ノ電線ヲ用ユルコトヲ得

前項ノ規定ハ發電所、變壓所及配電所内ニ之ヲ適用セス

第七十三條 前條ノ高等絶縁電線ハ護謨又ハ之ニ相當スル良好ナル絶縁物ヲ以テ被覆シ其ノ絶縁力ハ二十四時間以上水中ニ浸シ一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ一分時間充電ノ後攝氏八十五度ニ於テ一里ニ付一百「メガオーム」以上ナルコトヲ要ス

第七十四條 屋内ニ施設スル可撓組線以外ノ電線ハ直徑五厘ノ圓形ノ積、可撓組線ノ電線ハ直徑三厘八毛ノ圓形ノ積ヨリ小ナラサル切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ強力ヲ有シ其ノ

撚線ノ數ハ七本以上ナルコトヲ要ス但シ「パイプ、ペンダント」、「ブラケット」其ノ他之ニ類スルモノノ内ニ藏ムル電線及通信局長官ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條 屋内ニ施設スル電線ハ耐火耐水質ノ管若ハ樋内ニ藏メタル場合ヲ除クノ外耐火耐水質ノ管子ヲ使用シ人ノ容易ニ觀レサル様取附クヘシ

點檢容易ナル乾燥ノ場所ニ在リテハ二百五十「ヴォルト」以下ノ電壓ニ使用スル電線ニ限り臺附木製「クリート」ヲ用ウルコトヲ得

點檢シ能ハサル場所ニ施設スル電線ニシテ金屬體ノ鍍裝又ハ被覆ナキモノハ金屬管内ニ納ムヘシ

第七十六條 電線ノ天井、壁及床等ヲ貫通スル部分又ハ屋内ニ於テ電氣線、電話線、電氣信號線、水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體ニ接近スルカ若ハ相互ニ交叉スル部分ハ之ヲ碍管内ニ藏メ又ハ特別ノ裝置ヲ爲スヘシ

第七十七條 屋内ニ施設スル電線相互間ノ絶縁力及電線ト大地トノ絶縁力ハ執レモ機械、器具及附屬物ヲ合セ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ五千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス
前項ノ絶縁力ハ毎年一回以上之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録スヘシ

第七十八條 第一條第一號ノ電氣事業者ハ故ナク電氣供給時間ヲ短縮シ又ハ供給スヘキ一定電壓ヲシテ百分ノ四以上ノ變動ヲ起サシムヘカラス但シ技術上已ムヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

第七十九條 電氣事業者電線路ニ於テ障害アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ復舊ニ至ル迄送電ヲ中止スヘシ

第八十條 修繕其ノ他ノ原因ニ因リ一時間以上送電ヲ中止スルトキハ關係需用者ニ通知シ急遽ノ場合ヲ除クノ外之ヲ豫告スヘシ

第八十一條 屋内ニ送電スル電壓ハ直流式ニ在リテハ五百「ヴォルト」交流式ニ在リテハ二百五十「ヴォルト」ヲ超過スヘカラス但シ此制限ヲ超過

シテ送電セムトスルトキハ工事方法ヲ具シ通信局長官ニ認可ヲ申請スヘシ
前項ノ規定ハ發電所、變壓所及配電所内ニ之ヲ適用セス

第三節 電氣鐵道

第八十二條 架空電車線ニハ直徑二分五厘ノ圓形ノ硬銅線若ハ之ト同等以上ノ強力ヲ有スル電線ヲ用ウヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十三條 歸線單線式電氣鐵道ノ軌條又ハ中軌條ノ中間若ハ外側一尺以内ニ敷設スル部分ヲ除クノ外大地ヨリ絶縁スルコトヲ要ス但シ他ニ障害ヲ及ホスノ虞ナシト認ムル場合ニハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
第八十四條 單線式電氣鐵道ヲ施設スル場合ニ於テ地中ニ金屬體ノ施設アルトキハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限りニ在ラス

一 歸線ノ絶縁セサル部分ハ地中施設ノ金屬體ヨリ四尺以上離隔スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テ通信局長官ノ認可ヲ受ケ其ノ部分ト金屬體トノ間ニ不導體ノ離隔物ヲ設ケ電流ヲシテ地中四尺以上流通セシムルノ施設ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

二 歸線ト其近傍ニ在ル金屬體トノ間ニ電流ノ通スル場合ニ於テ其ノ方向歸線ヨリ金屬體ニ向テ流ルルトキハ兩者間ノ電壓ノ差四、五「ヴォルト」金屬體ヨリ歸線ニ向テ流ルルトキハ兩者間ノ電壓ノ差一、五「ヴォルト」ヲ超過セシムヘカラス

三 歸線ハ發電機ノ消極ニ接続スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ通信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

四 軌鐵ハ電氣的完全ナル接続ヲ爲スヘシ軌線ノ外一平方寸ノ百分ノ四以上ノ切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル補助線ヲ敷設スヘシ

五 軌鐵ハ電氣的完全ナル接続ヲ爲スヘシ軌線ノ外一平方寸ノ百分ノ四以上ノ切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル補助線ヲ敷設スヘシ

六 軌條ノ中間若ハ外側一尺以内ニ敷設シタル補助線ハ長サ一百尺以下毎ニ一平方寸ノ百分ノ三以上ノ切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル他ノ方法ヲ以テ軌鐵ト接続スヘシ

七 歸線ノ絶縁セサル部分中ニ生スル電位ノ差ハ七「ヴォルト」ヲ超過セシムヘカラス

第八十五條 前條ノ場合ニ於テハ歸線ノ絶縁セサル部分ニ起ルヘキ電位ノ差及第八十六條ニ規定スル兩地板ト發電機ノ接地シタル一極トノ接続ニ依リテ流ルル電流ヲ常ニ自働的ニ記録スルノ裝置ヲ爲シ其ノ最大電位ノ差及最大電流ヲ毎日記録スヘシ

第八十六條 第八十四條ノ場合ニ於テハ發電機ノ一極ヲ接地シタル點ノ近傍ニ二箇ノ地板ヲ埋設シ且四「ヴォルト」以下ノ電壓ヲ用キテ兩地板間ニ二「アムペア」以上ノ電流ヲ發セシムル様之ヲ施設シ少クモ毎月一回以上之ヲ試験シ其成績ヲ記録スヘシ

前項ノ接地點ハ金屬體ヨリ六尺以上ヲ隔ツル所ニ施設シ埋設スヘキ地板ノ距離ハ十間以上ト爲スコトヲ要ス

前二項ニ適合スル地板ノ埋設地ヲ得難キ場合ニハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十七條 電車線及之ニ接續スル電路中ノ絕緣シタル部分ノ絕緣力ハ其ノ漏洩電流鐵道一里ニ付「アムペア」ノ三十分ノ一ヲ超過セサル様維持スヘシ若其ノ漏洩電流鐵道一里ニ付「アムペア」ヲ超過シ二十四時間ヲ過クルモ之ヲ除去スルコト能ハサルトキハ直ニ電車ノ運轉ヲ中止スヘシ

高壓電路ノ架空部分及絕緣電路ノ地中ニ施設シタル部分ノ大地トノ絕緣力ニ付テハ第六十九條第一項ノ規定ヲ準用ス

土地ノ狀況ニ依リ危險又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ニハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十八條 前號第一項ノ漏洩電流ハ毎日一回使用最大高壓ヲ用キ、前條第二項ノ絕緣力ハ毎月一回之ヲ試驗シ其成績ヲ記録スヘシ

第八十九條 歸線ト金屬體トノ電氣的接續ヲ爲スノ必要アル場合ニハ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タル後通信局長官ニ認可ヲ申請スヘシ其ノ接續ハ最モ良好ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル様施設シ三月毎ニ一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記録スヘシ

第九十條 電車線ハ十町以内ノ區劃ニ分チ非常其ノ他道路ニ故障ノ起リタル場合ニ於テ容易ニ送電ヲ遮斷シ得ル様施設スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ通信局長官ノ認可ヲ受ケ此制限ニ依ラサルコトヲ得

第九十一條 架空ノ電車線ニハ其ノ上部二尺以上ノ距離ニ於テ完全ニ接地シタル強力ナル金屬線ヲ架設シ若ハ他ノ適當ナル方法ヲ設ケ電信線、電話線又ハ電氣信號線トノ電氣的混觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スヘシ但シ電車線ノ上部ニ於テ之

ト交又若ハ接近シテ電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ架設ナキ場所ニ在リテハ其ノ架設ニ至ル迄此ノ裝置ヲ爲サルコトヲ得前項ノ金屬線ハ二條以上ニシテ其ノ相互間ノ距離ハ二尺五寸以下、其ノ電車線ノ外部ニ張出スル距離ハ一尺以上ト爲スヘシ尙單線式電氣鐵道ニ在リテハ其ノ金屬線ト大地トノ抵抗ハ電車線ト金屬線ト混觸ヲ生スルトキ直ニ電車線ニ送電スル電路ノ自働遮斷器ヲシテ働作セシムルモノナルコトヲ得ス

危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第九十二條 電車線ニ使用スル電氣ハ直流式低壓ナルコトヲ要ス但シ通信局長官ノ認可ヲ受ケ高壓又ハ交流式ノ電氣ヲ使用スルコトヲ得

第九十三條 電車内ニ施設スル電線ニ付テハ七十二條乃至第七十七條ノ規定ヲ準用ス

第九十四條 電車ニハ特別ノ場合ヲ除クノ外其前部及後部ニ制御機ヲ設ケヘシ

第九十五條 電車ハ使用開始後少クモ一年毎ニ一回電動機其ノ他ノ各部ヲ檢査シ同時ニ電氣上ノ試驗ヲ爲シ其ノ成績ヲ記録スヘシ一年內ト雖重要ナル修繕ヲ施シタルトキ亦同シ

第九十六條 毎日運轉スル電車數及其ノ使用スル最大ノ電流及電壓ハ之ヲ記録スヘシ

第六章 監査、試驗、改修及停止並許可、認可ノ失効及取消

第九十七條 通信局長官ハ吏員ヲシテ電氣工作物若ハ事業經營ノ實況ヲ監査セシメ又ハ電氣事業者ニ命シ現ニ使用シ若ハ使用セムトスル機械、器具及物品ノ見本ヲ差出サシメ其ノ試驗ヲ爲スコトアルヘシ

前項ノ監査ニ係ル試驗費用又ハ見本ノ運搬ニ要スル費用並試驗ニ因リ生スル損害ハ電氣事業者ノ負擔トス

第九十八條 通信局長官ハ電氣事業者ノ施設ニ係ル工作物ニシテ他ニ障害ヲ及ホシ又ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ其ノ改修、撤去又ハ使用ノ

停止ヲ命スルコトアルヘシ

第九十九條 左ノ場合ニハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

一 指定期間内ニ第十三條ノ工事施行認可ノ申請ヲ爲ササルトキ

二 指定期間内ニ第十三條ノ認可ヲ受ケタル工事ニ著手セサルトキ

第一百條 左ノ場合ニハ朝鮮總督ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一 六月以上送電ヲ中止シタルトキ

二 指定期間内ニ第十六條又ハ第十九條ノ認可ヲ受ケタル工事ニ著手セサルトキ

三 第十三條、第三十六條又ハ第十九條ノ認可ヲ受ケタル工事ヲ落成期限内ニ落成セシメサルトキ

第一百一條 主任技術者ノ曠缺スルコト四月以上ニ亘ルトキハ朝鮮總督ハ其ノ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消シ又ハ其ノ電氣工作物ノ使物ヲ停止スルコトアルヘシ

第一百二條 前二條ノ外電氣事業者本令ノ條項ニ違

背シ又ハ本令ニ依リテ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ朝鮮總督ハ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消シ又ハ其ノ電氣工作物ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第一百三條 電氣事業者使用認可證ノ下付ヲ受ケタル日ヨリ六月以内ニ其ノ電氣工作物ヲ使用セサルトキ又ハ六月以上其ノ使用ヲ中止スルトキ若ハ使用ヲ廢止シタルトキハ其ノ使用認可證ヲ下付シタル官廳ニ於テ其ノ電氣工作物ノ撤去ヲ命スルコトアルヘシ電氣事業者電氣事業ヲ廢止シ又電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消サレタル場合亦同シ

第七章 罰則

第一百四條 第十條又ハ第十二條ノ許可ヲ得ヌ又ハ第十三條、第十五條、第十六條、第十九條若ハ第二十一條ノ認可ヲ受ケスシテ其ノ工事ニ著手シタル者
第二十七條ノ許可ヲ受ケスシテ電氣事業ヲ讓渡

若ハ讓受シタル者第三十條ノ許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタル者並第十八條、第二十二條、第二十三條、第三十八條、第七十八條若ハ第九十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五條 左ニ掲クル者ハ科料ニ處ス
一 第十五條、第十六條、第二十條、第二十一條、第二十四條乃至第二十七條、第三十五條、第四十條又ハ第四十二條ノ届出ヲ爲ササル者

二 第三十條ノ書類又ハ圖面ノ提出ヲ爲ササル者

三 第八十九條ノ認可ヲ受ケスシテ同條規定ノ施設ヲ爲シタル者

四 第五十四條、第五十六條、第六十四條、第六十五條、第六十八條、第七十一條、第七十九條乃至第八十一條又ハ第八十八條ノ規定ニ違反シタル者

五 第六十九條、第七十七條、第八十五條、第

八十六條、第八十八條、第八十九條、第九十五條又ハ第九十六條ノ記録ヲ爲ササル者

第八章 官廳施設電氣事業

第一百六條 官廳ニ於テ電氣事業ヲ施設セムトスルトキハ工事施行前第十五條ニ準シ書類及圖面ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ其ノ書類及圖面中ノ事項ヲ變更スル場合亦同シ

第一百七條 前條ノ電氣事業ニ關スル電氣工作物落成シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ報告シ其ノ使用ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第一百八條 第一百六條ノ電氣事業ニ關シテハ第二十四條、第二十五條、第四十三條乃至第六十五條、第六十七條乃至第七十七條、第八十一條乃至第九十六條ノ規定ヲ準用ス

附則

第一百九條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第一百十條 本令施行ノ際既ニ施設シ又ハ現ニ使用スル電氣工作物ハ本令ニ依リ其ノ施設使用ヲ許

○水力發電使用ニ關スル申請

(明治四十二年八月七日) 各府縣廳ニ訓令

發電ノ原動力ニ供スル水力發生ノ爲メ出願セル水ノ使用ヲ許可セントスルトキハ水力百馬力未滿ノモノヲ除外電氣起業ノ目的并ニ水力ニ關スル設計ノ大要及ヒ圖面ヲ具シ豫メ遞信大臣ニ稟伺スヘシ使用權ノ讓渡其他事業ニ著シキ變更ヲ許可セントスルトキ亦同シ

○河水引用出願手續

(明治四十三年四月一日) 長野縣令第十五號

第一條 水力電氣ノ發生ニ供スル目的ヲ以テ河水ヲ引用スル者ハ左ノ各號ノ書類及圖面貳通ニ保證金ヲ添ヘ當廳ニ出願スヘシ

可又ハ認可セラレタルモノト看做ス
前項ノ電氣工作物中本令ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ電氣事業者ハ本令施行ノ日ヨリ三年內ニ本令ノ規定ニ適合セシメ朝鮮總督ニ届出ツヘシ但シ三年ノ期間內ト雖第六十六條及第九十八條ニ依ル命令ノ效力ヲ妨ケス
第百十一條 前條ノ工作物ヲ有スル電氣事業者ハ本令施行ノ日ヨリ六月內ニ其ノ電氣工作物ニ付第十四條第一項又ハ第二項ニ該當スル事項、改修ヲ要スル事項、改修ノ方法及期間ヲ詳記シ朝鮮總督ニ届出ツヘシ
朝鮮總督ハ前項ノ改修方法ヲ指定シ又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ
第百十二條 本令施行前電氣事業ノ許可又ハ認可ヲ受ケタル者ニシテ未タ其ノ工事ニ著手セサルモノハ本令施行ノ日ヨリ六月內ニ第十四條第一項又ハ第二項ニ該當スル事項ヲ詳記シ朝鮮總督ニ認可ヲ申請スヘシ其ノ工事ニ著手シ未タ落成セサルモノ亦同シ

但シ發電水力百馬力未滿ノモノニアリテハ使用河水ノ水量測定ニ關スル書類並ニ圖面ヲ省略スルコトヲ得

第一 電氣起業概要

- (一) 起業者ノ氏名
- (二) 目的並河水引用期間
- (三) 供給區域又ハ鐵道若クハ軌道經過地並ニ其圖面(縮尺二十萬分ノ一)
- (四) 發電力(ワット)數

第二 水路工事

- (一) 河川名並取入口及水路ノ位置
- (二) 使用水量(毎秒時ニ付立方尺)濁水時ノ水量ヲ超過シテ水ヲ使用セムトスル場合ニハ其ノ事由ヲ附記シ若シ灌溉用水其ノ他ノ水利ニ影響ヲ有スル場合ニハ參考トシテ之ニ要スル水量其ノ他ノ關係ヲモ記載スルコト
- (三) 有效落差
- (四) 馬力數(使用水量及有效落差ヨリ計算シタル理論馬力數)

河水引用出願手續

- (五) 水路工事説明ノ大要
- (六) 水路測圖(縮尺二萬分ノ一以上トシ取入口水路發電所用水路ノ位置其他使用河水トノ關係ヲ明瞭ニ記載セルモノ)

第三 使用河水ノ水量測定

- (一) 流域ノ面積並ニ圖面(縮尺五萬分ノ一乃至二十萬分ノ一)
- (二) 流域ニ於ケル植林狀態(裸地耕林野ノ面積歩合等)
- (三) 雨量觀測表(附近觀測所ノ調査ニシテ成ルヘク五年以上ニ亘ル物)
- (四) 水路工作物附近地ニ於ケル流水量ノ測定其ノ方法及時期並ニ測定場所ノ橫斷面圖(測定ハ成ルヘク前後地形同一ノ場所ヲ選ミ異リタル數種ノ方法ニ依リ且濁水時ニ於テ數回之ヲ行フコト)
- (五) 發電所及取入口附近ニ於ケル最高最低及平水位
- (六) 使用河川ノ勾配河床(取入口ノ上流一千間

書様式略ス

○電氣測定法

(明治四十三年三月廿五日) 法律第二十六號

ノ地點ヨリ放水路ノ下流一千間ノ地點ニ亘ル使用河川本流ノ勾配竝ニ其ノ河床ノ状態ヲ記載スルコト)

水量測定ニ關スル擔當技術者名ヲ附記スルコトヲ要ス

第四 工事費概算 (別紙様式ニ依ル)

第二條 保證金ハ出願者見積總工費額ノ二百分ノ一トシ現金又ハ其ノ金額ニ相當スル國債證券、地方債證券、興業債券、勸業債券、貯蓄債券ヲ以テ納付スヘシ保證金ハ許可又ハ却下ノ際之ヲ返付ス

第三條 出願ノ計畫不適當ナルカ若クハ其ノ成業ノ見込確實ナラスト認ムルトキハ河水引用許可書ヲ交付セサルコトアルヘシ

附 則

第四條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 本令施行以前ニ出願シ未タ許可ヲ得サルモノハ本令ノ規定ニ依リ書類ヲ整備シ明治四十三年八月三十一日迄ニ差出スヘシ(工事費概算

第一條 電氣ノ測定ニ於テハ電氣抵抗ハ「オーム」、「電流ハ「アンペア」、電壓ハ「ヴォルト」、電力ハ「ワット」ヲ以テ單位トス

第二條 「オーム」ハ氷ノ融解溫度ニ於テ質重一四、四五二一グラム、長サ一〇六、三〇〇センチメートルニシテ均一ナル切斷面積ヲ有スル水銀柱ノ不變電流ニ對スル電氣抵抗ヲ謂フ

第三條 「アンペア」ハ硝酸銀ノ水溶液ヲ通過シ每秒〇、〇〇一一一八〇〇グラムノ銀ヲ分離スル不變電流ヲ謂フ

第四條 「ヴォルト」ハ「オーム」ノ電氣抵抗ヲ有スル導體ニ「アムペア」ノ不變電流ヲ發生セシムル爲要スル不變電壓ヲ謂フ

第五條 「ワット」ハ「ヴォルト」ノ電壓ニ於テ「アンペア」ノ不變電流ニ依リ每秒費サルル電氣勢力ヲ以テ表示スル電力ヲ謂フ

第六條 本法ニ依ル電氣單位ハ主務官廳ニ保管スル標準器ニ依リ之ヲ現示ス

第七條 電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ハ檢定ヲ受クヘシ

電氣計器ノ公差及檢定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル電氣計器ヲ電氣ノ取引ニ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 檢定ヲ受ケサルモノ

二 檢定ニ合格セサルモノ

三 檢定ノ效力ヲ失ヒタルモノ

第九條 電氣ノ取引ニ於テ其ノ計量ヲ詐ルノ目的ヲ以テ不正ニ電氣計器ヲ使用シタル者ハ罰前條ニ同シ

第十條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ

本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第十一條 電氣單位ノ倍數及分數ノ稱不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方法并ニ第一條ニ掲ケタル以外ノ電氣單位ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

附 則

本法ハ第七條及第八條ヲ除クノ外明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七條及第八條ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條及第八條施行前ヨリ引續キ電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ニ付テハ別ニ勅令ヲ以テ定ムル期間第八條ノ規定ヲ適用セス

第七條及第八條施行前ニ於テ命令ノ定ムル所ニヨリ主務官廳ノ試験ニ合格シタル電氣計器ハ本法ノ檢定ニ合格シタルモノト看做ス

○電氣計器試験規則

(明治四十三年十二月廿七日) 遞信省令第百十六號

第一條 電氣測定法附則第四項ノ電氣計器ノ試験ハ本令ニ依リ之ヲ行フ

第二條 前條ノ試験ヲ受ケムトスル者ハ其ノ電氣計器ノ型式ニ付豫メ試験ヲ受ケ承認ヲ經ルコトヲ要ス但シ遞信大臣ノ既ニ承認セル型式ノ者ハ此限ニ在ラス

遞信大臣ノ承認セル電氣計器ノ型式ハ之ヲ告示ス

第三條 電氣計器ノ試験ヲ受ケムトスルモノハ第一號又ハ第二號書式ニ依ル申請書ニ電氣計器ヲ添ヘ之ヲ電氣局電氣試験所ニ提出スヘシ但シ型式ノ試験ヲ受ケムトスルモノハ同種ノ計器五箇並其ノ説明書及構造明細圖ヲ提出スヘシ

第四條 前條ノ電氣計器ニハ其外面其ノ他適當ノ箇所ニ製造者名、製造番號、電流ノ種類、電氣方式電壓及容量又ハ電流並交流ノ場合ニ在リテハ周波數ヲ表示スヘシ

第五條 第一條ノ試験ノ爲提出スル電氣計器ハ鉛ヲ以テ封印シ得ル構造ヲ有スル外面ヲ具備シ且

封印ヲ剝離セスシテ電路ニ接続シ得ル様裝置シタルモノタルヘシ

第六條 第一條ノ試験ニ於テ電氣計器ノ公差ハ百分ノ四ヲ限度トス

第七條 第一條ノ試験ニ合格セル電氣計器ニハ封印ヲ爲シ其申請者ニハ合格證明書ヲ交付ス

第八條 前條ノ試験合格ノ有効期間ハ證明書發行ノ日ヨリ五年トス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ期間内ト雖モ試験合格ハ其ノ効力ヲ失フ

一 封印ヲ失ヒ又ハ毀損シタルトキ

二 公差ノ限度ヲ超過シタルトキ

第十條 合格證明書ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ其複本ノ下付ヲ申請スルコトヲ得

第十一條 電氣計器ノ試験手数料及試験合格證明書ノ複本作製手数料ハ左ノ區別ニ依リ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

一 電氣計器ノ試験手数料
基本手数料 計器一箇ニ付 金 三圓

計器ノ最大電流ニ依リ一箇ニ付左ノ手数料ヲ附加ス

五「アマペア」未滿	金 一圓
五「アマペア」以上	金 一圓五十錢
十「アマペア」未滿	金 二圓
十「アマペア」以上	金 三圓
二十「アマペア」未滿	金 三圓
二十「アマペア」以上	金 四圓
五十「アマペア」未滿	金 四圓
五十「アマペア」以上	金 四圓
百「アマペア」未滿	金 四圓
百「アマペア」以上	金 四圓

百「アマペア」以上	金 五圓
二 型式ノ試験手数料	金 七十五圓
三 試験合格證明書ノ複本作製手数料	金 二十五圓
第十二條 電氣計器ノ運搬及荷造ニ要スル費用ハ試驗申請者ノ負擔トス	
附 則	
本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス	

第一號書式

電氣計器試驗申請書

收入印紙

貼付シタル收入印紙ノ類

金何圓何拾錢

- 一、計器ノ型 (電動機型、誘導型其ノ他ノ區別並製造者ノ型ノ記號)
- 二、計器ノ種類 (積算電力計、積算電量計等ノ區別、直流、交流ノ區別、單相式、多相式ノ區別、二線式、三線式ノ區別、電壓、容量(又ハ電流)、周波數)
- 三、計器ノ定數
- 四、計器ノ製造者名
- 五、計器ノ製造番號

電氣計器試驗規則

六、計器ノ箇數
右試驗申請候也

年 月 日

逓信大臣宛

住 所

名 印(或ハ會社名)

第二號書式

電氣計器型式試驗申請書

收入
印紙

貼付シタル收入印紙ノ額

金何圓何十錢

- 一、計器ノ型 (電動機型 誘導型其ノ他ノ區別並製造者ノ型ノ記號)
 - 二、計器ノ種類 (積算電力計、積算電量計等ノ區別、直流、交流ノ區別、單相式、多相式ノ區別、二線式、三線式ノ區別、電壓、容量(又ハ電流)、周波數)
 - 三、計器ノ定數
 - 四、計器ノ製造者名
 - 五、計器ノ製造番號
 - 六、計器ノ箇數
- 右試驗申請候也

年 月 日

逓信大臣宛

住 所

名 印(會社名)

○電氣測定法第十一條ニ依ル電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱、不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力計算方法並同法第一條ニ掲ケタル以外ノ電氣單位

(明治四十三年十二月廿七日) 逓信省令第十七號

- 第一條 電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱左ノ如シ
- 「メグオーム」 「オーム」ノ百萬分ノ一
 - 「マイクロオーム」 「オーム」ノ千分ノ一
 - 「キロオームベア」 「アムベア」ノ千倍
 - 「ミリアムベア」 「アムベア」ノ千分ノ一
 - 「マイクロアムベア」 「アムベア」ノ百萬分ノ一
 - 「キロヴォルト」 「ヴォルト」ノ千倍
 - 「ミリヴォルト」 「ヴォルト」ノ百萬分ノ一
 - 「キロワット」 「ワット」ノ千倍
 - 「マイクロクーロム」 「クーロム」ノ百萬分ノ一
 - 「マイクロフアラツト」 「フアラツト」ノ百萬分

- 一 「ミリヘンリー」 「ヘンリー」ノ千分ノ一
- 「マイクロヘンリー」 「ヘンリー」ノ百萬分ノ一
- 「ワット」時 「ジュール」ノ三千六百倍
- 「キロワット時」 「ワット」時ノ千倍
- 第二條 不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方法左ノ如シ
- 一 不變電流以外ノ場合ニ於ケル實効電流ノ不變電流及實効電壓ニ對スル等價ハ其ノ瞬時値ノ自乗ノ平均ノ平方根ヲ以テ定ム
 - 二 不變電流「アムベア」ニ相當スル實効電流ヲ「實効」アムベアト稱シ不變電流「ヴォルト」ニ相當スル實効電壓ヲ「實効」ヴォルトト稱ス
 - 三 電力ハ其ノ瞬時値ノ平均ヲ以テ定ム
- 第三條 電氣測定法第一條ニ掲ケタル以外ノ電氣單位左ノ如シ
- 一 電量ハ「クーロム」ヲ以テ單位トス

電氣測定法第十一條ニ依ル電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱、不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力計算方法並同法第一條ニ掲ケタル以外ノ電氣單位

ノ標準器仕様細目

(明治四十三年十二月二十七日) 遞信省告示第五百三十三號

第一 電氣抵抗單位ノ標準器仕様細目
 電氣抵抗ノ標準器ニ使用スル玻璃管ハ可成寸法不変ナル玻璃ヲ以テ製作シ良ク燒純シ且眞直ノモノニシテ管ノ孔ハ可成一様ナル圓形ノモノトス
 孔ノ切斷面積ハ約一平方「ミリメートル」ニシテ水銀ノ抵抗ハ約一「オーム」トス
 各管ハ精密ニ度盛チナシ管ノ各部ニ於ケル孔ノ切斷面積ノ不等ニ對スル更正ハ一萬分ノ五ヲ超過セサルモノトス
 玻璃管ニ填充スル水銀ハ管ノ兩端ニ接シテ設ケタル平面ニヨリ區割セラレタルモノト假定ス
 管ノ軸ノ長サ、管ニ填充スル水銀ノ質量及其ノ電氣抵抗ハ可成攝氏零度ニ近キ溫度ニ於テ測定シ之ヲ攝氏零度ノ場合ニ換算ス
 管ノ各端ニハ電氣測定ノ爲電流用及電壓用ノ接

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○電氣測定法第六條ニ依ル電氣單位

附則

續點ヲ有スル端器ヲ取付ケ其ノ端器ハ球狀(直徑約二「センチメートル」)ニシテ管ト接續スル爲圓筒片ヲ備ヘ管ノ各端ノ外縁ハ球狀端器ノ内面ト一致セシム
 水銀ニ接セル導線ハ玻璃内ニ融著セル細キ白金線ニシテ電流用導線ハ管ノ端ト直徑上正反對ノ位置ニ於テ端器ニ入り又電壓用導線ハ其ノ中央ニ裝置ス
 總テノ導線ニハ細キモノヲ用ヒ之ニ依リ水銀ニ熱ヲ導キ電氣抵抗ノ誤差ヲ生スル事ナカラシム
 電氣抵抗測定ノ場合ニ於ケル管ノ水銀填充ハ質量測定ノ場合ト同一狀態ニ於テナス
 端器使用ノ爲水銀柱ノ電氣抵抗ニ附加スヘキ抵抗ハ左ノ公式ニヨリ計算ス

$$A = \frac{0.80}{1063\pi} \left(\frac{1}{r_1} + \frac{1}{r_2} \right) \text{「オーム」}$$
 式中 r_1 及 r_2 ハ管孔端ノ截面ノ半徑ヲ「ミリメートル」ニテ表シタルモノトス

電氣抵抗單位ノ値ヲ定ムルニハ少クモ五本ノ管ニ依リ計算セル抵抗ノ平均値ヲ用フ
 各水銀管ト抵抗トヲ比較スルニハ其ノ管ノ水銀填充ヲ測定毎ニ更新シテ三度以上ノ測定ヲナス
 第二 電流單位ノ標準器仕様細目
 電氣分離ニ使用スル溶液ハ重量ノ割合ニ於テ蒸溜水百ニ對シ硝酸銀十五乃至二十ヲ溶解セルモノニシテ其ノ使用ハ一回ニ限り且銀ノ分離量ヲ百分ノ三十以上ニ達スル事ナカラシム「アノード」ハ銀又「カソード」ハ白金ニシテ使用電流ノ密度ハ每平方「センチメートル」ニ付「アノード」ニ在リテハ五分ノ一「アムペア」以下「カソード」ニ在リテハ十分ノ一「アムペア」以下トス又溶液ハ百立方「センチメートル」トス

○電氣測定法第七條及第八條施行期日

(明治四十四年十二月廿七日)
勅令第二百九十五號

電氣測定法第七條及第八條ノ規定ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
電氣測定法附則第三項ノ期間ハ前項ノ日ヨリ三年トス

○電氣計器ノ公差檢定及檢定手数料ニ關スル件

(明治四十四年十二月廿七日)
勅令第二百九十六號

第一條 電氣計器ノ公差ハ百分ノ四トス
第二條 檢定ヲ行ヒタル電氣計器左ノ各號ニ該當スルトキハ之ヲ合格トス
一 公差ヲ超エサルモノ
二 主務大臣ノ承認シタル型式ニ適合スルモノ

三 主務大臣ノ定ムル裝置及動作ニ關スル規定ニ適合スルモノ
特別ノ事由アル場合ニ於テハ前項第二號ニ適合セサル電氣計器ト雖特殊ノ試験ヲ行ヒ之ヲ合格ト爲スコトヲ得
第三條 主務大臣電氣計器ノ型式ヲ承認シタルトキハ之ヲ告示ス
第四條 檢定ニ合格シタル電氣計器ニハ封印ヲ爲シ其ノ檢定申請者ニ檢定合格證書ヲ交付ス
第五條 檢定ノ有効期間ハ檢定合格證書ノ日付ヨリ五年トス
第六條 電氣計器左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ檢定ハ其ノ效力ヲ失フ
一 封印ノ破損シタルトキ
二 第二條第一號又ハ第三號ニ該當セサルニ至リタルトキ
第七條 電氣計器ノ型式承認又ハ檢定ノ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付スヘシ
一 型式承認ノ申請ヲ爲ストキ

甲 積算電氣計器

一件ニ付 金七十五圓

乙 最大負荷表示器

一件ニ付 金二十圓

二 承認シタル型式ノ主要部分ニ非サル部分ヲ變更シテ更ニ型式承認ノ申請ヲ爲ストキ

甲 積算電氣計器

一件ニ付 金二十五圓

乙 最大負荷表示器

一件ニ付 金十圓

三 第二條第一項ノ檢定ノ申請ヲ爲ストキ

甲 積算電氣計器

一箇ニ付 金二圓

イ 基本手数料

電氣計器ノ規定電流及電壓ニ依リ左ノ手数料ヲ附加ス

規定電流ニ依ル附加手数料

十「アマペア」以下 金一圓

二十「アマペア」以下 金二圓

電氣計器ノ公差檢定手数料ニ關スル件

五十「アマペア」以下 金三圓

百「アマペア」以下 金四圓

三百「アマペア」以下 金六圓

五百「アマペア」以下 金八圓

千「アマペア」以下 金十二圓

二千「アマペア」以下 金十七圓

三千「アマペア」以下 金二十二圓

規定電壓ニ依ル附加手数料

規定電壓三百「ヴォルト」ヲ超過スルモノニ在リテハ千「ヴォルト」以下ヲ

増ス毎ニ金一圓

乙 最大負荷表示器

甲號ノ手数料ノ四分ノ一

四 第二條第二項ノ檢定ノ申請ヲ爲ストキ前號ノ手数料ノ二倍

五 承認シタル型式ニ適合スル積算電氣計器ニシテ主務大臣ノ定ムル誤差ノ檢定ニ關スル規定又ハ始動電流ニ關スル規定ニ適合セサル爲不合格ト爲リタルモノヲ修繕又ハ調製

ヲ爲シタル後更ニ檢定ノ申請ヲ爲ストキ
 百「アムペア」以下 金 一圓
 千「アムペア」以下 金 二圓
 三千「アムペア」以下 金 四圓

電氣計器ノ檢定ノ有効期間内ニ於テ再封印ノ申請ヲ爲ス者ハ前項第五號ノ場合ト同額ノ手数料ヲ納付スヘシ

第一項ニ掲ケサル形式承認及檢定ノ申請手数料ハ第一項ノ規定ニ準シ主務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前主務大臣ノ告示シタル電氣計器ヲ型式ノ承認ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

○電氣計器檢定規則

(明治四十四年十二月廿八日)
 遞信省令第五十號

第一條 電氣計器型式ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ申請書(第一號書式)ニ同一ノ型式及容量ノ計器(附屬器具共)五箇竝其ノ説明書及圖面ヲ添ヘ遞信省電氣局電氣試驗所ニ提出スヘシ

第二條 前條ノ説明書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 計器ノ構造及働作

- (甲) 電動機型又ハ誘導型電氣計器ニ在リテハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- (イ) 電壓及電流捲線(配置、材料、捲數、大サ及抵抗)
- (ロ) 磁路(配置及材料)
- (ハ) 廻轉圓板(配置材料及構造)
- (ニ) 車軸及地承(材料及構造)
- (ホ) 制動磁石(配置方法、材料及取附)



(ヘ) 相ノ調整裝置、重負荷及輕負荷ノ調整裝置竝「クリーピング」防禦裝置(配置、材料及調整方法)

(ト)「キロワット」時數又ハ「アムペア」時數指示裝置(配置、構造及齒車裝置ノ係數)

(チ) 外函及端子函(形狀及材料)

(リ) 可動部分ノ緊束裝置(配置及構造)

(ヌ) 前記各部ノ動作ノ大要

(乙) 前記以外ノ計器ニ在リテハ(イ)乃至(ヌ)ニ準シ記載スヘシ

二 同一型式計器ノ測定範圍(同一型式計器ニ規定スル電壓、電流、周波數及電氣方式竝負荷ノ性質、變壓器、變流器其ノ他附屬器具ノ有無等)

三 計器取扱上ノ注意

四 前各號以外ニ於テ特徵ト認ムヘキ事項
 前條ノ圖面ハ左ノ二種トシ用紙ニハ原圖紙(長サ約七寸五分幅約五寸)ヲ用ウヘシ

一 計器電線接續圖

二 計器構造圖(縮尺四分ノ一乃至二分ノ一)

第三條 承認ヲ經タル型式ノ一部分ヲ變更スル場合ト雖遞信大臣ニ於テ其ノ變更カ型式ノ主要部分ニ非スト認ムルモノニ限リ其ノ繼續承認ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ申請書(第二號書式)ニ計器(附屬器具共)一箇竝其ノ變更事項ヲ記載セル書類及圖面ヲ添ヘ遞信省電氣局電氣試驗所ニ提出スヘシ

遞信大臣ニ於テ型式ノ試驗ヲ必要ト認メ其ノ旨申請者ニ指示シタルトキハ申請者ハ前項ノ申請書ニ同一ノ型式及容量ノ計器(附屬器具共)一箇ヲ添付スヘシ

第四條 電氣計器ノ檢定ヲ受ケムトスル者ハ申請書(第三號書式)ニ計器(附屬器具共)ヲ添ヘ遞信省電氣局電氣試驗所ニ提出スヘシ

明治四十四年勅令第二百九十六號第二條第二項ニ依リ電氣計器ノ特殊試驗檢定ヲ受ケムトスル者ハ申請書(第四號書式)ニ計器(附屬器具)竝第

二條ニ準シ調製セル説明書及圖面ヲ添へ遞信省電氣局電氣試驗所ニ提出スヘシ

第五條 積算電氣計器ノ誤差ノ試驗ハ左ノ方法ニ依ル

一 規定電壓ニ於テ(交流ノ場合ニ在リテハ規定電壓、規定周波數及無誘導負荷ニ於テ)規定電流竝其ノ二分ノ一及其ノ十分ノ一ヲ以テ試験ス

二 規定電壓、規定電流及規定周波數ニ於テ力率二分ノ一ヲ以テ試験ス但シ特ニ無誘導負荷ニ限リ使用スル計器ニ在リテハ本號ノ試験ヲ省略ス

第六條 第四條ニ依リ提出セル積算電氣計器ノ始動電流ハ規定電壓ニ於テ(交流ノ場合ニ在リテハ規定電壓、規定周波數及無誘導負荷ニ於テ)規定電流三「アムペア」以下ノモノニ在リテハ規定電流ノ百分ノ三以下又規定電流三「アムペア」ヲ超過スルモノニ在リテハ規定電流ノ百分ノ二以下タルヘシ

第七條 電氣計器ニハ其ノ外面其ノ他適當ノ箇所ニ製造者名、番號、型ノ記號、電氣方式、電壓及容量(又ハ電流)竝交流ノ場合ニ在リテハ周波數ヲ表示スヘシ

第八條 電氣計器ハ鉛ヲ以テ封印シ得ル構造ヲ有スル外面ヲ具備シ且封印ヲ剝離セスシテ電路ニ接續シ得ル様裝置シタルモノタルヘシ

第九條 檢定ニ合格セル電氣計器ニ施スヘキ封印一封印



表面



裏面

直徑約三分四厘

二 附屬金屬片

15372 表面
(輪廓内ノ數字ハ各計器ノ檢定番號ヲ表ハス)

45.3 裏面
長サ約八分七厘
幅約三分五厘

(輪廓内ノ數字ハ左方ハ年、右方ハ月ヲ表ハス)

檢定合格證書ハ第五號書式ニ依リ調製ス電氣計器ノ檢定ノ有効期間内ニ於テ再封印ヲ爲シタルトキハ遞信省ニ於テ其ノ檢定合格證書ノ裏面ニ其ノ旨ヲ記載ス

第十條 檢定合格證書ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ手数料トシテ證書一通ニ付金二十五錢ヲ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ

第十一條 電氣計器ノ所有者ハ現ニ電氣ノ取引ニ

使用スル計器ノ檢定番號、檢定年月日、製造者名、番號及其ノ種類、格定竝使用場所ヲ記載セル帳簿ヲ備フヘシ

第十二條 電氣計器ノ所有者ハ毎年三月三十一日現在電氣ノ取引ニ使用スル計器ノ箇數ヲ第六號書式ニ依リ四月三十日迄ニ遞信大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 電氣計器ノ檢定ハ申請ニ依リ計器所在地ニ於テ行フコトアルヘシ

第十四條 第十一條又ハ第十二條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則 本令ハ明治四十四年勅令第二百九十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(用紙美濃紙)

電氣計器型式承認申請書

収入印紙

貼附シタル収入印紙ノ額

金 何 圓

一 計器ノ種類

積算電算電力計、積算電量計、最大負荷表示器等ノ區別

二 製造者ノ名

誘導型、電動機型等ノ區別並製造者ノ型ノ記號

三 番 號

直流交流ノ區別、單相式、二相式、三相式等ノ區別、二線式、三線式ノ區別、電壓、容量(又ハ電流)、周波數、負荷ノ性質

四 型 格

五 格 定

右電氣計器檢定規則第一條ニ依リ電氣計器型式ノ承認ヲ申請候也

年 月 日

住 所

逓信大臣宛

申 請 者 名 印

第二號書式(用紙美濃紙)

電氣計器型式繼續承認申請書

収入印紙

貼附シタル収入印紙ノ額

金 何 圓

一 計器ノ種類

積算電力計、積算電量計、最大負荷表示器等ノ區別

二 製造者ノ名

型式ノ承認セラレタル番號

三 番 號

誘導型電動機型等ノ區別並製造者ノ型ノ記號

四 型 格

直流、交流ノ區別、單相式、二相式、三相式等ノ區別、二線式、三線式等ノ區別、電壓、容量(又ハ電流)、周波數、負荷ノ性質

右電氣計器檢定規則第三條ニ依リ電氣計器型式ノ繼續承認ヲ申請候也

年 月 日

住 所

逓信大臣宛

申 請 者 名 印

電氣計器檢定規則

二二三

第三號書式(用紙美濃紙)

電氣計器檢定申請書

収入印紙

貼付シタル収入印紙ノ額

金何圓何十錢

- 一 計器ノ種類
- 二 製造者名
- 三 番 號
- 四 型 式 番 號
- 五 型 式 番 號
- 六 格 定
- 七 係 數
- 八 箇 數
- 九 附 屬 品 器 具

積算電力計、積算電量計、最大負荷表示器等ノ區別

型式ノ承認セラレタル番號

誘導型、電動機型ノ區別並製造者ノ型ノ記號

直流、交流ノ區別、單相式、二相式、三相式等ノ區別、二線式、三線式等ノ區別、電壓、容量(又ハ電流)周波數、負荷ノ性質

右電氣計器檢定規則第四條第一項ニ依リ電氣計器ノ檢定ヲ申請候也

住 所

申 請 者 名 印

年 月 日

逓信大臣宛

第四號書式(用紙美濃紙)

電氣計器特殊試驗檢定申請者

収入印紙

貼付シタル収入印紙ノ額

金何圓何十錢

- 一 計器ノ種類
- 二 製造者名
- 三 番 號
- 四 型 式 番 號
- 五 格 定
- 六 係 數
- 七 箇 數
- 八 附 屬 器 具
- 九 型式承認ヲ受クルコト能ハサル事由

積算電力計、積算電量計、最大負荷表示器等ノ區別

誘導型、電動機型等ノ區別並製造者ノ型ノ記號

直流、交流ノ區別、單相式、二相式、三相式ノ區別、二線式、三線式等ノ區別、電壓、容量(又ハ電流)、周波數、負荷ノ性質

右電氣計器檢定規則第四條第二項ニ依リ電氣計器ノ特殊試驗檢定ヲ申請候也

住 所

申 請 者 名 印

年 月 日

逓信大臣宛

電氣計器檢定規則

二二三

第五號書式

電氣計器檢定合格證書					
檢第 號					
檢定申請者					
計器ノ種類					
計器製造者					
計器番號					
計器番號					
計器ノ型					

電氣方式	計器ノ規格			附屬器具	本證有效期間	本計器ハ電氣測定法第七條ノ檢定ニ合格シタルコトヲ證ス
	電壓	電流	周波數			
流相線式	「ヴォルト」乃至「ヴォルト」	「アマペア」	「サイクル」		自明治 年 月 日 至明治 年 月 日	明治 年 月 日
						遞信省印

電氣計器箇數調

明治 年十二月三十一日未現在

住所----- 計器所有者(氏名)印

計器種類				
製造者名				
番 號	第 號			
型式番號	第 號			
型	型			
電氣方式	流相線式			
格 定	電 壓	「ヴォルト」乃至「ヴォルト」		
	電 流	「アムペア」		
	周波數	「サイクル」		
荷 負 / 質 性	負荷			
附 屬 器 具				
有 效 期 間	自明治 年 月 日 至明治 年 月 日			
檢 定 番 號	號			
備 考				

○指示電力計ノ型式承認及檢定申請
手数料

(明治四十五年七月
逓信省令第三八號)

指示電力計ノ型式承認及檢定申請手数料左ノ通改ム

指示電力計ノ型式承認又ハ檢定ノ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付スヘシ

- 一 型式承認ノ申請ヲ爲ストキ 一件ニ付 金四十圓
 - 二 承認シタル型式ノ主要部分ニ非サル部分ヲ變更シ更ニ型式承認ノ申請ヲ爲ストキ 一件ニ付 金十五圓
 - 三 明治四十四年十二月勅令第二百九十六號同勅令第七條第一項第三條甲ニ定ムル積算電力計器ノ手数料ノ二分ノ一
 - 四 同勅令第二條第二項ノ檢定ノ申請ヲ爲ストキ前項ノ手数料ノ二倍
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○電氣計器型式承認

明治四十三年十二月逓信省令第十六條電氣計器試驗規則第二條ニ依リ型式ヲ承認シタル電氣計器左ノ如シ

- (型式第一號) トムソン、レコーヂング、ワットメーターCS型
米國、ピネラル、エレクトリック、コムパニー製造
- (型式第一號ノ二) トムソン、レコーヂング、ワットメーターCB型
米國、ゼネラル、エレクトリック、コムパニー製造
- (型式第一號ノ三) トムソン、レコーヂング、ワットメーターC型
米國、ゼネラル、エレクトリック、コムパニー製造
- (型式第一號ノ四) トムソン、レコーヂング、ワットメーターC-1

指示電力計ノ型式承認及檢定申請手数料

電氣計器型式承認

「型及〇一〇型
米國、ゼネラル、エレクトリック、コムパニー
製造
(型式第二號)
トムソン、ハイトルク、インダクシオン、メー
ター「型
米國、ゼネラル、エレクトリック、コムパニー
製造
(型式第二號ノ二)
トムソン、ハイトルク、ワットアワー、メーター
「型及「型
米國、ゼネラル、エレクトリック、コムパニー
製造
(型式第二號ノ三)
トムソン、ハイトルク、ワットアワー、メーター
「型
米國、ゼネラル、エレクトリック、コムパニー
製造
(型式第二號ノ四)

トムソン、ハイトルク、インダクシオンメー
ター「型
米國、ゼネラル、エレクトリック、コムパニー
製造
(型式第三號)
フエランチ特許單相交流計器
英國フエランチ、リミットテツト製造
(型式第四號)
ウエスチングハウス單相交流ワット、アワーメ
ーター「型
米國ウエスチングハウス、エレクトリック、エ
ンドマニユファクチュアリングコムパニー製造
(型式第五號)
トムソン、ワットアワー、メーター「型
ゼネラル、エレクトリック、コムパニー製造
(型式第五號ノ二)
トムソン、ワットアワー、メーター「型及
「型
ゼネラル、エレクトリック、コムパニー製造

(型式第六號)
エレクトリック、メーター「型
獨國アルゲマイネ、エレクトリック、ゲゼ
ルシャフト製造
(型式第六號ノ二)
交流エレクトリック、メーター「型
獨國アルゲマイネ、エレクトリック、ゲゼ
ルシャフト製造
(型式第七號)
ワットアワー、メーター「型
獨國シーメンス、シユツケルト、ウエルケ製
造
(型式第八號)
單相交流積算電力計「型及「型
獨國シーメンス、シユツケルト、ウエルケ製
造
(型式第八號ノ二)
交流積算電力計「型
獨國シーメンス、シユツケルト、ウエルケ製造

(型式第八號ノ三)
單相交流積算電力計「型
獨國シーメンス、シユツケルト、ウエルケ製造
(型式第八號ノ四)
單相交流積算電力計「型
獨國シーメンス、シユツケルト、ウエルケ製造
(型式第九號)
單相交流ワットメーター「型
英國ブリチツシユ、ウエスチングハウス、エレ
クトリック、エンド、マニユファクチュアリン
グ、コムパニー製造
(型式第十號)
ハイトルク、インダクシオン、ワットメーター
「型
英國ゼ、ブリヂツシユ、トムソン、ハウストン、
コムパニー製造
(型式第十一號)
フエランチ單相交流ワットアワー、メーター「
型

英國フェランチ、リミツテッド製造
 (型式第十二號)
 直流積算電力計 G15 型
 獨逸シーメンス、シュツケルト、ウエルケ製造
 (型式第十三號)
 三相交流エレクトリシチー、メーター LCG 型
 獨國アルゲマイネ、エレクトリチテーツ、ゲゼ
 ルシャフト製造
 (型式第十四號)
 直流積算電力計 DG 型
 獨國アルゲマイネ、エレクトリチテーツ、ゲゼ
 ルシャフト製造
 (型式第十五號)
 交流エレクトリシチー、メーター LWa 型
 獨國アルゲマイネ、エレクトリチテーツ、ゲゼ
 ルシャフト製造
 (型式第十六號)
 三相交流エレクトリシチー、メーター Da 型

獨國アルゲマイネ、エレクトリチテーツ、ゲゼ
 ルシャフト製造
 (型式第十七號)
 三相交流積算電力計 W2da 型及 W2Bda 型
 獨國シーメンス、シュツケルト、ウエルケ製造
 (型式第十七號ノ二)
 三相交流積算電力計 W2Bda 型
 獨國シーメンス、シュツケルト、ウエルケ製造
 (型式第十七號ノ三)
 三相交流積算電力計 Wada 型
 獨國シーメンス、シュツケルト、ウエルケ製造
 (型式第十八號)
 ツェランチ特許多相交流計器
 英國フェランチ、リミツテッド製造
 (型式第十九號)
 バットエレクトリシチー、メーター O 型
 英國ゼ、バット、メーター、コムパニー、リミ
 ッテッド製造
 (型式第二十號)

三相交流積算電力計 O 型
 英國フェランチ、リミツテッド製造
 (型式第二十號ノ二)
 三相交流積算電力計 CES 型及 OSS 型
 英國フェランチ、リミツテッド製造
 (型式第二十一號)
 フェランチ特許三相交流計器
 英國フェランチ、リミツテッド製造
 (型式第二十一號ノ二)
 フェランチ特許三相交流計器 G 型及 S 型
 英國フェランチ、リミツテッド製造
 (型式第二十二號)
 トムソン、ワットアワー、メーター I-10 型
 米國ゼネラル、エレクトリック、コムパニー製
 造
 (型式第二十三號)
 交流積算電力計 AI 型
 英國チカンバレーン、エンド、フックハムリミ
 ッテッド製造

(型式第二十四號)
 多相交流積算電力計 DSE 型及 Da 型
 獨國シーメンス、シュツケルト、ウエルケ製造
 (型式第二十五號)
 多相交流積算電力計 Z 型
 英國ゼブリチツシユ、ウエスチングハウス、エ
 レクトリック、エンド、マニユファクチュアリ
 ング、コムパニー製造
 (型式第二十六號)
 交流積算電力計 O 型
 獨國アロン電氣計器製作所製造
 (型式第二十七號)
 多相交流最大負荷表示器 W 型
 米國ゼネラル、エレクトリック、コムパニー製造
 (型式第二十八號)
 ハミルトン特許積算電量計
 英國フェランチ、リミツテッド製造
 (型式第二十九號)
 三相交流積算電力計 H 型

獨國アロン電氣計器製作所製造

(型式第三十號)

直流積算電力計LPR型

獨國アルゲマイネ、エレクトリチテーツ、ゲゼルシャフト製造

(型式第三十一號)

多相交流ハイトルク、インダクション、ワット、メーターBH型

英國ブリチツシユ、トムソンハウストン、コム

パニー製造

○トムソン、レコーディングワットメーターCG型

(明治四十五年一月二十二日) 逓信省告示第四十一號

明治四十四年八月逓信省告示第七百七十三號ニ依リ承認セル型式第一號ノ電氣計器ノ型式(計器名トムソン、レコーディングワットメーターCG型製造

者米國ゼネラル、エレクトリツク、コムパニー)ハ直流二線式及三線式電路ノ外更ニ單相交流二線式若ハ三線式ノ電路ニ於テ計器ニ規定シアル電壓電流ニ從ヒ無誘導並誘導負荷ノ下ニ使用シ得ルコトヲ承認ス

○逓信省官制拔萃

(明治四十二年七月二十三日改正) 勅令 第百九十四號

第五條 電氣局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 電氣ノ取締ニ關スル事項
 - 二 電氣測定器ノ検査ニ關スル事項
 - 三 發電水力ニ關スル事項
- 電氣局ニ電氣試験所ヲ置キ電氣試験ニ關スル事項ヲ掌ラシム
- 電氣試験所長ハ逓信技師ヲ以テ之ニ充ツ

○逓信省分課規程拔萃

(電氣局職務管掌)

第二十條 電氣局ニ電氣試験所ノ外左ノ二課ヲ置ク

監理課
技術課

第二十一條 電氣局監理課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 電氣事業ノ監督ニ關スルコト
 - 二 發電水力ノ使用ニ關スルコト
 - 三 電氣事業用電信電話ノ監督ニ關スルコト
 - 四 道路ニ施設スル電氣線路ノ監督ニ關スルコト
 - 五 電氣測定器ノ取締ニ關スルコト
 - 六 法規統計ニ關スルコト
 - 七 本局主管ノ庶務及人事ニ關スルコト
 - 八 局中他ノ課所ニ屬セサル事務ニ關スルコト
- 第二十二條 電氣局技術課ハ左ノ事務ヲ掌理ス
- 一 電氣事業ノ技術ニ關スルコト
 - 二 發電用原動力ノ技術ニ關スルコト
 - 三 電氣事業主任技術者ノ資格審査ニ關スルコト
- 第二十三條 電氣局電氣試験所ニ左ノ三部ヲ置ク
- 第一部 第二部 第三部
- 第二十四條 電氣局電氣試験所第一部ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 電氣單本位ニ關スルコト
 - 二 電氣測定器ノ試験及檢定ニ關スルコト
- 第二十五條 電氣局電氣試驗所第二部ハ左ノ事務ヲ掌理ス
- 一 電信電話ノ學術的研究及應用ニ關スルコト
 - 二 電信電話用品ノ試験ニ關スルコト
 - 三 海底電線鑿裝作業ニ關スルコト
 - 四 電信電話用機械器具材料ノ試験并ニ其成績證明ニ關スルコト
- 第二十六條 電氣局電氣試驗所第三部ハ左ノ事務ヲ掌理ス
- 一 電力ノ學術的研究及應用ニ關スルコト
 - 二 電氣化學ノ學術的研究及應用ニ關スルコト
 - 三 電氣事業用機械器具材料及電氣化學製品ノ試験并ニ其成績證明ニ關スルコト
 - 四 電氣工作物ノ設計及調査ニ關スルコト

○地方遞信官署官制拔萃

(大正二年六月十三日) 勅令第二百十號

第一條 地方遞信官署ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便、小包郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ニ關スル事務並電氣事業及船舶海員ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 地方遞信官署ハ遞信局、郵便局、電信局及電話局トス

郵便局ヲ分テ一等、二等及三等トシ電信局及電話局ヲ分テ一等及二等トス

第三條 遞信局ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル郵便、小包郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ノ管理ニ關スル事務並電氣事業及船舶海員ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條 郵便局ハ郵便、小包郵便、郵便爲替及郵便貯金ノ現業事務ヲ、電信局ハ電信ノ現業事務ヲ電話局ハ電話ノ現業事務ヲ掌ル

郵便局ハ電信及電話ノ現業事務ヲ、電信局ハ電話ノ現業事務ヲ兼掌スルコトヲ得

第六條 遞信局ノ名稱、位置及管轄區域ハ別表ニ依ル

海事、鐵道郵便、船舶郵便、船舶無線電信其ノ他二箇以上ノ遞信局ノ管轄區域ニ屬シ又ハ何レノ遞信局ノ管轄區域ニモ屬セサル事務ノ管轄ハ

遞信大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

遞信管理局官制及通信官署官制ハ之ヲ廢止ス

(別表)

遞信局名稱、位置及管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
東部遞信局	東京市	東京府 神奈川縣 新潟縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣 靜岡縣 山梨縣 長野縣
西部遞信局	大阪市	大阪府 京都府 兵庫縣 奈良縣 三重縣 愛知縣 滋賀縣 岐阜縣 福井縣 石川縣 富山縣 鳥取縣 島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 和歌山縣 德島縣 香川縣 愛媛縣 高知縣

北海道遞信局	札幌區	北海道
九州遞信局	熊本市	熊本縣 長崎縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 宮崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣
北部遞信局	仙臺市	宮城縣 福島縣 巖手縣 青森縣 山形縣 秋田縣

○遞信局分課規程拔萃

(大正二年六月十三日) (公達第三百五十六號)

第一條 遞信局ニ左ノ四部一課ヲ置ク

- 總務部
 - 經理部
 - 工務部
 - 海軍部
 - 人事部
- 第二條 總務部ハ通信事業ノ監督、電氣事業ノ監督及文書ノ取扱ニ關スル事務其他ノ各部課ニ屬セサル事務ヲ掌理ス

第四條 工務部ハ電信電話ノ技術ニ關スル事務及電氣事業ノ技術的監督ニ關スル事務ヲ掌理ス

第七條 部ニ課ヲ置ク其ノ區別及分掌事項ハ別表ニ依ル

- 總務部
- 監督課
- 三十七 電氣事業ニ關スル許可、認可其ノ他ノ申請及届出等ノ調査處分其ノ他電氣事業ノ取締ニ關スル事項
- 三十八 電氣線路ノ監督ニ關スル事項
- 三十九 電氣計器ノ取締ニ關スル事項

工務部

電力課

- 一 電氣事業ニ關スル許可、認可其ノ他申請及届出等ノ技術的調査ニ關スル事項
- 二 電氣工作物ノ検査及電氣工事ノ技術的調査ニ關スル事項
- 三 電氣事業主任技術者又ハ其ノ代務者ニ關スル事項
- 四 電氣計器ノ試験檢定ニ關スル事項

○電氣ニ關スル注意心得

(大正二年六月二十七日) (遞信省告示第五百卅五號)

- 一 電柱及電線ニ關スル注意
電柱及電線ニハ成ルヘク接觸セサルヲ良トス殊ニ暴風雨、雪、雷鳴ノ際ニハ最モ注意スヘシ低壓電燈、電力線及電信電話線ハ通常危険ナシト雖モ暴風雨、雪、雷鳴竝ニ事變ノ際ニ

ハ電燈、電力用高壓電線又ハ電氣鐵道用電線ト混觸スルノ虞アレハ右等ノ場合ニハ總テ電柱、電線類ニ身體ヲ觸レサル様注意スヘシ電線ヲ支持スル碍子、腕木又ハ電柱ノ全部若ハ一部ヲ赤色ニ塗リタル者又ハ左ノ標示アルモノハ高壓又ハ特別高壓電氣ノ通スルモノナレハ特ニ注意スヘシ

注意

二尺

- 二 電柱、電線ノ近傍ニ出火アリテ電柱類燒ノ虞アリトモ妄リニ双物ヲ以テ電線ヲ切斷シ又ハ電柱ヲ倒ス等ノコトアルヘカラス此ノ道ニ心得ナクシテ之ヲ試ムルトキハ意外ノ危険ニ陥ルコトアリ注意スヘシ
- 三 電柱、腕木、電線又ハ之ニ接續セル物品ニ火花ヲ發シ又ハ異狀アルトキハ速ニ警察官又ハ電氣事業者ニ報知スヘシ但シ電氣鐵道ニ於テ

第一圖



電氣ニ關スル注意心得

第二圖



二三八

第三圖



電氣ニ關スル注意心得

第四圖



二三九

電車通行ノ際火花ヲ發スルハ通常ナレハ之等ハ別段トス

四 電線ノ切斷垂下セルモノアルモ妄リニ之ニ觸ル可ラス萬一已ムテ得スシテ切斷垂下線ヲ動カストキニハ乾キタル布ニテ厚ク手ヲ包ミ乾燥シタル長キ竹木ノ類ヲ以テ間接ニ之ニ觸ルヘシ其ノ間乾キタル靴若ハ下駄類ヲ穿ツテ良トス若シ跣足又ハ草鞋ノ儘ニテ又物或ハ金棒類ヲ以テ電線ニ觸ルルトキハ電撃ヲ受クルコトアルヘシ

五 室内用電力電燈線ニ關スル注意

室内用電線ハ電氣ノ漏泄ヲ防ク爲メ「繻」又ハ布ニテ包ミアルモ若シ缺損ノ箇所アルトキハ危險ノ虞アリ然ルニ往々電線ヲ戸障子間ノ如キ閉閉ノ爲メ摩擦セラレル所ニ挾ミ又ハ電燈球ヲ疎漏ニ上下ニ動カシ之カ爲メ線ノ外包ヲ破損シ其ノ儘ニ放棄シ置クコトアリ此ノ如キハ不時ニ發火スル危險ノ虞アルモノナレハ室内用電線ハ決シテ損傷セサル様注意シ若

シ損傷ノ箇所アラハ速ニ電氣事業者ニ報知シ修補セシムヘシ

六 電線ヲ瓦斯管、水道管其ノ他ノ金屬體ニ接セシメ又ハ釘ニ懸クル等ハ其ノ外包ノ損傷ヲ來シ易ク電氣ノ漏洩ヲ惹キ起ス虞アルモノナレハ必ス之ヲ避クヘシ

七 電燈ノ點滅ハ電燈點滅器ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ際成ルヘク電線電氣器具等ニ手ヲ觸ルヘカラス電線其ノ他電氣器具ヲ濕ラストキハ電氣ノ漏泄ヲ導キ易ク危害ヲ招クノ虞アリ故ニ室内用電線電球其ノ他電氣器具ハ成ルヘク濕ラサル様注意シ且決シテ濡手ニテ取扱フ可ラス

八 電氣器具及室内電線等ヲ玩弄シ又ハ水氣アル手指ニテ扱ヒ或ハ跣足ノ儘土間ニ在リテ之ニ觸ルル等ハ電氣ニ感シ易ク危險ナレハ電氣需用者ハ篤ク使用人等ニ教ヘ常ニ注意スヘシ室内電線其ノ他之ニ接続セル電氣器具ニ火花ヲ發シ或ハ其ノ他ニ異狀アリト認メタルトキ

九 ハ引込口開閉器ヲ遮斷スヘシ引込口開閉器ニハ麻繩ノ類ヲ付シ之ニヨリ容易ニ開閉器ヲ遮斷シ得ル様ニ裝置スヘシ

十 觸電者ニ對スル應急取扱法
若シ電氣ノ爲メニ氣絶シタルモノアラハ直ニ被害者ヲ其ノ電線ヨリ取離スカ又ハ電氣ノ傳ハラサル様便宜ノ方法ヲ施スヘシ
電氣ノ傳ハラサル様ニナスニハ電氣事業者ヲシテ適當ナル方法ヲ採ラシムヘキハ勿論ナルモ第八ニ記載セル方法ニ依リ引込口開閉器ヲ遮斷スルカ或ハ乾キタル竹木ノ長キ柄ヲ有スル双物ニテ電線ヲ斷テ截ルヘシ(注意ノ標示アル電線ヲ除ク)被害者ヲ電線ヨリ取離ス場合ハ勿論此ノ場合ニ於テモ素手ニテ爲ササル様注意シ必ス乾キタル竹木或ハ布片類ノ如キ電氣ノ傳ハリ難キモノヲ用キテ之ヲ行フヘシ

十一 人工呼吸ヲナスニハ被害者頭及胸部ノ衣類ヲ弛メ且其上衣ヲ脱シテ之ヲ疊ミ肩ノ下ニ敷キ頸ヲ後方ニ垂レシメ左記ニ法ノ一ニ依

ルヘシ縱令蘇生ノ見込ナキ様見ユルトモ少クトモ醫師ノ來ル迄ハ之ヲ繼續スヘシ

甲法 手術者ハ假死者ノ頭ノ上方ニ於テ跪キ其ノ腕ヲ握リ第一圖ニ示ス如ク之ヲ頸ノ上方ニ充分引伸ハシ(斯クスルトキハ胸部擴張セラレ空氣ハ肺中ニ進入ス)斯クシテ三四秒ノ後(一・二・三ト數フル時間ノ後)第二圖ニ示ス如ク引伸ハシタル兩腕ヲ前方ニ曲ケ胸部ヲ強ク壓迫スヘシ(斯クスルトキハ肺中ノ空氣體外ニ排出サル)此ノ方法ハ一分時間十五六回ノ割合ヲ以テ之ヲ繰返スヘシ

乙法 手術者ハ第三圖ニ示ス如ク假死者ノ上ニ誇リ左右兩掌ヲ胸壁ノ一部ニ當テ(其ノ拇指ヲ鳩尾(ミヅオチ)ノ邊ニ置ク様當カフヘシ)肺中ノ空氣ヲ排出スル爲メ其ノ部分ヲ緊縮シツツ前方ニ向テ強ク壓迫ヲ加フヘシ此ノ時手術者ハ第四圖ニ示ス如ク自己ノ身體ノ重ミヲ利用スヘシ

十二 斯クシテ三四秒ノ後急ニ手ヲ離スヘシ此ノ方法モ亦一分時間十五六回ノ割合ヲ以テ之ヲ繰返スコトヲ要ス

人工呼吸ヲ行フ間ニ他ノ一人ハ舌挾ミヲ用キテ(若シ舌挾ミノ用意ナキ時ハ布片ノ類ニテ)氣絶シタル者ノ舌ヲ摘ミ空氣ヲ肺中ニ吸込マシムル際ハ之ヲ引出シテ空氣ノ肺ニ進入スルコトヲ容易ナラシメ又空氣ヲ肺ヨリ排出スル際ハ舌ヲ元ニ戻スヘシ斯クシテ之ヲ繰返シ行フコトハ人工呼吸法ニ最モ必要ナルコトニシテ決シテ之ヲ忽ニスヘカラス故ニ若シ氣絶シタル者力堅ク口ヲ閉チテ舌ヲ摘ミ出スコト能ハサル時ハ棒、木片或ハ小刀ノ柄等ニテ強ク口ヲ開カシメタル上之ヲ行フヘキモノトス又假死者ニ水其ノ他ノ飲料ヲ飲マシメント試ムヘカラサルハ勿論苟且ニモ水ヲ吹掛クル等ノコトヲナスヘカラス是流動物ハ呼吸器ヲ閉鎖セシムルノ虞アルカ故ナリ尙手助ケアラハ「ガーゼ」

又ハ綿ニ「アムモニア」水ヲ含マセ之ヲ氣絶シタル者ノ鼻ノ附近ニ置キ其ノ呼吸機能ニ刺戟ヲ與フルヲ可トス

十三 電氣事業者ハ常ニ發電所、變電所、蓄電所、開閉所及工夫散宿所等ニ人工呼吸法ニ必要ナル舌挾ミ竝ニ「アムモニア」水等ヲ備ヘ尙従事員ニ常時人工呼吸法ヲ習得セシメ置クヲ可トス

十四 本告示中電氣需用者ニ知悉セシムルノ必要アル事項ハ電氣事業者ニ於テ之カ周知ノ方ヲ講スヘシ

○電信法拔萃

(明治三十三年三月法律第五九號)

第一條 電信及電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 左ニ掲クル電信又ハ電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ私設スルコトヲ得

一 一邸宅内若ハ一構内ニ於テ専用ニ供スル爲施設スルモノ

二 鐵道業其ノ他電信電話ノ専用ヲ必要トスル事業ノ爲施設スルモノ

三 公共團體ノ事務執行ノ爲一市區町村内若ハ隣接市區町村内間ニ於テ公署相互間又ハ一郡市區内ニ於テ公署ト第一次監督官廳トノ間ニ施設スルモノ

四 電報送受ノ目的ヲ以テ一人ノ専用ニ供スル爲電信官署トノ間ニ施設スルモノ

五 一市區町村内若ハ隣接市區町村間ニ於テ一人又ハ電信電話ノ連絡ヲ且第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ於テ一人又ハ一營業ノ専用ニ供スル爲施設スルモノ

○私設電信規則

(明治三十三年九月) 逓信省令第四八號

明治三四、一 遞令四八
 明治三五、九 遞令四〇
 明治四三、三 遞令三七
 明治四四、九 遞令三七

改正

第一條 此ノ規則中私設電信ト稱スルハ電信法第二條ニ掲クル電信又ハ電話ヲ謂フ

第二條 電信法第二條第二號ニ依ル私設電信ヲ左ニ列記スル事業ノ専用ニ供スルモノニ限ル

一 私設鐵道法ニ依ル鐵道、軌道條例又ハ特別ノ法令ニ依リ一般運輸ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道及一個人又ハ一會社ニ於テ個人ノ専用ニ供スル爲メ敷設スル鐵道又ハ軌道事業

二 運河、水利、水防、火防、水道、水難救護及氣象觀測ノ事業

三 高壓及特別高壓ノ電氣ヲ使用スル電氣事業

四 前各號ノ外特ニ私設電信ノ施設ヲ必要トスル事業

第三條 電信法第二條第五號ニ依ル私設電信中一營業ノ爲メニスルモノハ營業所相互間又ハ營業所ト之ヲ管理スル者ノ居宅間ニ施設スルモノニ限ル

第四條 私設電信ヲ施設セントスル者ハ逓信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但私設鐵道法ニ依ル鐵

道事業ノ専用ニ供スル爲鐵道線路ニ沿ヒ停車場、聯絡所又ハ信號所相互間ニ施設スルモノ及電氣工事規程第七十四條ニ依リ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書

ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

一 施設ヲ必要トスル事由

二 電信又ハ電話ノ別及其ノ回線

三 機械設置ノ場所(道府縣郡市區町村番地)及線路經過地名

四 落成期限

前項第二號及第三號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

隣接市區町村間又ハ電信法第二條第四號ニ依ル

ヲ不適當トスル市區町村間ニ私設電信ヲ施設セ

ムトスルトキハ第一項書類ノ外之ヲ證明スルニ

足ル書類ヲ添附スヘシ

第六條 第四條ノ許可ヲ得タル後前條第一項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ遞信大臣ニ願出

テ許可ヲ受クヘシ

第七條 第四條又ハ第六條ニ依リ許可ヲ得タル私設電信ノ工事落成シタルトキハ七日以内ニ左ノ

事項ヲ遞信大臣ニ届出ツヘシ

一 工事落成月日

二 工事設計(機械ノ種類及箇數、線路ノ亘長、架空線、地下線、水底線ノ別、回線ノ方式、

線路ノ種類、太サ及延長並保安裝置方法)

前項第二號ノ事項ヲ變更シタルトキハ更ニ前項

ノ例ニ依リ届出ツヘシ

第八條 第四條但書ノ私設電信ヲ施設シタル者ハ

工事ヲ落成後七日以内ニ第五條第一項第二號、

第三號及第七條第一項各號ノ事項ヲ遞信大臣ニ

届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ公衆

通信ノ用ニ供スルモノハ第五條第一項ニ依リ遞

信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スル

コトヲ得ス

第九條 私設電信ヲ讓渡サントスルトキハ第四條

但書ノモノヲ鐵道相互間又ハ電氣事業者相互間

ニ讓渡ス場合ヲ除クノ外當事者雙方連署ノ上遞

信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル私設電信ノ引渡ヲ爲シタ

ルトキ又ハ第四條但書ノ私設電信ヲ鐵道相互間

又ハ電氣事業者相互間ニ讓渡シタルトキハ七日

以内ニ當事者雙方連署ノ上遞信大臣ニ届出ツヘ

シ

第一項ノ外相續又ハ其ノ他ノ原因ニ因リ私設電

信ヲ繼承シタルトキハ七日以内ニ其旨ヲ遞信大

臣ニ届出ツヘシ

第十條 公衆通信ノ用ニ供スル私設電信ハ遞信大

臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ廢止シ又ハ中

止スルコトヲ得ス

前項以外ノ私設電信ヲ廢止シタルトキハ七日以

内ニ其ノ旨ヲ遞信大臣ニ届出ツヘシ

第十一條 電信法第二條第四號ニ依ル私設電信ノ

通報ヲ開始シ廢止シ又ハ中止セムトスルトキハ

其ノ施設者ヨリ十五日以前ニ連接郵便電信局又

ハ電信局ニ届出ツヘシ

第十二條 私設電信ヲ廢止シタルトキハ特ニ期間

ニ指定ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ

線路及機器ヲ撤去スヘシ其ノ許可ノ効力ヲ失ヒ

又ハ之ヲ取消サレタルトキ亦同シ

私設電信ノ使用ヲ中止シ一箇年以上ニ及ヒタル

トキハ廢止シタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適

用ス

第十三條 市街地ニ限リ道路ニ架設スル私設電信

ノ電線ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由ア

ルモノハ遞信局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラ

サルコトヲ得

一 道路ノ兩側ニ跨カラスシテ其ノ一側ニノミ

架設スヘシ

二 道路ノ一側ノ電信線、電話線其ノ他電氣信

號線ノ架設シアルトキハ其ノ同側ニ架設ス

ヘシ若シ其ノ一側ノ電燈、電力又ハ電氣鐵

道用電線ノ架設シアルトキハ他ノ一側ノ架

設スヘシ

第十三條ノ二 私設電信ノ電線ハ特ニ遞信大臣ノ

認可ヲ得タルモノヲ除クノ外電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ノ電信ニ添架スルコトヲ得ス但電氣工事規程第七十四條ニ依リ施設スルモノハ此限ニアラス

第十四條 私設電信ノ電線ヲ他ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ其ノ通報信號ニ障害ヲ與ヘサル様離隔スヘシ其離隔二尺ニ滿タサルトキハ其電線ノ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十五條 私設電信ノ電線ヲ電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ左ノ制限ニ依ルヘカス

- 一 電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉スルトキハ其電線ノ下部ニ架設スヘシ但シ工地上已ムヲ得サル場合ニ於テハ低壓又ハ高壓電線ト交叉スル場合ニ限リ其ノ上部ニ架設スルコトヲ得
- 二 低壓又ハ高壓電線ト交叉スルトキハ其ノ相互ノ間隔二尺以上ヲ離隔スヘシ

三 特別高壓電線ト交叉スルトキハ特別高壓電線ノ最大電壓ニ從ヒ左記ノ區別ニ依リ特別高壓電線ト私設電信ノ電線トヲ離隔スヘシ

但シ特別高壓電線管理者ノ承諾ヲ得且特別高壓電線ト私設電信ノ電線トノ間ニ架設スル保護金屬線ヨリ二尺以上ヲ離隔スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(イ)特別高壓電線ノ最大電壓一萬「ヴォルト」以下ノ場合ハ其ノ間隔三尺以上

(ロ)特別高壓電線ノ最大電壓一萬「ヴォルト」ト「ヲ超過スル場合ハ一萬「ヴォルト」又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ八寸以上ヲ加フ

四 特別高壓電線ト接近スルトキハ其ノ相互間ノ水平距離ハ特別高壓電線ノ電柱地表上ノ高サノ一倍以上タルヘシ但シ特別高壓電線管理者ノ承諾ヲ得テ此ノ距離ヲ十尺マテニ短縮スルコトヲ得

第十六條 私設電信ノ電燈、電力又ハ電氣鐵道用

架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設シタルトキハ電信又ハ電話線ノ機械ニ接続スル各端ニ於テ二百五十「ミリアマヘア」以下ニテ動作スル熱線輪三百「ヴォルト」ニテ放電スル避雷器及五「アンペア」以下ニテ容解スル可熔遮斷器ヲ設備スルコトヲ要ス其ノ既ニ架設シタル後ニ於テ交叉若ハ接近ノ場合ヲ生シタルトキ亦同シ

第十七條 屋内ニ布設スル私設電信ノ電線ハ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ト充分離隔シ且電氣的混觸ヲ豫防スヘシ

第十八條 私設電信ノ電信ニハ施設者名及電柱ノ番號ヲ表記スヘシ

第十九條 私設電信ノ電線ヲ他ノ電線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ又ハ六尺以内(他ノ電線カ強電流電線ナルトキハ八尺以内)ノ距離ニ接近シテ架設スルトキハ工事著手前ニ其電線ノ所有者又ハ管理者ヘ通知スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理シ若ハ撤去スルトキハ亦同シ

第二十條 電信法第二條第四號ニ依リ連接郵便局

又ハ電信局ニ施設スル施設電信ノ引込及裝置工事並其ノ維持ハ遞信省之ヲ指示ス

前項ノ施設電信私設者ハ遞信省ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ設備ニ要スル物件ヲ供給シ其ノ工費ヲ支拂ヒ且其ノ維持ニ要スル料金を納付スヘシ但シ維持料ノ金額及其ノ納付手續ハ特ニ之ヲ定ム

第二十一條 遞信大臣ハ私設電信ノ施設他ニ障害ヲ及ボシ若ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ改修又ハ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條 遞信大臣ハ隨時吏員ヲ派遣シ私設電信ノ裝置方法又ハ通信ノ狀況等ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第二十三條 私設電信施設者此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ依リ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ遞信大臣ハ私設電信ノ使用ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十四條 此ノ規則ニ依リ遞信大臣ニ提出スル書類ハ總テ其ノ私設電信施設地ノ所轄遞信管理局ヲ經由スヘシ

第二十五條 第六條、第八條但書第九條第一項若ハ第十條第一項ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條第八條第九條第二編及第三項若ハ第十條第二項ノ届出ヲ爲ササル者又ハ第三條ノ通知ヲササルモノ又ハ正當ノ事由ナクシテ第二十二條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 電信法第二條第一號ノ私設電信ニ關シテハ第四條乃至第十三條、第十八條、第二十四條及第二十四條ノ規定ヲ適用セス

附則

第二十八條 電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲナスモノニ關シテハ第十三條乃至第十九條、第二十一條乃至第二十三條ノ規定ヲ適用ス正午時ノ通報ヲ受クル爲電鈴線ヲ郵便局又ハ電信局トノ間ニ施設セムトスルモノニ關シテハ前項ノ外第四條乃至第七條、第廿條乃至第十二條及第二十四條ノ規定ヲ適用ス

第二十九條 電信法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ電信法第二條第一號ニ該當スルモノヲ除クノ外第四條及第五條ノ規定ニ準シ此ノ規則施行ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ逕信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ第四條但書ニ該當スルモノハ同一期間内ニ於テ第八條ノ規定ニ準シ届出ヘシ

前項ノ許可ヲ得タルモノハ第七條ノ規定ニ準シ届出ヘシ第一項ノ期間内ニ於テ出願ヲ爲ササルモノ若ハ其ノ出願ヲ爲スモ許可ヲ得サルモノニ關シテハ第十二條ノ規定ヲ適用ス第一項及第二項ノ届出ヲ爲ササルモノニ關シテハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

第三十條 前項ニ依リ許可ヲ得又ハ届出ヲ爲シタル私設電信ニシテ其既設工事カ此ノ規則ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三ヶ年以内ニ之ヲ改造スヘシ但シ其ノ期間内ト雖第三十一條ニ依ル命令ノ効力ヲ妨ケス電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノノ既設

工事ニ關シテハ前項ノ規定ヲ適用ス

第三十一條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治二十二年三月逕信省令第四號電信電話線私設條規其ノ他此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

○電信線、電話線建設條例

(明治二十三年八月法律第五十八號)

朕電信線、電話線建設條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

電信線電話線建設條例

第一條 逕信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信電話線ヲ建設スル爲民有ノ土地又ハ造營物ノ使用ヲ要スルトキハ所有者及其他ノ權利者之ヲ拒ムコトヲ得ス

官有ノ土地又ハ造營物ハ其所管廳ニ通知シテ之

電信線電話線建設條例

ヲ使用ルスコトヲ得

第二條 公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ建設ニ從事スル者其建築修理及線路測量ノ爲必要ナルトキハ他人ノ所有地ニ入ルコトヲ得其邸宅構内ニ入ルヲ要スルトキハ所有者又ハ其他ノ權利者ニ通知スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ主務者タル證票ヲ携帯スヘシ

第三條 逕信省ハ公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ建築又ハ通信ニ障碍アル瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線電話線ヲ所有者又ハ其他ノ權利者ニ命シテ移轉セシムルコトヲ得其建設通信ニ障害アル竹木其他ノ植物ハ已ムヲ得サルモノニ限り之ヲ伐除シ若クハ所有者又ハ其ノ他權利者ニ命シテ之ヲ伐除又ハ移植セシムルコトヲ得

第四條 逕信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ測量ヲ爲シタルトキハ電柱ノ建設ヲ要スル場所ニ測標ヲ設置スルコトヲ得

第五條 公衆通信ノ用ニ供スル電信線路電話線路ヲ移轉スル必要アル者ノ請求ニ由リ遞信省ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ其移轉費用ハ請求者之ヲ負擔スルモノトス

第六條 遞信省ニ於テ民有地ニ電信線電話線ノ柱木ヲ建設シタルトキハ一本毎ニ一箇年四錢ノ手當金ヲ給與ス但所有者又ハ其他ノ權利者ニ於テ手當金ヲ望マサルトキハ此限ニアラス

第七條 左ニ掲クルモノハ其要求ニ對シ遞信省之ヲ補償スヘシ

- 一 建築修理及線路測量ノ爲生シタル損害
- 二 瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線電話線ヲ移轉シタル費用
- 三 伐除シタル竹木其他植物ノ代價又ハ移植ノ費用

第八條 第七條ノ補償金額ハ雙方協議之ヲ定メ若シ其協議相協ハサルトキハ市町村長(未タ市制町村制ノ實施セサル地方ハ區戸長ヲシテ之ヲ評定セシム)

市町村長ノ評定ニ服セサル者ハ其評定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

○特設電話規則

(明治四十一年九月二十九日)
(遞信省令第四十三號)

第一條 特ニ指定スル通信官署(以下單ニ局所ト稱ス)ニ於テハ特設電話交換ヲ取扱フ其位置名稱及電話加入區域ハ別ニ之ヲ告示ス

遞信大臣ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ電話加入區域外ニ於テ加入ヲ爲サシメ又ハ之ヲ繼續セシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ其所屬局ノ加入區域内ニ在ルモノト見做ス

第二條 特設電話加入ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一 單獨加入 一加入ニ付一回線ヲ有スルモノ
- 二 共同線加入 二加入共同シテ一回線ヲ有スルモノ

三 連接加入 單獨加入ニ連接シテ一加入ヲ爲スモノ

遞信大臣ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ一回線ニ依リ四加入迄共同線加入ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第三條 特設電話加入ノ爲設備スル電話回線ハ複線式トス但シ遞信大臣ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ單線式ト爲スコトアルヘシ

第四條 特設電話加入ニ要スル設備及維持ハ局所内ニ要スルモノヲ除クノ外一加入毎ニ其ノ加入申請者又ハ加入者ヲシテ之ヲ負擔セシメ其ノ設備及維持ハ所轄遞信局ニ於テ之ヲ行フ但シ遞信大臣ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ加入申請者又ハ加入者ヲシテ其ノ設備又ハ維持ヲ行ハシムルコトアルヘシ

第五條 左記各號ノ場合ハ前條ニ依ル設備ノ範圍内トス

- 一 水底線ノ修理又ハ改設ヲ要スルトキ
- 二 加入者ノ故意又ハ過失ニ因リ亡失毀損セシ

メタル機械線路等ノ修理又ハ複舊ヲ要スルトキ

三 第八條、第九條又ハ第十四條第一項各號ニ依リ設備ノ變更ヲ要スルトキ

不可抗力ニ因リ機械、線路等ニ著シキ損害ヲ受ケ其ノ複舊ヲ要スルトキ又ハ局所ノ移轉等ニ依リ線路ノ變更ヲ要スルトキハ前項ノ例ニ依ルコトアルヘシ

第六條 遞信局長ニ於テ工事上必要ト認ムルトキハ加入申請者又ハ加入者ヲシテ線路ヲ共用セシム

前項ノ場合ニ於テ加入申請者又ハ加入者ノ電線ヲ他ノ線路ニ併架スル爲該線路ノ全部又ハ一部ノ改築ヲ要スルトキハ其ノ加入申請者又ハ加入者ヲシテ之ヲ負擔セシム

第七條 加入申請者又ハ加入者ノ爲遞信局ニ於テ既ニ行ヒタル設備ニ對シテハ其ノ必要消滅シタル場合ト雖モ負擔ノ義務ヲ免カサルコトヲ得ス

第八條 電話加入區域變更ノ爲機械設置場所他局

所ノ區域トナリタルトキハ所屬ヲ變更ス

第九條 電話交換方式又ハ取扱方法ヲ變更スルノ必要アルトキハ線路又ハ機械等ヲ變更スルコトアルヘシ

第十條 特設電話ニ加入セムトスル者ハ一加入毎ニ加入申請書(附録書式)ヲ遞信局長ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

共同線加入又ハ直接加入ノ申請ヲ爲ストキハ相手方ヲ定メ其ノ申請書ニ互ニ連署スヘシ但相手方カ加入者ナルトキハ其ノ承諾書ヲ添附スヘシ

第十一條 遞信局長加入申請ヲ認可シタルトキハ加入ノ設備ニ要スル工事設計書ヲ加入申請書ニ交付ス

第十二條 加入申請者ハ前條設計書ニ據リ遞信局長ノ指揮ニ遵ヒ電線機械其ノ他一切ノ物件ヲ供給シ且工事費ヲ支辨スヘシ但シ實際ニ要スル物件又ハ費用カ該設計書ノ記載額ヲ超過スルコトアルモ之カ負擔ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第十三條 加入申請者又ハ加入者左記各號ノ場合

ニ於テハ其ノ事由ヲ詳記シタル申請書ヲ遞信局長ヲ經テ遞信大臣ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

一 第一條第二項ニ依リ電話加入區域外ヨリ加入セントスルトキ又ハ電話加入區域内ヨリ電話加入區域外相互間ニ於テ機械設置場所ヲ變更セムトスルトキ

二 第二條第二項ニ依リ三加入以上共同線加入ヲ爲サムトスルトキ

三 第三條但書ニ依リ電話回線ヲ單線式ト爲サムトスルトキ

四 第四條但書ニ依リ設備又ハ維持ヲ行ハムトスルトキ

第十四條 加入申請者又ハ加入者左記各號ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載セル申請書ヲ遞信局長ニ差出シ其ノ許可ヲ受クヘシ但シ加入申請ト同時ニ申請スルトキハ加入申請書ヲ附記スヘシ

一 加入種類ヲ變更セムトスルトキ

二 電話機又ハ附屬物品ノ設置場所ヲ變更セムトスルトキ

四 別ニ指定スル長距離通話ノ裝置ヲ爲サムトスルトキ

五 卓上電話機ヲ設置セムトスルトキ

六 加入電話機設置場所同一戸内ニ於テ電話機受話機又ハ電鈴ヲ増設セムトスルトキ

七 電話機設置場所同一ナル自己ノ邸宅構内ニ於テ電信法第二條第一號及明治三十三年(九月)遞信省令第五十一號官廳用電信電話規程第一條第一號ニ依リ施設シタル電話機ヲ交換線ニ接続セムトスルトキ

八 同一邸宅構内ニ於テ二加入以上ノ電話ニ共通スル電話機ヲ増設セムトスルトキ

九 第四條乃至第八條ニ依ル裝置ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキ

前項第三號ノ申請ヲ爲ストキハ第十條第二項但書ノ例ニ依ルヘシ

第一項第七號ノ申請ヲ認可スルトキハ遞信管理局長其ノ維持又ハ交換取扱ノ方法ヲ指示スルコトアルヘシ

第十五條 第八條若ハ第九條ノ場合又ハ前條第一項各號ノ申請ヲ認可スル場合ニ於テ遞信局長必要ト認ムルトキハ第十一條及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第十六條 加入申請者第十三條第四號ノ認可ヲ受ケ自ラ設備ヲ行フトキハ第十一條ノ工事設計書ニ據リ且遞信局長ノ指揮監督ヲ受ケ若線路、機械等ニ既設ノ部分アルトキハ其ノ部分ニ付該局長ノ檢査ヲ受クヘシ但シ工事ノ上已ムヲ得サル事由ニ因リ該設計書記載ノ方法ニ依ルヲ得サルモノニ限リ該局長ノ承認ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

氣信局長ニ於テ前項ノ設備カ不適當ナリト認ムルトキハ改良又ハ修理ヲ爲サシム

第一項ノ場合ニ於テハ第十二條ノ規定ヲ適用セ

第十七條 加入申請者前條ニ依ル設備ヲ完了シタルトキハ其ノ竣成ノ日ヲ遞信局長ニ届出ツヘシ

第十八條 加入者第十三條第四號ノ認可ヲ受ケ自

特設電話規則

二五四

第十四條 第一項各號ニ依ル設備ノ變更ヲ爲スト
キハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第十九條 加入者第十三條第四號ノ認可ヲ受ケ自
ラ維持ヲ行フトキハ遞信局長ノ指揮監督ヲ受ク
ヘシ

第二十條 加入者ハ交換料附加交換料及維持料ヲ
納ムヘシ但シ前條ニ依ル場合ハ維持料ヲ納ムル
ノ限ニ在ラス

第二十一條 特設電話ニ關スル料金ハ左ノ如シ

- 一 加入登記料 金 五 圓
- 二 名義書換料 金 二 圓
- 三 交換料
 - 單獨加入及共同線加入 一加入毎ニ 年額 金貳拾四圓
 - 連接加入 一加入毎ニ 年額 金拾九圓
- 四 附加交換料
 - 長距離裝置電話機一個毎ニ年額 普通 金 六 圓

特別 金拾貳圓
官廳用又ハ私設電話機接續一個毎ニ
年額 金 六 圓

五 電話番號簿掲載料 年額一個所毎ニ
重複掲載 金 五 拾 錢

六 維持料
他人名義掲載 金 四 圓

一、電話線路(水底線路ヲ除ク)
一回線里程一丁迄毎ニ年額

複線式 金壹圓參拾錢
單線式 金八拾錢

一 電話機(電池及附屬品ヲ含ム)
一個毎ニ年額 普通 金 七 圓

卓上 甲號 金拾八圓
乙號 金拾貳圓

一 增設電鈴 一個毎ニ年額 金 壹 圓

一 增設受話器一個毎ニ年額 金 壹 圓

筒形又ハ時計形 金 壹 圓

戴頭 金 參 圓

加入登記料ハ加入申請ノ際ニ假納セシメ其ノ
申請認可ノ際ニ之ヲ徵收ス

毎年一定ノ時期ヲ限リ取扱ヲ爲ス局所ニ在リテ
ハ前項第三號ノ料金ハ其ノ取扱時期ヲ以テ一期

トシ月割額ニ五割ヲ加算シタル額ヲ其ノ月數ニ
應シテ徵收ス但シ中途ニ於テ取扱ヲ開始又ハ終

了スルトキハ其ノ月分ハ日割ヲ以テ計算ス

第二十二條 加入申請者又ハ加入者電信局長ノ指
示スル期日及場所ニ於テ第十二條ニ依ル供給若

ハ支辨ヲ爲ササルトキ又ハ該局長ノ指示スル期
日迄ニ第十六條ニ依ル設備ヲ完了セサルトキ其

ノ他本令又ハ本令ニ據ル電信局長ノ指揮ニ遵ハ
サルトキハ加入其ノ他ノ申請認可ヲ取消シ又ハ

加入ヨリ除名スルコトアルヘシ

第二十三條 加入者加入ノ取消又ハ除名等ノ場合
ニ於テ自己ノ供給セル物件ヲ撤去セムトスルト

キハ三箇月以内ニ其ノ旨ヲ電信局ニ請求スヘシ

特設電話規則

二五五

加入申請者加入申請ノ取消若ハ失效等ノ場合亦
同シ但シ加入者又ハ加入申請者線路ヲ供用スル

トキハ其共用ノ部分ヲ撤去スルコトヲ得ス前項
ノ撤去工事ハ請求者ヲシテ其ノ費用ヲ負擔セシ

メ電信局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ請求者ヲ
シテ之ヲ行ハシムルコトアルヘシ

第二十四條 本令ニ依ル物品ノ供給費用ノ支辨又
ハ料金ノ納附等カ二人以上ノ共同負擔ニ屬スル

トキハ其ノ中ノ一人ヲ總代人ト定メ其責ニ任セ
シムルコトアルヘシ

第二十五條 本令ニ依ル電話ヲ明治三十九年(六
月)遞信省令第二十五號電話規則(以上單ニ電話

規則ト稱ス)ニ依ルモノニ變更スルトキハ加入
又ハ加入申請認可ノ效ヲ失フ其ノ變更期日ハ三

箇月前ニ通知ス

前項ノ場合ニ於テ加入者其ノ設備ノ全部ヲ政府
ニ無償提供スルトキハ電話規則ニ依ル加入ニ變

更スルコトヲ得ヘシ遞信大臣ニ於テ必要ト認ム
ルトキハ提供ニ先チ其ノ設備ヲ補修セシムルコ

トアルヘシ

第二十六條 電話規則第四條、第五條第三項第十條乃至第二十三條、第二十四條第二項、第二十九條ノ一、第二十八條、第二十九條、第三十條第一項、第三十一條ノ一、第三十一條ノ二、第三十四條、第三十五條第一項第三號、第二項、第三十六條乃至第四十三條、第四十四條第一項第二號、第三號、第二項、第四十五條乃至第四十八條、第五十條、第五十一條、第五十三條乃至第五十九條、第六十四條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス但電話規則中ノ電話使用料又ハ交換料附加使用料ハ附加交換料若ハ維持料ト看做ス

附則

第二十七條 本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年(四月)逓信省令第三十四號特設電話規則ハ之ヲ廢止ス

第二十八條 明治三十八年(四月)逓信省令第三十

四號特設電話規則ニ依ル加入者又ハ加入申請者ハ本令ニ依ル加入者又ハ加入申請者ト看做ス但シ該規則ニ依リ交附シタル命令書ハ本令施行ノ日ニ於テ其ノ效力ヲ失フ

第二十九條 電話加入區域ノ制定ノ爲メ機械設置場所其ノ區域外トナリタルモノハ現在ノ位置ニ於テ加入ヲ繼續セシム

(書式)

特設電話加入申請書

特設電話規則ニ遵ヒ左記ニ依リ何局電話交換ニ加入致度(別紙承諾書州添へ)此段申請候也

年月日 申請者 住所職業 氏名

何郵便局長殿

- 一、加入種類
- 二、電話機設置場所
- 三、相手方電話機設置場所
- 四、局所ト電話機設置場所トノ距離
- 五、相手方加入者トノ距離
- 六、卓上電話機種別

- 七、増設機械
- 八、長距離装置
- 九、官廳用又ハ私設電話機接続

注意

- 一、第三條及第五號ハ共同線加入又ハ連接加入ノ場合ニ限リ記載ヲ要ス
- 二、第六號乃至第九號ニ該當スルモノアル場合ニ限リ記載ヲ要ス但シ第九號ノ事項ニ關シテハ機械ノ種類箇數等ヲ附記スヘシ
- 三、第四號及第五號ノ距離ハ道路ニ依ルモノヲ掲クヘシ
- 四、本申請書ニハ第二號乃至第五號ノ事項ヲ表示スル爲別ニ圖面ヲ添付スヘシ

○鑛業特設電話規則

(明治三十八年十二月二十八日) 逓信省令第八十四號

第一條 逓信大臣ハ必要ト認ムル地方ニ於テ鑛業

鑛業特設電話規則

者ノ申請ニ依リ同一人若クハ同一組合ノ經營ニ係ル鑛業及其直接附帶事業ノ専用ニ供スル爲鑛業特設電話ヲ布設ス

第二條 鑛業特設電話ヲ専用スル鑛業者(以下單ニ專用者ト稱ス)ハ逓信省ノ指示スル所ニ從ヒ其電話ニ要スル機械、線路其他一切ノ物件ヲ供給シ且其設備及維持ヲ負擔スヘシ

第三條 第一條ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ逓信大臣ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ提出スヘシ

- 一 専用ヲ必要トスル事由及地域(鑛業及附帶事業ノ種類、其經營作業方法等並専用ノ區域ヲ記載シ且鑛區其他ノ地域ヲ表示セル圖面ヲ添付スヘシ)
- 二 電話機設置ノ場所(所在道府縣郡市區町村名字番地、名稱、性質及電話機ノ箇數)各設置場所毎ニ記載スヘシ
- 三 前項ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添付スヘシ
- 四 一 工事設計書(機械ノ種類、保安装置、線路ノ種類、太サ、線路ノ種別及互長、回線ノ方

式等ヲ記載スヘシ)

- 二 電話線路圖(線路及機械設置場所他ノ電信電話線、電燈線、電力線ノ位置、道府縣郡市區町村等ノ境界線ヲ記載スヘシ)
- 三 電話回線圖(交換機、電話機、轉換機ノ位置ヲ記載スヘシ)

第四條 左記各號ノ場合ニ於テハ關係ノ書類及ヒ圖面(第四號ノ場合ヲ除ク)ヲ具シ遞信大臣ニ申請スヘシ

- 一 專用ヲ必要トスル事由及地域ヲ變更セントスルトキ
- 二 鑛業直接附帶事業用電話機ヲ新設移轉シ又ハ其設置場所ノ名稱性質ヲ變更セントスルトキ
- 三 鑛業用電話機ヲ其直接附帶事業用ニ變更セントスルトキ
- 四 全部ノ專用ヲ廢止セントスルトキ

左記各號ノ場合ニ於テハ遲滯ナク關係ノ書類及圖面ヲ具シ遞信大臣ニ届出ツヘシ但シ左記第一

號ノ場合ニ於テハ通話ノ開廢年月日、場所名及箇數ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

- 一 電話機ヲ増加シタルトキ
- 二 電話機設置場所ヲ移轉シ又ハ其名稱性質ヲ變更シタルトキ
- 三 前項各號ノ場合ヲ除クノ外前條第二項各號ノ事項ヲ變更シタルトキ

第五條 鑛業特設電話ヲ專用スル鑛業及其直接附帶事業ノ全部ヲ繼承シタル者ハ其電話ノ專用ヲ繼承スルトコトヲ得此場合ニ於テハ當事者連署ノ上遞信大臣ニ届出ツヘシ

第六條 專用者ハ電話機一箇毎ニ通貨ヲ以テ電話專用料月額金五十錢ヲ所轄遞信局ニ納ムヘシ

第七條 電話專用料ハ左ノ各期ノ初月一日ヨリ十日マテニ其期ニ屬スル分ヲ納ムヘシ

- 第一期 四月ヨリ六月マテ
- 第二期 七月ヨリ九月マテ
- 第三期 十月ヨリ十二月マテ
- 第四期 一月ヨリ三月マテ

電話開通初期ノ電話專用料ハ開通ノ月ヨリ其期ノ末月ニ至ル分ヲ開通ノ日ヨリ十五日以内ニ納ムヘシ月ノ中途ニ於テ電話ヲ開通シタルトキト雖モ開通ノ月ニ屬スル電話專用料ハ一箇月分トシテ計算ス

- 一 期中途ニ於テ電話機ノ使用ヲ廢止シタルトキト雖モ其期內ニ屬スル電話專用料ノ全額ヲ徵收ス電話機ノ使用ヲ廢止セントスル場合ニ於テ各期ノ末月十五日迄ニ其旨届出ヲ爲ササルトキハ其電話機ニ對シ次期ニ屬スル電話專用料ヲ徵收ス

第八條 專用者ハ鑛業特設電話ヲ專用スル鑛業及其直接附帶事業ノ爲明治三十五年九月遞信省令第四十號私設電信規則ニ依ル電信電話ヲ私設スルコトヲ得ス

第九條 專用者本規則ニ違背シ又ハ主務官署ノ命令ヲ遵守セサルトキハ電話ノ專用ヲ禁止又ハ停止スルトアルヘシ

第十條 本規則ニ依ル電話ニ關シテハ明治三十年

十二月遞信省令第三十一號電話交換規則第三十八條、第四十條、第四十一條第四十三條ノ規定ヲ準用ス

第十一條 遞信大臣ハ必要ト認ムルトキハ鑛業特設電話ノ全部若クハ一部ヲ停止又ハ廢止スルトアルヘシ

第十二條 專用者會社ナルトキハ其代表者又組合ナルトキハ其總代人ヲ遞信大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 本規則ニ依リ提出スル申請書又ハ届書ハ電話施設地ヲ管轄スル遞信局ヲ經由スヘシ

第十四條 本規則ハ官廳ノ經營ニ係ル鑛業ニノミ之ヲ準用ス

○朝鮮私設電信電話規則

(明治四十四年十一月)
(朝鮮總督府令第一三九號)

私設電信電話規則左ノ通定ム

私設電信電話規則

第一條 電信法第二條第二號ニ依ル私設ノ電信又ハ左ニ列記スル事業ノ専用ニ供スルモノニ限ル

- 一 鐵道、輕便鐵道又ハ軌道ノ事業
- 二 運河水利、水防、火防、水道、水難救護及氣象觀測ノ事業
- 三 高壓及特別高壓ノ電氣ヲ使用スル電氣事業
- 四 前各號ノ外特ニ私設ノ電信又ハ電話ノ施設ヲ必要トスル事業

第二條 電信法第二條第五號ニ依ル私設ノ電信又ハ電話中一營業ノ専用ニ供スルモノハ營業所相互間又ハ營業所ト之ヲ管理スル者ノ居宅間ニ施設スルモノニ限ル

第三條 私設ノ電信又ハ電話ヲ施設セントスルモノハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添付シ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ

- 一 施設ヲ必要トスル事由
- 二 電信又ハ電話ノ別及其ノ回線
- 三 機械設置ノ場所(道府郡面洞里町統戶番地

等)及線路經過地名

- 四 落成期限

前項第二號及第三號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ表示スヘシ

第四條 前條第一項各號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ朝鮮總督府ニ許可ヲ申請スヘシ

第五條 私設ノ電信又ハ電話ノ工事落成シタルトキハ七日以内ニ左ノ事項ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

- 一 工事落成年月日
- 二 工事設計(機械ノ種類及箇數、線路ノ互長、架空線、地下線、水底線ノ別、回線ノ方式、線路ノ種類、太サ、延長並ニ保安裝置、方法)

前項第二號ノ事項ヲ變更シタルトキハ更ニ前項ノ例ニ依リ届出ツヘシ

第六條 私設ノ電信又ハ電話ヲ讓渡サムトスルトキハ繼續施設ヲ必要トスル事由ヲ記載シ當時者ヨリ朝鮮總督府ニ許可ヲ申請スヘシ

私設ノ電信又ハ電話ノ讓渡ヲ終了シタルトキハ七日以内ニ當事者ヨリ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第七條 公衆通信ノ用ニ供スル私設ノ電信又ハ電話ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ使用ヲ廢止シ又ハ中止スルコトヲ得ス

前項以外ノ私設ノ電信又ハ電話ノ使用ヲ廢止シタルトキハ七日以内ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第八條 電信法第二條第四號ニ依ル私設ノ電信又ハ電話ノ使用ヲ開始、廢止又ハ中止セムトスルトキハ其ノ施設者ヨリ十五日前ニ連接電信官署ニ届出ツヘシ

第九條 私設ノ電信又ハ電話ノ使用ヲ廢止シタルトキハ特ニ期間ノ指定ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ線路及機器ヲ撤去スヘシ其ノ許可ノ効力ヲ失ヒ又ハ之ヲ取消サレタルトキ亦同シ

私設ノ電信又ハ電話ノ使用ヲ中止シ一年以上ニ及ヒタルトキハ之ヲ廢止シタルモノト看做ス

第十條 市街地ノ道路ニ架設スル私設ノ電信又ハ電話線ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ朝鮮總督府通信局長官ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限りニ在ラス

- 一 道路ノ兩側ニ跨ラス其一個ニノミ架設スルコト
- 二 道路ノ一側ニ架空ノ電信線、電話線其他電氣信號線アルトキハ其ノ同側ニ若其ノ一側ニ架空ノ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線アルトキハ他ノ一側ニ架設スルコト

第十一條 私設ノ電信又ハ電話ノ電線ヲ他ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト交又若ハ接近シテ架設スルトキハ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外二尺以上離隔スヘシ

第十二條 私設ノ電信又ハ電話ノ電線ヲ低壓若ハ高壓ノ電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空線ト交又若ハ接近シテ架設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ二尺迄

ニ短縮スルコトヲ得
私設ノ電信又ハ電話ノ電線ヲ特別高壓ノ電線ト
交叉シテ架設スルトキハ其下部ニ於テ三尺以上
離隔シ又接近シテ架設スルトキハ建設スヘキ電
柱ヲ其地表上高サノ一倍半以上離隔スヘシ
特別ノ事由ニ依リ私設ノ電信又ハ電話ノ電線ヲ
低壓又ハ高壓線ノ電柱ニ添架スルトキハ四尺以
上各其最低電線ヨリ下部ニ離隔スヘシ
前各項ニ依リ難キ事由アルモノハ通信局長官ノ
認可ヲ受ケ其ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第十三條 私設ノ電信又ハ電話ノ電線ヲ電燈、電
力又ハ電氣鐵道用架空線ト交叉若ハ接近シテ架
設スルトキ又ハ其ノ電柱ニ添架スルトキハ左ノ
裝白ヲ施スヘシ其ノ既ニ架設シタル後ニ於テ交
又接近若ハ添架ノ場合ヲ生シタルトキ亦同シ

一 低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ電信又ハ電話
線ノ機械ニ接続スヘキ屋内引込口ニ於テ五
「アムペア」以下ニテ熔解スル安全器三百
「ヴォルト」ニテ放電スル避雷器及二百五十

「ミリアマペア」以下ニテ動作スル熱線輪ヲ
設備スルコト

二 特別高壓電線ニ在リテハ通信局長官ノ認可
ヲ受ケ適當ノ保安裝置ヲ施スコト

第十四條 屋内ニ布設スル私設ノ電信又ハ電話ノ
電線ハ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ト完全ニ
離隔シ且電氣的混觸ヲ豫防スヘシ

第十五條 私設ノ電信又ハ電話ノ電線ヲ他ノ電線
ト其上部ニ於テ交叉シ又ハ三尺以内ノ距離ニ接
近シテ架設スルトキハ工事着手前ニ其電線ノ所
有者又ハ管理者ニ通知スヘシ其ノ既ニ架設シタ
ルモノヲ修理シ若ハ撤去ストキ亦同シ

第十六條 私設ノ電信又ハ電話ノ電柱ニハ施設者
名及電柱番號ヲ表記スヘシ

第十七條 電信法第二條第四號ニ依ル私設ノ電信
又ハ電話ノ連接電信官署内ニ於ケル工事茲ニ維
持ハ朝鮮總督府通信局之ヲ執行ス

前項ニ依ル私設ノ電信又ハ電話ノ施設者ハ通信
局ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ設備ニ要スル物件及

勞力ヲ供給シ且官廳用、軍用及私設電信電話並
特設電話維持規程ニ依リ其ノ維持ニ要スル料金
ヲ納附スヘシ

第十八條 朝鮮總督ハ私設ノ電信又ハ電話ノ施設
カ他ニ障害ヲ及ホシ若ハ危險ノ虞アリト認ムル
トキハ改修又ハ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘ
シ

第十九條 通信局長官ハ臨時吏員ヲシテ私設ノ電
信又ハ電話ノ裝置方法又ハ通信ノ狀況等ヲ検査
セシムルコトアルヘシ

第二十條 私設ノ電信又ハ電話ノ施設者本令ノ規
定ニ依リ發スル命令ニ違反シタルトキハ私設ノ
電信又ハ電話ノ使用ヲ停止シ又ハ其認可ヲ取消
スコトアルヘシ

第二十一條 本令ニ依リ朝鮮總督ニ提出スル書類
ハ總テ通信局ヲ經山スヘシ

第二十二條 第四條、第六條第一項若ハ第七條第
一項ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第五條、第六條第一項、第三項若ハ

第七條第二項ノ届出ヲ爲ササル者、第十五條ノ
通知ヲ爲ササル者又ハ正當ノ事由ナクシテ第十
九條ノ検査ヲ拒ミタルモノハ科料ニ處ス

第二十四條 電信法第二條第一號ノ私設ノ電信又
ハ電話ニ關シテハ第三條乃至第七條、第九條、
第十條、第十六條及第二十一條ノ規定ヲ適用セ
ス

第二十五條 電信又ハ電話ニ依ラサル信號ノ爲施
設スル電線ニ關シテハ第十條乃至第十六條、第
十八條乃至第二十條及第二十三條ノ規定ヲ準用
ス

正午時ノ通報ヲ受クル爲電信官署トノ間ニ施設
スル電線ニ關シテハ前項ノ外第三條乃至第九
條、第十七條、第二十一條及第二十二條ノ規定
ヲ準用ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○土地收用法

(明治三十三年三月
法律第二十九號)

- 第一章 總則
 - 第二章 事業ノ準備
 - 第三章 事業ノ認定
 - 第四章 收用ノ手續
 - 第五章 收用審査會
 - 第六章 損失ノ補償
 - 第七章 收用ノ效果
 - 第八章 費用ノ負擔
 - 第九章 監督、強制及罰則
 - 第十章 訴願及訴訟
- 附則
- 土地收用法
- 第一章 總則
- 第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其

ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

- 一 國防ノ他軍事ニ關スル事業
- 二 官廳又ハ公署建設ニ關スル事業
- 三 教育、學藝又ハ慈善ニ關スル事業
- 四 鐵道、軌道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、電燈氣、瓦斯燈又ハ火葬場ニ關スル事業
- 五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防、其ノ他ノ公用ノ目的ヲ以テ國府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業

第三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第四條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規

定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スル收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者ヲ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做サス但シ既存權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及ヒ立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ土地ニ立入り測量又ハ檢査ヲ爲スコトヲ得但シ此場合ニ於テ宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ノ準備ノ爲其ノ土地ニ立入り測量又ハ檢査ヲ爲ス場合ニ於テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五日前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通知スヘシ市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占

有者ニ通知スヘシ
日出前日没後邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者
ハ特ニ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ
第十一條 第九條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲
必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障
害物ヲ除去スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除去ヲ爲ス場合ニ於
テハ起業者ハ三日前ニ其ノ所有者及占有者ニ通
知スヘシ

第三章 事業ノ認定
第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事
業ハ内閣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此
ノ限ニ在ラス
第十三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスル
キハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ
テ内務大臣ニ申請スヘシ内務大臣ハ之ヲ審査シ
内閣ニ提出スヘシ
宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ
主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ

協議ヲ爲シテ之ヲ内閣ニ提出スヘシ
第十四條 内閣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及
事業ノ種類並起業地ヲ公告スヘシ
第十五條 天災事變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲
土地ヲ使用スルトキハ郡市長ハ其ノ事業ノ認定
ヲ爲スコトヲ得
前項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユル事ヲ得ス軍
事上臨時急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スル
トキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ郡市
長ニ通知スヘシ

第十六條 起業者カ郡市長ノ認定ヲ受ケムトスル
トキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使
用ノ期間ヲ定メテ郡市長ニ申請スヘシ
第十七條 郡市長カ認定ヲ爲シタルトキハ起業
者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用
ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ郡市
長カ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使
用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通
知スヘシ

第十八條 起業者カ内閣ノ認定ノ公告ノ後三箇年
内ニ第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ認定
ハ效力ヲ失フ

第四章 收用ノ手續

第十九條 内閣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ
依リ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目
ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知ス
ヘシ

軍機ニ關スル事業ニ就テハ主務大臣ハ地方長官
ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方
長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ
第二十條 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ
起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スル
コトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ
三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通
知スヘシ
日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸
内ニ立入ルコトヲ得ス

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知
ノ後起業者カ必要ト認ムルトキハ土地所有者又
ハ關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調書ヲ作ルコ
トヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調書
ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキハ起業者ハ市町村長
ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルコトヲ得但シ市町村長カ
起業者ナルトキ又ハ起業ニ對シテ第四十條第二
項ニ掲ケタル關係ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラ
ス

土地所有者又ハ關係人カ調書ノ必要ヲ認メタル
トキハ前二項ノ規定ヲ準用ス
起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依
リ作りタル調書ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述フ
ルコトヲ得ス

第二十二條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知
ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル
爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ前項ノ
協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサル

トキハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 收用審査會ノ議決ヲ求ムトスル時ハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要セス

一 事業計畫及圖面
二 市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類

收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件カ分割ヲ來スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積、建坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額及内譯

收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

土地所有者關係人ノ氏名、住所

收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同

時ニ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ豫メ公告ヲ爲シ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審査會ヲ開クヘシ

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルトヲ得

收用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルト

キハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

第二十九條 收用審査會カ招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條 收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲土地收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三十三條 郡市長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコ

トヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ

第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ効力ヲ失フ

第五章 收用審査會

第三十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ關シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

一 收用又ハ使用スヘキ收用ノ區域
二 損失ノ補償

三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間
起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

第三十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十八條 委員ハ高等文官及府縣名譽職參事會
員各三人ヲ以テ之ニ充ツ
高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ
命シ府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘキ者
ハ其ノ互選トス

第三十九條 收用審査會ノ委員半數以上出席スル
ニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數
ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人
ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ
得ス

委員カ起業者、收用所有者若ハ關係人ノ配偶者、
四親等内ノ親族、戸主、家族、代理人及保證人
ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タ
ル市町村ノ市參事會員、町村長、合名會社ノ社
員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、
株式會社ノ取締役及監査役其他ノ法人ノ理事及
監事ナルトキ亦前項ニ同シ

本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項
ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順
序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ内ヨ
リ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

- 一 府縣名譽職參事會員
- 二 府縣名譽職參事會員ノ補充員
- 三 府縣會議員

第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所
有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得
ス

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑
定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起
業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見
ヲ聽クコトヲ得

收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ
收用又ハ使用スヘキ土地以外ノ土地所有者ヲ呼
出シ其供述ヲ聽クコトヲ得

第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ

附シ會長之ニ捺印スヘシ

裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ捺捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ
請求スルコトヲ得

第四十六條 二府縣以上ニ渉ル事業ニ係ルトキハ
關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ
收用審査會ヲ開クコトヲ得

第六章 損失ノ補償

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ
起業者之ヲ補償スヘシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各
人別ニ見積リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ
價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ
料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因
リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ

生スヘキトキハ其損失ヲ補償スヘシ

第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ
從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ
土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ
得

第五十一條 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件
ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ
分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレハ從來
用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有
者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來
用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有
者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通
路、溝渠、塙柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築又
ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補
償スヘシ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ
收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人

ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十五條 土地ノ使用カ三箇年以上ニ亘ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ホシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ
第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルト

キハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七章 收用ノ效果

第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

- 一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ
- 二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ
- 三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ
- 四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用

ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス

- 一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ
- 二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ

第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ効力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ之ヲ買受ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス
第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍

機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

第六十七條 前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少クトモ三回ノ公告ヲ爲スヘシ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月内又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月内ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第八章 費用ノ負擔

第六十八條 起業者、土地所有者又關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除クノ外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ

第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得ス

第七十條 第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス

府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス

第九章 監督、強制及罰則

第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了スル見込ナキトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得

第七十四條 前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第七十五條 收用審査會員人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ賄賂ヲ贈與シ又ハ贈與スルコトヲ約シタル者亦同シ

第七十六條 第十一條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許

可ヲ得スシテ障害物ヲ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ニ立入りタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者ハ詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ詐僞ノ鑑定ヲ爲サシメタル者亦同シ

第八十條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者故ナク出頭セサルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十章 訴願及訴訟

第八十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレ
タリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ
得
前二項ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ裁決書謄本ノ交
付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ
之ヲ提起スルコトヲ得ス
本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル
事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコ
トヲ得ス
第八十二條 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定
ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコ
トヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ
三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スル
コトヲ得ス
第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テ
ハ前二項ノ規定ヲ準用ス
第八十三條 本法ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ事業ノ
進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

附則
第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施
行ス
第八十五條 明治二十二年法律第十九條土地收用
法ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル
手續其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタ
ルモノト看做ス
明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ
依リ收用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期
間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
明治八年太政官達第三百三十二號公用土地買上規
則ニ依リ買上ケ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ム
ル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス
第八十六條 收用審査會ノ爲スヘキ職務ハ北海道
及沖繩縣ニ於テハ地方長官之ヲ行フ
郡長ノ爲スヘキ職務ハ支廳長又ハ島司ヲ置キタ
ル地ニ於テハ支廳長又ハ島司之ヲ行ヒ支廳長又
ハ島司ヲ置カサル地ニ於テハ支廳長又ハ島司ニ
準スヘキ吏員之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ニ準スヘ

キ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ
吏員之ヲ行フ
市長ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テ區
長ヲ置キタル地ニ於テハ區長之ヲ行フ
町村長ノ爲スヘキ職務ハ町村制ヲ施行セサル地
ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ町村長
ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ郡長ニ準
スヘキ吏員之ヲ行フ
第八十七條 明治二十二年勅令第五號東京市區改
正土地建物處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ
各其ノ定ムル所ニ依ル
第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用
法明治二十三年法律第五十四號土地收用協議會
規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止
ス

○土地收用法施行令

(明治三十三年三月 勅令第九十九號)

土地收用法施行令
第一條 土地收用法第十條第三項及第十一條第一
項ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ市町村長之ヲ行
フ
第二條 土地收用法第九條、第十一條又ハ第二十
條ノ規定ニ依リ起業者ノ爲土地ニ立入り又ハ障
害物ヲ除却スル者ハ其證票ヲ携帯スヘシ日出前
日没後邸内ニ立入ル者又ハ障害物ヲ除却スル者
ハ行政廳ノ許可證ヲ携帯スヘシ
第三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスル場合
ニ於テ起業地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ
其ノ土地ニ關スル調書及圖面ヲ申請書ニ添付ス
ヘシ
一 御陵墓地及御料地
二 國有地
三 現ニ公用ニ供スル土地
四 社寺境内地
五 名所、舊蹟及古墳墓
第四條 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ハ

官報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五條 内閣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止、變更シタルニ因リテ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第六條 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依リ調書ヲ作りタル者ハ之ニ署名又ハ捺印スヘシ

第七條 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ縦覽期間ノ始期ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第八條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願スヘシ

- 一 工事ノ種類
 - 二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目
 - 三 其ノ必要ヲ生セシメタル事業トノ關係
- 本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス

第九條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十條 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十一條 收用審査會會長及委員ニハ旅費ヲ支給ス

第十二條 收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 鑑定人及事實參考人ノ旅費額ハ左ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

- 一 汽車賃一哩ニ付三錢以上六錢以下
 - 二 船賃一海里ニ付三錢以上六錢以下
 - 三 車馬賃一里ニ付十錢以上三十錢以下
- 通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

第十四條 鑑定人及事實參考人ノ手當ハ一日金一圓乃至五圓ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

第十五條 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ地方長官力決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二條ノ旅費額及手當ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 土地收用法第五十六條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ物件ノ附加増置ニ關シテハ之ヲ郡市長ニ委任スルコトヲ得

第十七條 土地收用法第六十七條ノ規定ニ依ル公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十八條 土地收用法第七十四條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ同法第七十一條ノ場合ニ於テハ市町村長之ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ於テハ地方長官之ヲ行フ

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○地租條例拔萃

(明治十七年三月太政官布告第七號)

第四條 左ニ掲ケル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス

- 一 國府縣市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地但シ有料借地ハ此限リニ在ラス
- 二 府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタル其ノ所有地但シ命令ノ定ムル期間内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ此

- 限ニ在ラス
- 三 鄉村社地
 - 四 墳墓地
 - 五 用惡水路、溜池、堤塘、井溝
 - 六 鐵道用地、軌道用地
 - 七 保安林
 - 八 公衆ノ用ニ供スル道路
- 府縣郡市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但シ所有者以外ノ者前項第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此限ニ在ラス

○地租條例施行規則拔萃

(明治四十三年十二月二十一日 勅令第四百四十四號)

第十三條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ三十日內ニ稅務署長ニ届出ツヘシ

- 一 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキ
 - 二 開墾ニ着手シタルトキ開墾成功シタルトキ開墾ヲ廢止シタルトキ又ハ開墾ノ目的ヲ變更シタルトキ
 - 三 地租ヲ課スル土地ヲ用惡水路、溜池、堤塘、井溝水道用地、鐵道用地、軌道用地若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ又ハ之ヲ供用ヲ廢止シタルトキ
 - 四 地租ヲ課スル土地ヲ地租條例第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ公用若クハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキ又ハ一年內ニ公用若ハ公共ノ用ニ供セサルトキ
- 前項ノ場合ニ於テ地價ヲ定メ又ハ修正スヘキトキハ實地ノ情況ニヨリ近傍ノ類地ト其ノ地方ヲ比較シ其ノ地價ヲ見積リ土地ノ測量圖ト共ニ書面ヲ差出スヘシ

○地盤官有ニ屬スル堤塘道路土地 使用ニ關スル件

(明治二十四年五月二十二日 內務省訓令第四百六十二號)

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ於テ處分スヘシ但市町村ノ處分ニ係ルモノハ府縣廳ノ許可ヲ請ハシムヘシ

前項堤塘道路並木敷使用料及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木其他ノ收益ハ其ノ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ノ收入ニ屬スヘシ

費用ノ負擔定ラサルカ又年々負擔ヲ異ニスル堤塘道路並木敷用惡水路土居敷等ニ關スル事項ハ府縣廳ニ於テ處分シ其收益ニ屬スルモノハ府縣廳ニ於テ之ヲ徵收シ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ配付スヘシ

地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘ノ使用及堤塘ヨリ生スル收益等ハ市町村ノ管理ニ歸セシムヘシ

○汽罐汽機取締規則

(明治二十七年四月二十六日 警視廳令第二十四號)

第一條 汽罐並汽機ヲ設置セムトスルモノハ其定着ニ係ルモノハ据付前其可搬ニ係ルモノハ使用前願書ニ左ノ事項ヲ添付シテ所轄警察署ヲ經テ警視廳ニ出願免許ヲ受クヘシ其増設、變更ヲナサムトスルトキモ亦同シ但此場合ニ於テハ増設、變更ニ關スル事項ノ外添付スルヲ要セス

- 一 設置場ノ地名、番號並ニ四隣ノ略圖
- 二 製造所工場及煙突ノ構造仕様書並ニ其略圖(平面圖、側面圖、截斷面圖)
- 三 工場落成期
- 四 機械ノ名稱及其數
- 五 汽罐、汽機使用ノ目的及使用時間
- 六 汽罐汽機取扱主任ノ履歷
- 七 汽罐構造調書

- 一 汽罐種類及箇數(「コルニツシユ、ランカシヤ」直立罐或ハ管成罐等ノ類)
- 一 汽罐寸法(罐胴長、徑何呎何吋、焰筒長、徑何呎何吋、火局長、徑何呎、火管徑何吋何本)
- 一 罐板ノ種類及厚(並鐵B B印付又ハ鋼鐵等ノ類厚何吋)
- 一 支柱並鉄ノ種類寸法及距離(支柱鐵質種類徑何吋距離何吋鉄質列數徑何距離何吋)
- 一 水壓試驗及其試驗年月日(每平方米上何磅何年何月何日)
- 一 常用汽壓 (每平方米何磅)
- 一 爐格ノ面積(巾何呎長何呎何吋何平方呎)
- 一 安全弁ノ種類個數及寸法(天秤發條等徑何吋何個)
- 一 製作所名及製作年月日並其履歷(何々工場又ハ何人ノ製作何年何月何日何人ヨリ買受何年何月何日修繕等)

- 八 汽機構造ノ調書
 - 一 燃料ノ種類(石炭又ハ松、楨等ノ類一口何程一ヶ年何程ノ區別)
 - 一 汽機ノ種類及箇數(凝縮又ハ不凝縮横置或ハ直立ニシテ何個)
 - 一 汽筒ノ寸法 徑何吋
 - 一 衝程ノ寸法 長何呎
 - 一 一回轉數 一分間何回
 - 一 實馬力 何程
 - 一 公稱馬力 何程
- 第二條 汽罐ハ据付又ハ使用前ニ於テ罐體ヲ検査シ適當ト認ムルトキハ檢印ヲ押スヘシ
- 第三條 汽罐及汽機ヲ設置スル製造所及工場ニハ必要ト認ムル場合ニ於テハ其構造ノ材料及設計ノ方法ヲ指示スルコトアルヘシ
- 第四條 汽罐汽機ノ設置場ハ皇城、離宮、御宮邸、公園、學校、病院其他必要ト認ムル場所ニ對シ適當ノ距離ヲ取ラシム
- 第五條 第一條ニ依リ設置セル汽罐並汽機ヲ買受

- 又ハ讓受ケ繼續使用セムトスルモノハ雙方連署ヲ以テ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ願出免許ヲ受クヘシ
- 第六條 第一條ノ免許ヲ得タル後其構造落成シタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ願出テ検査ヲ受ヘシ検査證(汽罐汽機検査證製造所検査證)ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス汽罐汽機検査證ハ機關室内見易キ場所ニ掲出スヘシ
- 第七條 正當ノ事由ナクシテ左ノ事項ノ一二觸ルルモノハ其免許ノ失効ヲ命スヘシ
 - 一 免許ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ建設ニ着手セサルトキ
 - 二 落成期日ヲ經過シテ尙落成セサルトキ
 - 三 燒失若クハ崩壞ニ係リ六ヶ月以内ニ再築ヲ願出テサルトキ
 - 四 休業六ヶ月以内ニ及ヒタルトキ
- 第八條 検査證面ニ異動ヲ生シ又ハ検査證ヲ遺失毀損シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ警

- 察分署ヲ經テ警視廳ニ届出書替又ハ再渡シテ請フヘシ但汽罐汽機使用ヲ廢止シタルトキハ検査證ヲ返納スヘシ
- 前項廢止ノ場合ニ於テ持主死亡シタルトキハ相續人ヨリ検査證返納ノ手續ヲナスヘシ
- 第九條 汽罐並汽機ハ検査證ニ表示ノ期限及常用汽壓ヲ超過シ使用スルコトヲ得ス
- 第十條 汽罐並汽機ニ異狀ヲ生シタルトキハ其使用ヲ停止シ速カニ其原因及模様ヲ詳記シ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ届出ツヘシ但此場合ニ於テハ検査ヲ受クルニアラサレハ使用ヲ繼續スルコトヲ得ス
- 第十一條 汽罐並汽機製造所若シクハ工場建物ノ毀損ニ依リ又ハ煤煙騒響其他發生物ニ依リ危險若クハ防害ノ虞アリト認ムルトキハ除害ノ裝置ヲ命シ若クハ其使用ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ
- 第十二條 汽罐並汽機ノ検査ハ定期臨時ノ二様ニ分チ定期検査ハ使用期限滿期ノ際ニ於テ之レヲ

行ヒ臨時検査ハ必要ト認ムルトキニ於テ之ヲ行
 フ但定期検査ノ日限ハ豫メ通知スヘシ
 第十三條 汽罐並汽機ノ検査ハ其要部ヲ點檢シ必
 要ト認ムルトキハ検査員ノ目前ニ於テ水壓試驗
 又ハ罐板孔穿検査ヲ施行セシムルコトアルヘシ
 第十四條 検査ニ依リ汽罐汽機ノ使用ニ堪エサル
 ナ認メタルトキハ罐體ニ消印シ其検査證ヲ返納
 セシム
 第十五條 定期検査ノ通知ヲ受ケタルトキハ汽罐
 ノ貯水ヲ排出シ人孔泥孔及爐格並火橋ヲ取外ツ
 シ罐體ヲ冷却セシメ汽笛ノ蓋ヲ取拂ヒ煙突其他
 検査ニ必要ノ部分ヲ洒掃シ受験ノ準備ヲ爲シ置
 クモノトス
 第十六條 検査ノトキ製造所工場ノ持主汽罐汽機
 取扱主任ハ検査ニ立會フヘシ
 第十七條 第十五條ノ準備ヲ怠リ若クハ事由ニ托
 シ検査ヲ拒ミタルモノハ汽罐汽機ノ使用ヲ停止
 スルコトアルヘシ
 第十八條 警視廳ハ警察官吏ヲ派遣シ製造所工場

ノ視察ヲ爲サシムルコトアルヘシ
 第十九條 本則第一條、第五條、第六條、第八條、
 第九條、第十條、第十五條、第十六條及第十一
 條及第十七條ノ停止ヲ犯シタルモノハ刑法第四
 百二十五條第五項ニ依リ三日以上十日以下ノ拘
 留又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 附則
 一 從來ノ汽罐並ニ汽機ハ明治二十七年定期檢
 査ニ於テ其使用期限ヲ定メ罐體ニ檢印ヲ打
 ツヘシ
 二 從來汽罐汽機ヲ設置シ居ルモノハ明治二十
 七年六月二十日迄ニ本則第一條第四號、第
 五號、第六號ノ事由ヲ取調ヘ警視廳ニ差出
 スヘシ
 三 瓦斯、石油、空氣及水ノ力ヲ使用スル原動機
 (木製水車ヲ除ク)ヲ設置セムトスルモノハ
 總テ汽機ニ準シ本則ヲ適用ス(追加)
 四 從來瓦斯、石油、空氣及水ノ力ヲ使用スル原
 動機(木製水車ヲ除ク)ヲ設置シ未タ其許可
 ナ受ケサル者ハ明治三十八年六月三十日迄
 ニ本則第一條ノ規定ニ準シ願出許可ヲ受ケ
 ン(追加)

○輕便鐵道法

(明治四十三年四月二十一日)
法律 第五十七號

第一條 輕便鐵道ヲ敷設シ一般運送ノ用ニ供セム
 トスル者ハ左ノ書類及圖書ヲ提出シ主務大臣ノ
 免許ヲ受クヘシ
 一 起業目論見書
 二 線路豫測圖
 三 敷設費用ノ概算書
 四 運送營業上ノ收支概算書
 第二條 主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ免
 許ニ條件ヲ附スルコトヲ得
 第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許ニ指定シタル期
 限内ニ線路實測圖、工事方法書及工費豫算書ヲ
 提出シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ會社ニ在
 リテハ定款ヲ添付スルコトヲ要ス
 第四條 線路ハ之ヲ道路上ニ敷設スルコトヲ得ス
 但シ必要ナル場合ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケ

タルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第五條 私設鐵道法第九條第二項、第二十條、第
 四十一條、第四十二條、第五十三條乃至第五十
 五條及第八十條ノ規定ハ輕便鐵道ニ之ヲ適用ス
 但シ第九條第二項ノ規定ハ私設鐵道株式會社ニ
 非ラサル會社カ兼業トシテ輕便鐵道ヲ敷設スル
 場合ニハ此ノ限ニ在ラス(明治三十三、三十一、六法律)
 第六條 鐵道營業法ハ輕便鐵道ニ之ヲ適用ス(三三、
 道營業法參照)
 第七條 明治四十二年法律第二十八號ハ輕便鐵道
 ノ抵當ニ之ヲ準用ス
 第八條 本法ニ依リ運送ノ業ヲ爲ス者ニ對シテハ
 命令ノ定ムル所ニ依リ鐵道船舶郵便法ヲ準用ス
 附則
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十
 三年八月勅令第三百十四號ヲ以テ同年八月三日ヨ
 リ施行)本法施行前免許又ハ特許ヲ受ケタル鐵道
 及軌道ニシテ將來本法ニ依ラシムヘキモノハ主務
 大臣之ヲ指定ス

○輕便鐵道法施行規則

(明治四十三年八月二日) 閣令 第十二號

- 第一條 輕便鐵道免許ノ申請書ハ主タル事務所ヲ設置セムトスル地ノ地方長官ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ
- 第二條 地方長官ハ前條ノ申請書ニ意見書ヲ附シテ進達スヘシ
- 起業カ他ノ地方管内ニ係ルトキハ地方長官ハ關係地方長官ニ商議シ前項ノ意見書ヲ調製スヘシ
- 第三條 免許ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附シ申請者又ハ其ノ代理人記名捺印スヘシ但シ代理人ニ於テ記名捺印スルトキハ其ノ委任狀ヲ添附スヘシ
- 一 組合事業ニ在リテハ其ノ組合ニ關スル契約書謄本
- 二 會社ヲ設立セムトスル者ニ在リテハ假定款謄本

- 三 私設鐵道株式會社又ハ軌道會社ニ在ラサル會社ニ在リテハ其ノ登記謄本及定款謄本
- 四 府縣郡其ノ他ノ公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ決議書
- 第四條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 目的
- 二 鐵道ノ名稱及主タル事務所設置地
- 三 事業資金ノ總額及其ノ出資ノ方法
- 四 線路ノ起點、終點及其ノ經過スヘキ地名但シ線路ノ一部ヲ道路上ニ敷設セムトスルモノハ其ノ區間ヲ道路ノ種別ニ區分シ之ヲ記載スヘシ
- 五 鐵道ノ種類及軌道但シ電氣ヲ動力トスルモノハ原動力ノ種類、電氣ノ方式及電氣鐵道ノ方式ヲ記載シ他ヨリ電力ヲ供給ヲ受クル者ハ供給者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ併セテ記載スヘシ
- 六 營業期間ヲ定メタルトキハ其ノ期間
- 第五條 線路豫測圖ハ左ノ二種トス

- 一 平面圖
- 縮尺ハ一時三十鎖以上トシ線路ノ地勢並停車場ノ位置及名稱ヲ記載シ距離ハ半哩毎ニ記載スヘシ
- 二 縱斷面圖
- 縮尺ハ距離チ一時三十鎖以上高チ一時百五十尺以上トシ中心線地面ノ高低及施工基面ノ高低ヲ示シ隧道及橋梁ノ長、線路ノ勾配並停車場ノ位置及名稱ヲ記入スヘシ
- 第六條 敷設費用ノ概算書ハ第一號様式ニ依リ其ノ總額及内譯各項毎ニ金額ヲ記載シ且線路ノ哩數ヲ掲クヘシ
- 第七條 運送營業上ノ收支概算書ハ第二號様式ニ依リ收入及支出總額並其ノ内譯ヲ示シ且資金ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ
- 第八條 輕便鐵道法第三條ノ規定ニ依ル工事施行ノ認可前ニ於テ起業目論見書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ認可ヲ受クヘシ

- 第九條 免許申請中申請者其ノ氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ一週間内ニ其ノ旨届出ツヘシ
- 申請者中死亡シタル者アルトキハ他ノ申請者ヨリ既設ノ會社ニシテ解散シタルトキハ清算人ヨリ一週間内ニ其ノ旨届出ツヘシ
- 第十條 工事施行ノ認可申請書ハ地方長官ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ
- 起業カ他ノ地方管内ニ係ルトキハ其ノ關係部分ニ對スル書類圖面ノ謄本ヲ調製シ之ヲ關係地方長官ニ提出スヘシ
- 會社ヲ設立シタル場合ニ於テハ工事施行認可申請書ニハ會社ノ登記謄本ヲ添附スヘシ
- 第十一條 線路實測圖ハ左ノ二種トス
- 一 平面圖
- 縮尺一時三十鎖以上トシ線路ノ左右各十鎖以內ノ地勢ヲ明ニシ其ノ他附近ノ市街、村落、社寺、名勝、舊跡、公園、道路、山嶽、河川、港灣、要塞地等ヲ示シ府、縣、郡、市、町、村ノ境界及磁針方位ヲ記スヘシ

路中心線ノ距離ハ半哩毎ニ記シ曲線ノ半徑及交角、停車場、停留場聯絡所及信號所ノ名稱及哩程並隧道橋梁ノ名稱及位置ヲ示スヘシ

二 縱斷面圖

縮尺ハ距離ヲ平面圖ト同一ニシテ高ハ一吋百五十呎以上トシ中心線地面ノ高低、施工基面ノ高低及築堤ノ高並切取ノ深ヲ十鎖毎ニ記シ隧道及橋梁(橋ヲ含ム)ノ長、桁ノ種類及箇數、停車場、停留場、聯絡所及信號所ノ名稱及哩程並國道其ノ他ノ重要ナル道路踏切ノ位置及線路ノ勾配ヲ詳記スヘシ
線路カ他ノ鐵道又ハ軌道ト交叉連絡又ハ接近スルトキハ該線路ノ前後各半哩間ノ中心線及高低ノ關係ヲ明ニスヘシ
線路カ市街地其ノ他重要ナル地點ヲ通過シ又ハ之ニ接近スルトキハ別ニ明細圖ヲ添附スヘシ

第十二條 工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 單線又ハ複線等ノ區別

二 軌間軌道ノ間隔
三 建築定規及車輛定規(圖面添附)

四 曲線ノ最小半徑
五 線路ノ最急勾配

六 施工基面ノ幅、築堤及切取斜面ノ勾配並用地ノ幅(圖面添附)

七 橋梁ノ臺脚及基礎ノ施工方法、桁及拱ノ材質、構造、寸法及所定最大活重並桁各部ノ最大應力(圖面添附)

八 隧道ノ各種、地質ニ應スル施工斷面、坑門及排水渠ノ構造(圖面添附)

九 軌條及附屬品ノ材質、形狀及重量、枕木ノ寸法及敷設間隔並轉轍器及轍叉ノ構造(圖面添附)

十 停車場ニ於ケル諸建造物及側線ノ配置(圖面添附)

十一 機關車ニ在リテハ
輛數、形狀及主要寸法(圖面添附)
汽笛ノ直徑及衝程、汽罐ノ傳熱面、爐

面ノ大及實用最高汽壓、各車輛一對ノ負擔重量並水槽及燃料櫃ノ容量

汽罐及其ノ附屬品、機械部、車臺、ボギー、車輪、車軸、擔彈機及制動、牽引、緩衝等各裝置ノ構造(圖面添附)
客車、貨車及其ノ他ノ車輛ニ在リテハ輛數、形狀及主要寸法(圖面添附)

定員、積載量、容積及自重

車體及附屬品、車體、「ボギー」、車輪、車軸、擔彈機及制動、牽引、緩衝、點燈等各裝置ノ構造(圖面添附)

十二 他ノ鐵道又ハ軌道トノ交叉方法

十三 其ノ他特種ノ設計ニ依リ施設スヘキ工事方法

電氣ヲ動力トスルモノハ前項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 電動機ノ種類、箇數及馬力數

二 發電所、變壓所及配電所ノ位置並其ノ位置ヨリ軌道ニ達スル電線路ノ經過地名(圖面

添附)

三 發電機ノ種類、箇數「ワット」數及最大電壓

四 變壓器、電動發電機、電流變式機、蓄電池及「ブスター」ノ種類、箇數及「ワット」數

五 發電所、變壓所及配電所内電線接續法(圖面添附)

六 電線路ノ種類及構造

七 電氣鐵道ノ方式、最大電壓及單線式ニ在リテハ軌條ノ接續法

八 自働車又ハ機關車内ニ裝置スル電動機ノ種類、箇數及馬力數、制御機ノ種類並其ノ他附屬器具機械ノ種類、箇數及其ノ裝置法

第十三條 工事施行ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テ停車場、橋梁、車輛及電氣ニ關スル設計ヲ確定スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具シ大體ノ設計ヲ定メテ之ヲ認可ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テハ更ニ詳細ナル設計ヲ定メ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第十四條 工費豫算書ハ第三號様式ニ依リ調製ス

ヘシ工費豫算總額ヲ變更スルトキハ前項ノ様式ニ依リ新舊ヲ對照シ理由ヲ附シ其ノ都度之レヲ届出ツヘシ

第十五條 工事施行ノ認可ヲ其ノ指定期限内ニ申請スルト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具シ地方長官ヲ經由シテ期間ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

第十六條 工事方法ヲ變更セムトスルトキハ新舊事項ヲ對照シ理由ヲ附シ認可ヲ受クヘシ

第十七條 認可ヲ經タル工事方法ノ範圍内ニ於テ左ノ變更ヲ爲シタルトキハ理由ヲ具シ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ

- 一 踏切道、道路及河川附替工事ノ伸縮増減
- 二 橋梁及隧道ノ伸縮増減
- 三 停車場ニ於ル諸建造物及側線ノ伸縮増減
- 四 車輛ノ増加
- 五 車輛ノ改造

第十八條 線路ヲ變更セムトスルトキハ理由書及新舊對照圖面ヲ添附シ認可ヲ受クヘシ
左記各號ニ該當スルモノハ前項ノ書類圖面ヲ添

附シ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ

- 一 線路中心線ノ異動カ實測平面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ於テハ左右各半鎖其ノ他ニ於テハ各五鎖以内ニ在ルトキ
- 二 施工基面高低ノ變更カ實測縱斷圖面ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ於テハ二呎其ノ他ニ於テハ六呎以内ニ在ルトキ

線路ノ變更カ内務省直轄河川又ハ著名ノ建造物所在地ニ關係ナ有スルトキハ前項ノ規定ニ該當スル場合ト雖認可ヲ受クルコトヲ要ス

停車場、停留場、聯絡所及信號所ノ名稱ヲ變更シタルトキハ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ停留場ヲ設置シ又ハ其ノ位置ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十九條 鐵道敷設ノ工事ヲ著手シタルトキハ一週内ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十條 運輸開始後假工事ヲ施行シタルトキハ理由、工事方法及使用期間ヲ記載シ圖面ヲ添附

シ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ

第二十一條 鐵道ノ事故ハ之ヲ届出ツヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケタル者ハ每營業年度末一月内ニ營業報告書ヲ提出スヘシ

第二十三條 免許ヲ受ケタル者ハ鐵道臺帳ヲ調製シ之ヲ備置クヘシ

第二十四條 免許ヲ受ケタル者ハ鐵道統計ヲ調製シ之ヲ提出スヘシ

第二十五條 會社ニ於テ商法ニ依ル登記ヲ爲シタルトキ及ハ定款ヲ變更シタルトキハ其都度之ヲ届出ツヘシ

第二十六條 他ノ鐵道又ハ軌道ト連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ストキハ左ノ事項ヲ記載シ契約書ノ謄本ヲ添附シ實施後一週内ニ之ヲ届出ツヘシ

- 一 連帶驛名
- 二 旅客及荷物取扱方法
- 二 賃金割賦方法
- 四 供用停車場、食庫等ニ關スル使用料及其ノ他ノ事項

- 五 線路及車輛使用料並遲滯料等ニ關スル事項
- 六 運輸及責任負擔方法
- 七 運輸開始ノ年月日

第二十七條 輕便鐵道ノ抵當ノ取扱ニ關シテハ軌道抵當取扱規則第一條、第三條、第五條及第六條ノ規定ヲ準用ス

第二十八條 免許失効シタルトキハ遲滯ナク地方長官ヲ經由シ免許狀ヲ返納スヘシ

附則
本令ハ輕便鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

輕便鐵道法施行規則附屬第一號樣式
何々間敷設費用概算書

何鐵道豫測線

		哩 鎖 節		
項	數量	平均單價	金 高	備 考
測量及監督費				
用地費	段			
土工費	坪			
橋梁費	延長			
隧道費	"			
軌道費	哩			
線路費	"			
停車場費	箇所			
車輛費				
諸建物費				
發電所費				
.....				
.....				
總係費計			敷設費
合 計		
一 哩 = 付		
				總 計

輕便鐵道法施行規則附屬第二號樣式

何鐵道豫測線

何々鐵道收支概算書

線 路	建設費		貨物噸哩		旅客人哩		貨物收入		旅客收入		營業費		鐵道純益		摘 要
	合計	每一哩	合計	每一哩	合計	每一哩	合計	每一哩	合計	每一哩	合計	每一哩	合計	本々 對合	

輕便鐵道法施行規則

何鐵道豫測線

何々間工

哩 鈔

項	目	數量	平均 單價	金高	合計
		哩	圓	圓	圓
測量及監督費	用地費				
土工費	線路用地	段			
	停車場用地	〃			
橋梁費	發電所用地	〃			
	切築取堤	立坪			
隧道費	何川橋梁	延長呎			
	何川何外箇所	〃 箇所			
軌道費	何々隧道	延長呎			
	何々外何箇所	箇			
電線路費	軌條及附屬品	哩			
	枕砂敷設	本立坪哩			
	饋送電電	哩			
	線線線柱	本			

總高

則附屬第三號樣式

費豫算書

節

項	目	數量	平均 單價	金高	合計
			圓	圓 越高	圓
停車場費	何々驛				
車輛費	何驛外何箇所				
	機關車	輛			
諸建物費	客貨車	輛			
	發電所	〃			
發電機	建發電機				
				
總係費				
				
總合一	哩				
	係計付				

○輕便鐵道法第四條但書ニ依ル線路敷設ノ許可手續

(明治四十三年八月二日) 內務省令第二十七號

第一條 輕便鐵道法第四條但書ニ依リ線路敷設ノ許可ヲ得ントスル者ハ道路上ニ敷設スル必要ナル事由ヲ詳記シ書類及圖面ヲ具シ敷設地ノ地方長官ヲ經由シテ內務大臣ニ申請スヘシ

一 起業目論見書

二 工事方法概略書

三 全線路ノ豫測平面圖及道路上ニ敷設ス可キ線路ノ豫測圖並説明書

四 道路上ニ於ケル敷設費ノ概算書

第二條 全線路ノ豫測平面圖ハ縮尺一吋三十釐(二萬分)一ヲ以テ代用スルコトヲ得トシ沿線ノ地勢、市街村落附近ノ道路及既設又ハ未設ノ鐵道又ハ軌道及其ノ名稱ヲ記スヘシ

第三條 道路上ニ敷設ス可キ線路ノ豫測圖ハ左ノ

二種トス

一 豫測平面圖
縮尺ハ五千分ノ一トシ鐵道ノ中心線ハ赤色ヲ以テ之ヲ彩リ鐵道ヲ敷設セントスル國道、縣道、里道ノ分界並其ノ地名及沿線ノ地勢、市街村落附近ノ道路又ハ既設若ハ未設ノ軌道又ハ軌道及其ノ名稱等ヲ明ニシ距離ハ百間毎ニ記入ス可シ

二 豫測縱斷面圖
縮尺ハ平面圖ト同一ニシ高ハ縮尺五百分ノ一トシ鐵道中心線路面ノ高低(黑色)鐵道面ノ高低(赤色)及隧道、橋梁ノ長、鐵道ノ勾配並其ノ距離ヲ記入ス可シ

第四條 線路豫測圖ノ説明書ニハ沿線ノ地勢及線路撰定ノ理由ヲ詳記シ附近ノ道路、市街、村落、池沼、河川、港灣、社寺、公園、名所、舊蹟、學校、病院、兵營、工場等重ナルモノトノ關係ヲ説明ス可シ

第五條 道路上ニ於ケル敷設費ノ概算書ニハ其ノ

總額及用地、橋梁、溝渠、伏樋、隧道、軌道、土工、雜費其ノ他各種ノ項目ニ區別シ其ノ金額ヲ記載スヘシ

第六條 本則ニ規定シタルモノノ外必要ナル事項ハ許可ノ際命令書ヲ以テ之ヲ定ム

○輕便鐵道補助法

(明治四十四年三月廿三日) 法律第十號

第一條 輕便鐵道ニ於テ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ一年五分ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ該鐵道營業開始ノ日ヨリ五年ヲ限リ其ノ不足額ヲ補給スルコトヲ得但シ營業收入ノ營業費ニ不足スル金額ニ對シテハ之ヲ補給スルコトヲ得ス

第二條 補助ヲ爲スヘキ輕便鐵道ハ二呎六吋以上ノ軌間ヲ有スルモノニ限ル

第三條 第一條ノ補助金ノ年額ハ明治四十四年度

ニ於テハ二十五萬圓爾後每年度二十五萬圓ヲ累加シ百二十五萬圓ニ至リテ止ム

第四條 輕便鐵道ハ每營業年度ニ於テ其ノ益金カ建設費ニ對シ一年八分ノ割合ヲ超過スルニ至リタルトキハ其ノ超過額ノ二分ノ一ヲ以テ政府ノ補助シタル總額ニ達スル迄之ヲ償還ヲ爲スヘシ

第五條 第一條及第四條ノ建設費、營業費、營業收入及益金ニ關シテハ命令ヲ以テ其ノ算出方法ヲ定ムルコトヲ得

第六條 輕便鐵道ノ管理者カ法令若ハ法令ニ基キテ發スル命令、免許若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行為ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ補助ヲ停止又ハ廢止スルコトヲ得

第七條 詐欺ノ所爲ヲ以テ補助金ヲ受ケタルトキハ其法定ノ利息ヲ附シテ之ヲ償還セシム

前項ノ償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(註、明治四十四年勅令第二百九十一號ヲ以テ同四十六年一月一日ヨリ施行)
本法施行ノ日ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ新ニ補助ヲ爲スコトヲ得

○輕便鐵道營業規程

(明治四十三年八月二日) 閣令第十三號

第一章 總則

- 第一條 本規程ハ一般運送ノ用ニ供スル輕便鐵道ニ之ヲ適用ス
- 第二條 輕便鐵道ハ特別ノ事由アル場合ニ於テハ許可ヲ受ケ本規程ノ條項ニ依ラサルコトヲ得
- 第三條 自働車ニハ機關車及列車ニ關スル規程ヲ準用ス

第二章 建設

第四條 建築定規ト車輛定規トハ鐵道ノ狀態ニ應

シ相互間ニ適當ノ間隔ヲ存シテ之ヲ定ムルコトヲ要ス
第五條 蒸氣ヲ動力トスル鐵道ノ軌間ハ特別ノ場合ヲ除クノ外三呎六吋トス
第六條 本線路ニ在ル曲線ノ半徑ハ停車場内其ノ他特別ノ場合ヲ除クノ外五鎖以上ナルコトヲ要ス

第七條 線路ノ勾配ハ特別ノ場合ヲ除クノ外二十

五分ノ一ヨリ急ナラサルコトヲ要ス

第八條 交通頻繁ナル道路上又ハ通船頻繁ナル河川ニ架設スル橋梁ハ車輛ノ輻及其ノ兩側各六吋

以上軌道面下ヲ蓋フコトヲ要ス

第九條 閉塞式ヲ施行スル線路ニ於テハ自働閉塞信號ニ依ル場合ヲ除クノ外停車場間ニ在ル閉塞

區間ノ境界點ニ信號所ヲ設ケルコトヲ要ス

第十條 閉塞區間ノ境界點ニ於ケル停車場(自働閉塞信號ニ依ル場合ヲ除ク)單線ニ於テ列車ノ

行違ヲ爲ス停車場並聯絡所及信號所ニハ特別ノ場合ヲ除クノ外常置信號機ヲ設ケルコトヲ要

第十一條 乗客多キ停車場ニハ待合所其ノ他相當ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 線路ニハ左ノ標識ヲ設ケルコトヲ要ス

一 每半哩ノ距離ヲ示ス哩程標

二 本線路ニ接續スル側線又ハ支線アル場所ニハ車輛ノ停止區域ヲ示ス警標

三 交通頻繁ナル踏切道ニハ通行人ノ注意ヲ惹クヘキ警標

第十三條 保安上特ニ必要ナル場所ニハ堤塘、柵垣又ハ溝渠ヲ設ケルコトヲ要ス

交通頻繁ニシテ且展望惡シキ踏切道ニハ門扉其ノ他相當ノ保安設備ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條 車輛ニハ特別ノ場合ヲ除クノ外擔彈機及彈性ノ聯結裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第十五條 電氣ヲ動力トスル機關車ニハ左ノ裝置ヲ爲スコトヲ要ス

一 特別ノ場合ヲ除クノ外前後ニ制御機ヲ設ケルコト

二 自働遮斷器ヲ附スルコト

三 架空線式ノ場合ニ於テハ避雷器ヲ設ケルコト

四 警鐘又ハ警笛ヲ備フルコト

五 乗務員間ノ合圖器ヲ備フルコト

六 前後ニ排障器ヲ附スルコト

七 他ノ制動機ノ裝置アル場合ニ於テモ手用制動機ヲ備フルコト

第十六條 客車内ノ面積ハ旅客定員一人ニ付平均

三平方呎ヨリ小ナルコトヲ得ス但シ起立乗客ニ對スル相當ノ設備アル場合ニ在リテハ之ヲ縮小スルコトヲ得

特別ノ場合ヲ除クノ外客車窓硝子ノ面積ハ旅客定員一人ニ付六十平方吋ヨリ小ナラサルコトヲ要ス

客車内各室ニハ點燈裝置ヲ爲スコトヲ要ス

第十七條 電氣工作物ハ電氣上ノ危害ヲ生スルノ虞ナキ様特ニ施設ヲ爲スコトヲ要ス

第十八條 架空電車線ハ直徑十分ノ三吋以上ノ圓

形ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強度ヲ有スルモノナルコトヲ要ス
電車線ハ特別ノ場合ヲ除クノ外之ヲ建築定規ノ範圍外ニ架渉スヘシ
發電所及變壓所ニハ相當ノ豫備機械ヲ備フルコトヲ要ス

第十九條 鐵道建設規程第十七條第三項、第二十二條、第三十二條、第四十三條、第四十四條第四項及第四十五條ノ規定ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス

第三章 運轉

第二十條 線路ハ常ニ危險ナク列車ヲ運轉スルコトヲ得ヘキ状態ヲ保持スルコトヲ要ス

線路ハ毎日少クトモ一回從事員ヲシテ巡視セシムヘシ

第二十一條 本線路ニ在ル轉轍器ハ列車又ハ車輛カ對向通過ノ際之ヲ鎖錠シ置クカ又ハ其ノ取柄

ヲ支持スヘシ但シ安全裝置ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 交通頻繁ナル道路ニシテ遠方ヨリ展望スル能ハサル踏切其ノ他必要ナル箇所ニハ列車運轉中番人ヲ置キ之ヲ看守セシムヘシ

第二十三條 電氣ヲ動力トスル機關車ハ使用前及使用開始後少クトモ一年毎ニ一回電動機其ノ他ノ各部ヲ検査シ同時ニ電氣上ノ試験ヲ爲スヘシ

一年內ト雖重要ナル修繕ヲ施シタルトキ亦同シ試験及検査ノ成績ハ帳簿ニ詳記シ最終検査ノ年月ハ機關車ニ之ヲ標記スヘシ

第二十四條 停車場內ノ運轉其ノ他特別ノ場合ヲ除クノ外列車ハ其ノ左方ノ線路ヲ進行スヘシ

第二十五條 各列車ニハ少クトモ左表ニ掲クル區別ニ依リ該列車カ有スル車輛ノ數ニ比例シタル制動機(車側制動機ヲ除ク)ヲ備フヘシ

線路ノ勾配	百軸ニ對シ制動機ヲ附スヘキ軸數		列車ノ平均速度
	一時間十哩以下	一時間十五哩以上	
二十五分	四〇	四九	四〇
三十分	三三	四一	三三
四十分	二二	二五	二二
五十分	一八	二〇	一八
六十分	一五	一七	一五
七十分	一三	一五	一三
八十分	一一	一三	一一
百分	九	一一	九
百分一	六	八	六
百分二	四	七	四
百分三	三	六	三
百分四	二	五	二
百分五	一	四	一
百分六	一	三	一
百分七	一	二	一
百分八	一	一	一
百分九	一	一	一
百分十	一	一	一

前表ニ依リ制動機ヲ附スヘキ車輛ノ數ヲ算出スルニハ左ノ規定ニ依ル

一 表中ニ掲クル勾配又ハ速度ノ中間ニ位スルモノハ制動機數ノ多キモノヲ取ルヘシ

二 最急勾配五十鎖以上續クトキハ其ノ勾配ヲ以テ標準ト爲スヘシ若シ最急勾配力何レノ箇所ニ於テモ其ノ長五十鎖ニ達セサルトキハ五十鎖ノ距離ニ於テ高低ノ差ノ最大ナル部分ヲ取リ其ノ兩端ヲ連接スル直接ノ勾配ヲ以テ標準ト爲スヘシ

三 機關車及炭水車ハ相當ノ率ニ依リ其ノ軸數ヲ換算スヘシ

四 貨車ノ空虛ナルモノニ在リテハ其ノ一軸ヲ以テ半軸ニ換算スヘシ

五 計算上軸數ニ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一ニ切り上クヘシ

下リ勾配線ヲ運轉スル場合ヲ除クノ外前部機關車及炭水車ノ車輛ヲ計算外トシ列車カ備フル制動機ノ數カ前表十哩ノ速度ニ應スル割合ニ達セサルトキハ之ヲ該割合以上ニ増加スヘシ

旅客列車ノ制動機ヲ要スル軸數ハ其ノ機關車及炭水車ニ備フルモノヲ除キ二箇ヨリ少カルヘカラス
 二十五分ノ一ヨリ急ナル勾配ヲ有スル線路ニ於テ運轉シ、車輪ニ直働セサル制動機ヲ使用シ又ハ前表ニ掲クル平均速度ヲ超過スル場合ニ於ケル制動機數ハ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ
 第二十六條 線路ノ勾配力ニ百分ノ一ヨリ急ナルトキハ列車ノ後部(推進ノ場合ニハ前部)ニ在ル車輛ニハ手用制動機ノ裝置アルコトヲ要ス如何ナル場合ニ於テモ後部(推進ノ場合ニハ前部)ノ車輛ニハ適當ナル職員ヲ乗込マシムヘシ
 第二十七條 二車以上ニ跨ル貨物ヲ積載シタル貨車ハ特別ノ裝置ヲ施シタル場合ニ限リ旅客列車ニ聯結スルコトヲ得但シ三車以上ニ跨ルモノハ客車ヨリ二輛以上ヲ隔テ聯結スルヲ要シ其ノ運轉速度一時間十五哩ヲ超過スルコトヲ得ス
 第二十八條 列車ハ停車場又ハ停留場以外ノ場所ニ於テ旅客貨物取扱ノ爲停車場スルコトヲ得ス

第二十九條 隣接シタル停車場、聯絡所又ハ信號所間ニ於テハ同一軌道ニ同時ニ一列車ノ外運轉スルコトヲ得ス
 左ニ掲クル場合ニ於テハ續行列車ヲ運轉スルコトヲ得
 一 列車ノ平均速度一時間十哩ヲ超ヘサルトキ
 二 單線ニシテ五十鎖ノ距離ニ於テ高低ノ差ノ最大ナル部分ヲ取り其ノ兩端ヲ連接スル直線ノ勾配力五十分ノ一ヨリ緩ナルトキ
 續行列車運轉ノ場合ニ於テハ其ノ速度ニ應シ兩列車間ニ相當距離時間アルコトヲ要ス
 列車運轉上ノ保安ニ關スル規定ハ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ
 第三十條 停車場ニ於ケル車輛入レ換ハ停車力隣接停車場、聯絡所又ハ信號所ヨリ該停車場ニ向ヒ出發ノ後ハ相當ノ防護ヲ爲スニ非サレハ場内信號ノ防護區域外又ハ常置信號ノ設ケナキ停車場ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス
 第三十一條 電氣ヲ動力トスル機關車ニ於テ運轉

手其ノ位置ヲ離ルル場合ニハ制御機ノ取柄ヲ外シ置クヘシ
 第三十二條 列車ノ運轉ニ關シテハ當務者ヲシテ毎日列車ノ組成、發著時刻其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル報告書ヲ調製セシムヘシ
 第三十三條 鐵道運轉規程第二條第三項、第五條、第七條乃至第十一條、第十八條、第十九條第一項、第七項、第二十二條第四項、第五項、第二十五條第二項、第三項、第二十六條及第二十八條ノ規定ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス
 第四章 信號
 第三十四條 鐵道信號規程ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス
 鐵道信號規程第十七條ノ距離ハ四分ノ一哩迄之ヲ短縮スルコトヲ得
 列車ノ前部ニ掲クル信號ハ白色燈ノ外之ヲ省略スルコトヲ得
 列車ノ後部ニ掲クル信號ハ緩急車ノ兩側ニ掲クル圓板及燈ヲ省略スルコトヲ得

第五章 運輸
 第三十五條 鐵道運輸規程ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス
 第三十六條 鐵道運輸規程第五條、第十九條第二項、第二十條、第三十一條及第四十五條ノ規定ハ停留場ニ之ヲ準用ス
 第三十七條 傳染病患者鐵道乘車規程及火藥類鐵道運送規程ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス
 第六章 職制
 第三十八條 輕便鐵道ニ左ノ係員ヲ置ク
 營業長
 驛長
 車掌
 運轉手
 保線手
 電氣主任
 第三十九條 營業長ハ鐵道ノ運輸、運轉及保存ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ係員ヲ監督ス
 第四十條 驛長ハ營業長ノ指揮ヲ承ケ驛務ヲ處理

第四十一條 車掌ハ營業長ノ指揮ヲ承ケ列車ノ運轉及輸送ノ事務ニ從事ス

鐵道係員職制第六條第二項、第七條及第八條ノ規定ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス

第四十二條 運轉手ハ營業長ノ指揮ヲ承ケ運轉ノ事務ニ從事ス

運輸手ハ列車運轉中ニ在リテハ車掌、列車力停車場内ニ在ルトキハ驛長ノ指示ヲ承ケ其事務ヲ執行ス

第四十三條 保線手ハ營業長ノ指揮ヲ承ケ線路ノ修理及保存ニ關スル事務ニ從事ス

第四十四條 電氣主任ハ電氣ヲ動力トスル鐵道ニ限リ之ヲ置ク

電氣主任ハ營業長ノ指揮ヲ承ケ電氣ニ關スル事務ヲ處理ス

第四十五條 鐵道ハ其ノ狀況ニ依リ第三十八條ニ定メタル係員ノ職務ヲ分チテ別ニ係員ヲ設ケ又ハ其ノ以外ニ係員ヲ置クコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ職掌ヲ定メ之ヲ届出ツヘシ

第四十六條 鐵道ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ第三十八條ニ定メタル係員以外ニ係員ヲ置カシムルコトアルヘシ

第四十七條 馬車鐵道又ハ之ニ準スヘキ鐵道ニ在リテハ本章ニ依ラス必要ニ應シ相當ノ係員及其ノ職制ヲ定メ之ヲ届出ツヘシ

附則

本令ハ輕便鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○輕便鐵道會計準則

(明治四十三年八月二日)
閣令 第十四號

輕便鐵道會計準則

第一條 起業者ハ本令ニ準シ會計ニ關スル規程ヲ設ケ之ヲ届出ヘシ其變更ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二條 鐵道ノ會計年度ハ特別ノ事由アル場合ヲ

除クノ外一年又ハ六月トス

第三條 鐵道ノ會計ハ資本勘定ト收益勘定トヲ區別スヘシ

第四條 資本勘定ハ鐵道ノ建設改良等ノ費用ニ充當スヘキ資金、諸借入金等ヲ以テ入トシ鐵道ノ建設費、改良費及貯藏物品ノ購入代金等ヲ以テ出トス

第五條 收益勘定ハ營業上ノ諸收入ヲ以テ入トシ鐵道ノ維持保存ノ費用其ノ他營業上ノ諸費用ヲ以テ出トス

第六條 株式公賣又ハ債券發行ノ結果差損金ヲ生シタルトキハ帳簿ノ記載ハ其ノ券面額ヲ以テシ差損額ヲ明記スルコトヲ要ス

第七條 有價證券ヲ取得シタルトキハ帳簿ノ記載ハ買入又ハ拂込ノ金額ヲ以テスヘシ

第八條 貯藏物品ハ受拂共實費ヲ以テ出納ヲ爲スモノトス

第九條 財産目錄ニ記載スル財産ノ價格ハ左ノ標準ニ依ルモノトス

一 有價證券ハ購入代價又ハ拂込金額但シ其ノ時價低落シタルトキハ毎年度ノ終ニ於テ時價ニ改定スヘシ其ノ騰貴シタルトキハ購入代價又ハ拂込金額ヲ限度トシ増加スルコトヲ得

二 身元保證及契約保證ノ有價證券ハ其ノ保證金額

三 前各號以外ノ財産ハ實費決算額

第十條 資本收益兩勘定ニ關聯スル費用ハ一定ノ標準ヲ定メ區分スルコトヲ要ス

第十一條 他ノ業務ヲ營ム場合ニ於テハ鐵道ノ會計ハ他ノ會計ト區別シテ整理スヘシ但シ相互關聯ノ收入及支出ハ一定ノ標準ヲ定メ區分スルコトヲ要ス

第十二條 免許、補助其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ前數條ノ規定ニ拘ラス會計ニ關シ特別ノ事項ヲ指定スルコトヲ得

附則

本令ハ輕便鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○內務省訓令第十三號

應府縣

明治四十二年法律第五十七號輕便鐵道法第四條但書ニ依リ線路敷設ノ許可ヲ申請スル者アルトキハ明治三十四年本省訓令第十七號ニ準シ意見書ヲ調製シ命令書案ヲ添付シテ之ヲ本大臣ニ進達ス可シ
明治四十三年八月二日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

○輕便鐵道補助法施行期日ノ件

(明治四十四年十二月廿三日)
勅令第二百九十一號

輕便鐵道補助法ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○輕便鐵道補助金概算渡ノ件

(明治四十四年十二月廿三日)
勅令第二百九十二號

輕便鐵道補助法ニ依リ交付スル補助金ハ一年未滿ノ期間ヲ以テ營業年度トスル輕便鐵道ニ對シテハ營業年度經過後其ノ期間ニ相當スル割合ヲ以テ概算渡ヲ爲スコトヲ得

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○輕便鐵道補助法施行規則

(明治四十四年十二月廿五日)
閣令 第十四號

- 第一條 輕便鐵道補助法ニ依リ補助ヲ受ケムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ具シ內閣總理大臣ニ申請スヘシ
 - 一 補助ヲ必要トスル事由
 - 二 公共團體其ノ他ノ者ヨリ補助ヲ受ケムトキハ其ノ金額又ハ物件ノ種類、數量及見積價額並其ノ方法及條件
 - 三 營業開始後五年間ニ於ケル運輸ノ數量、收

入、支出、益金及其ノ算出ノ基礎(第一號乃至第六號様式)

四 前號期間内ニ於テ補助ヲ受ケムトスル金額及其ノ算出ノ基礎(第七號及第八號様式)

輕便鐵道法施行規則第一條及第二條ノ規定ハ前項ノ申請ニ之ヲ準用ス

第二條 輕便鐵道補助法第一條ノ建設費ハ當該營業年度開始前ノ決算額ノ全額及當該營業年度ノ決算額ノ半額トス

營業年度ノ中間ニ於テ營業ヲ開始シ又ハ補助終了スルトキハ營業開始又ハ補助終了ノ日ヲ營業年度又ハ營業年度開始終了ノ日ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第三條 建設費ニ算入スヘキ費用ニシテ所屬區間ノ明ナラサルモノハ關係各區間ニ於ケル當該營業年度ノ建設費ノ割合ニ依リテ之ヲ分割ス

第四條 建設工事施行中ハ三月毎ニ工程及建設費ノ支出額ヲ報告スヘシ(第九號及第十號様式)

第五條 輕便鐵道補助法第四條ノ償還ヲ終ル迄ハ

營業年度毎ニ建設費決算ノ認可ヲ受ケヘシ營業開始ノ日及補助終了ノ日ニ於ケル建設費ノ決算ニ付亦同シ

建設費決算ノ認可申請書ニハ豫算決算ノ差引對照表ヲ添付スヘシ(第十一號乃至第十九號様式)

補助ヲ受ケル線路力區間ヲ分ツ場合ニ於テハ建設費ハ區間毎ニ之ヲ計算スヘシ

第六條 社債及借入金ノ支出ハ固有資金ノ支出ノ後ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條 建設及營業ニ相互關聯スル費用ハ當該營業年度ニ於ケル建設費及營業費ノ割合ニ依リテ之ヲ分割ス

第八條 社債及借入金ノ利息ハ營業ニ使用シタル金額ニ對スルモノヲ除クノ外之ヲ營業費ニ算入セス營業收入ヲ以テ新設及改良ノ工事費ヲ支辨シタルトキ亦同シ

第九條 公共團體其ノ他ノ者ヨリ受ケル補助金ハ建設費ニ充當スヘキモノヲ除クノ外之ヲ營業收入トス但シ特別ノ事由ニ因リ認可ヲ受ケタル場

合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
建設費ニ充當スヘキ補助金ヨリ支出シタルモノ
ハ之ヲ建設費ニ算入セス

第十條 補助ヲ受ケル區間及補助ヲ受ケサル區間
又ハ一營業年度内ニ於ケル補助ヲ受ケル期間及
補助ヲ受ケサル期間ノ營業費及營業收入ハ開業
全線ノ營業費及營業收入ノ當該營業年度決算額
ヲ各區間又ハ各期間ニ於ケル列車走行哩ノ割合
ニ依リテ之ヲ分割ス

第十一條 一年未滿ノ期間ヲ以テ營業年度トスル
場合ニ於テハ輕便鐵道補助法第一條ノ益金ハ一
年ヲ通シテ算出シタル額ニ依リテ之ヲ定ム但シ營
業年度ノ中間ニ於テ營業ヲ開始スルトキハ當該
營業年度開始ノ日ヨリ一年内ニ於テ營業ヲ爲シ
タル期間ヲ通シテ算出シタル額ニ依ル
營業年度ノ中間ニ於テ補助終了スルトキハ前項
ノ規定ヲ適用セス

第十二條 法定準備金ノ積立ヲ爲ス場合ニ於テハ
益金ノ二十分ノ一ハ之ヲ益金ニ算入セス

第十三條 輕便鐵道補助法第一條ノ建設費ニ對ス
ル益金ノ割合ハ一年ノ日數ヲ以テ補助日數ヲ除
シタルモノヲ建設費ニ乗シタル額ト當該補助期
間ノ益金トノ割合ニ依リテ之ヲ定ム

第十四條 第二條、第十條、第十一條第一項及前
條ノ規定ハ輕便鐵道補助法第四條ノ規定ニ依リ
償還ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 輕便鐵道補助法第四條ノ償還ヲ終ル迄
ハ營業年度毎ニ營業費、營業收入及益金計算ノ
認可ヲ受クヘシ(第二十條乃至第二十八號様式)

第十六條 輕便鐵道カ他ノ業務ヲ營ム場合ニ於テ
ハ相互ニ關聯スル興業費、營業費又ハ營業收入
ハ當該營業年度ニ於ケル興業費營業費又ハ營業
收入ノ割合ニ依リテ之ヲ分割ス
前項ノ場合ニ於テ興業及營業ニ相互關聯スル費
用ハ當該營業年度ニ於ケル興業費及營業費ノ割
合ニ依リテ之ヲ分割ス

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

初年目旅客計算表

第一號様式

發	著	人員	延人	一人	收入	備考
驛	驛	間數	哩	哩賃金	金額	
、	、	、	、	、	、	
、	、	、	、	、	、	
小	計					
、	、	、	、	、	、	
、	、	、	、	、	、	
小	計					
合	計					
一日一哩平均						

一日一哩平均ハ延人哩及收入金額ノ欄ニノミ記載ス
ヘシ

發驛毎ニ人員延人哩及收入金額ノ小計ヲ附スヘシ
當該驛間乗客往來ノ目的及地方等其ノ情勢ノ概要ヲ
備考欄ニ記載スヘシ

線路中區間ヲ分ツモノハ區間毎ニ本表ヲ調製スヘシ

營業收入計算

第三號様式

	初年目	二年目	三年目	四年目	五年目
旅客延人哩 平均賃率 收入金額 一日一哩平均					
貨物延噸哩 平均賃率 收入金額 一日一哩平均					
其他收入 一日一哩平均					
收入合計 一日一哩平均					

平均賃率ハ延人噸哩ヲ以テ各收入金額ヲ除シタルモノトス

旅客貨物收入以外ニ收入アルトキハ其ノ金額ヲ其ノ他收入ノ欄内ニ掲ケ之ヲ欄外ニ説明スヘシ

二年目以後ニ於ケル増減額算出ノ基礎ハ各收入ニ付之ヲ欄外ニ説明スヘシ

線路中區間ヲ分ツモノハ區間毎ニ本表ヲ調製スヘシ

初年目貨物計算表

第二號様式

發 驛	驛著	品名	噸數	驛間延噸哩數	一人一哩賃金	收入金額	備 考
、	、	米					
、	、	生絲					
	小 計						
、	、	肥料					
、	、	雜貨					
、	、	其他					
	小 計						
	發著手數料 合計 一日一哩平均						

一日一哩平均ハ延噸哩及收入金額ノ欄ニノミ記載スヘシ

發驛毎ニ噸數延噸哩及收入金額ノ小計ヲ附スヘシ
當該驛間貨物輸送ノ目的及地方等其ノ情勢ノ概要ヲ備考欄ニ記載スヘシ

品名欄ニハ主要ナル貨物ノミヲ掲ケ其ノ他ノモノハ包括シテ記載スヘシ

線路中區間ヲ分ツモノハ區間毎ニ本表ヲ調製スヘシ

初年目營業

保存費		動力費		運輸費	
科目	金額	科目	金額	科目	金額
監督費		監督費		監督費	
俸給		俸給		俸給	
旅費		旅費		旅費	
〃		〃		〃	
〃		〃		〃	
工事費		發電所費		停車場費	
〃		〃		〃	
〃		〃		〃	
〃		〃		〃	
何々		發電所費		電信費	
〃		〃		〃	
〃		〃		〃	
〃		〃		〃	
		燃料費		何々	
		〃		〃	
		何々			
		〃			
合計		合計		合計	

費計算表

何々間何哩何鎖 第四號様式

何々		總係費		諸稅	
科目	金額	科目	金額	科目	金額
何々		事務所費		國稅	
〃		俸給		營業稅	
〃		旅費		所得稅	
〃		〃		〃	
〃		〃		〃	
何々		本社費		府縣稅	
〃		〃		營業稅	
		〃		附加稅	
		〃		〃	
		〃		〃	
		何々		市町村稅	
		〃		〃	
				〃	
				何々	
				〃	
合計		合計		合計	

益 金 計 算 表

第六號様式

年 度	營業收入	營業費	法定準備 金最低額	益 金
初 年 目				
二 年 目				
三 年 目				
四 年 目				
五 年 目				

營 業 費 計 算 表

第五號様式

	初年目	二年目	三年目	四年目	五年目
保 存 費					
一日一哩平均					
動 力 費					
一日一哩平均					
運 輸 費					
一日一哩平均					
何 々 費					
總 係 費					
諸 稅					
合 計					
一日一哩平均					

二年目以後ニ於ケル増減額算出ノ基礎ハ各科目ニ付
欄外ニ説明スヘシ

何々間建設					
項	目	數量	平均 單價	金額	合計
測量及監督費					
用地費	俸旅手、				
	給費當、				
土工費	線路、	坪〃			
	停車場、				
橋渠費	切築、	立坪〃			
	何川、				
隧道費	何溝、	延長呎〃			
	何外、				
軌道費	何々、	延長呎〃			
	何外、				
停車場費	軌條及附屬、	哩本立坪哩			
	枕砂敷、				
車輛費	何々、				
	何外、				
	機關	輛〃			
	車車				

費明細書

何哩何鎖 第七號樣式

項	目	數量	平均 單價	金額	合計
諸建物費	本社、				
電信線費	電電機、	哩本箇			
	、				
發電所費	建設、				
	、				
變電所費	建設、	箇			
	、				
電線路費	饋送電電、	馬〃			
	、				
何々費	、				
	、				
何總係費	報俸旅手、				
	、				
合一哩 =	計付				

地 用					
用地總坪數	前期迄買收坪數	當期間買收坪數	殘	買收合坪數ノ總對合 數ニ歩合	備考

土 工					
土工總坪數	前期迄竣工坪數	當期間竣工坪數	殘	竣工合坪數ノ總對合 數ニ歩合	備考

補助金計算表

第八號様式

年 度	建設費	建設費ノ五分	益 金	補助金
初 年 目				
二 年 目				
三 年 目				
四 年 目				
五 年 目				

建設費ニ増減アルトキハ其ノ理由ヲ欄外ニ説明スヘシ

工 程 表
何 々 間

自年月日至年月日

測 量 第九號様式

豫測總哩程	前期迄測量哩程	當期間測量哩程	殘	既測合哩程ノ總對合 ニ歩合	備考

軌 道					
總延長	前期迄 竣 功	當期間 竣 功	殘	竣功合延 長ノ總延 長ニ對ス ル歩合	備 考

道 床					
總 量	前期迄 竣 功	當期間 竣 功	殘	竣功合量 ノ總量ニ 對スル歩 合	備 考

橋 梁					
名 稱	徑 間		竣功歩合	備 考	
	長	數			
<u>橋梁總延長</u> <u>竣功歩合</u>					

隧 道									
名稱	延長	堀 鑿 坪 數			疊 凳 工 延 長			竣功 歩合	備考
		前期迄 竣 功	當期間 竣 功	殘	前期迄 竣 功	當期間 竣 功	殘		
<u>隧道總延長</u> <u>竣功歩合</u>									

停車場

停車場名	本屋	乗降場	貨物車	機関車庫	客車庫	附屬建物	貯水器	轉車臺	常置信號機	側線	備考

本屋以下轉車臺ニ至ル各項ハ當期末ニ於ケル竣功歩合ヲ常置信號機ハ竣功又ハ未竣功ナルコトヲ記載スヘシ

電信線

延長	前期迄 架設延長	當期間 架設延長	殘	延 ス 合 對 歩 合 ノ 長 ル	竣 功 長 ル	備考

發電所

本屋	附 屬 建 物	原動機	發電機	蓄電池	配電盤	備考

本屋及附屬建物ノ各項ニ付テハ竣功歩合ヲ、原動機以下各項ニ付テハ地形、据付、パイピング、電線取付等ヲ區別シ水力ノ場合ニアリテハ水路水管其ノ他水利工事ヲモ區別シテ記載スヘシ

何々間建設費三月間支出額表

第十號様式

自年月日至年月日

科 目	前 期 迄 支 出 額	當 期 間 支 出 額	合 計	備 考
測量及監督費				
用地工費				
橋梁道費				
隧道道費				
停車場費				
車輛費				
諸建物費				
電信線所費				
發電所費				
變電所費				
電線、路、				
、、、				
總 係 費				
合 計				
各事業關聯興業費				
興業營業關聯費				
各區間關聯建設費				
建設營業關聯費				

關聯費ハ分割セシテ總額ヲ記載スヘシ數區間ニ區分スルトキハ其ノ主ナル一區間ニ之ヲ記載スヘシ

變 電 所

本 屋	附屬建物	變壓器	電 流 變式機	配電盤	備 考

電動發電機ヲ使用スル場合ニハ電流變式器ノ項ニ記載スヘシ

電 線 路

延 長	前 期 迄ノ 建 設 延 長	當 期 間 建 設 延 長	殘	竣功合延 長ノ總延ス 長ニ對スル歩合	備 考

建柱、架空線建設、地中線敷設、軌條電氣的接續及其ノ他工事ヲ區別シテ記載スヘシ

各事業關聯興業費分割表

第十二號樣式

自年月日至年月日

事業種別	關聯興業費以外興業費當期決算額	分割率(百分比)	關聯興業費分擔額	當期決算額合計
輕便鐵道業 鐵道業 鐵道業 水運業 電氣業 倉庫業 何々計				

關聯興業費以外興業費當期決算額中ニハ興業營業關聯費及建設營業關聯費ヲ含マス

何々間建設費豫算決算差引對照表

何哩何鎮 第十一號樣式

自年月日至年月日

科目	豫算額	決算額		計	豫算差引 過不足額	備考
		前期 決算額	當期 決算額			
測量及監督費 俸旅手、各區 間分擔額 用地費用 停車場、 電、工、 土切築、 何、何、 總、各區 各事業費分 建設費分						

數區間ニ區分シテ整理スルトキハ區間毎ニ本表ヲ調製シ末尾ニ總括表ヲ附スヘシ
 當期中決算ノ主ナルモノヲ成ルヘク詳細ニ備考欄ニ説明スヘシ
 關聯費ノ分擔額ハ備考欄ニ説明スヘシ

興業營業關聯費分割表

第十四號様式

自年月日至年月日

事業種別	興業營業關聯費以外興業費當期決算額	興業營業關聯費以外興業費當期決算額	合計	分割率 (百分 比)	興業營業關聯費
輕便鐵道業					
鐵道業					
鑛業					
水運業					
電氣業					
倉庫業					
何々					
合計					

興業營業關聯費以外興業費當期決算額ハ第十二號様式中當期決算額合計ノ金額ヲ記載スヘシ

興業營業關聯費以外營業費當期決算額ハ第二十五號様式中當期決算額合計ノ金額ヲ記載スヘシ

各事業關聯興業費明細表

第十三號様式

自年月日至年月日

科目	金額	備考
測量及監督費		
俸給		
、		
總係		
報酬給		
、		
、		
何		
、		
、		
合計		

建設營業關聯費明細表

第十七號様式

自年月日至年月日

科目	金額	備考
測量及監督費 俸給、報酬給、々、 總係費 報俸、々、 何々、 興業營業關聯費額計 分擔 合計		

各區間關聯建設費分割表

第十八號様式

自年月日至年月日

區間	建設費期 當決算額	分割率 (百分比)	測量及監督 費	何々	總係費	各事業關聯 費額	建設營業關聯 費分擔額	合計
何々間								
何々間								
合計								

興業營業關聯費明細表

第十五號様式

本表ハ第十三號様式ニ準シ調製スヘシ

建設營業關聯費分割表

第十六號様式

自年月日至年月日

	建設營業關聯費以外 當期決算額	分割率 (百分比)	分擔額
建設營業費計 合計			

營業收入決算書

第二十號様式

自年月日至年月日

科 目	決 算 額	備 考
運客 輸車 旅客 手荷物 小郵便 、 貨物運 貨物運 發著手 車輛使用 廣告揭 入、 、 預金利 株金延滯 株券書替 雜 關聯營業收入分當額計		

前年度ニ比シ著シキ増減アルモノハ備考欄ニ説明スヘシ雜入等ノ科目ヲ以テ總括シ記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ欄外ニ説明スヘシ

各區間關聯建設費明細表

第十九號様式

自年月日至年月日

科 目	金 額	備 考
測量及監督 俸、 、 何、 、 總 係 報 係 、 各事業關聯與業 分 設 督 業 關 聯 建 設 督 業 關 聯 分 設 督 業 關 聯 合		

營業收入區間期間分割表

第二十三號様式

自年月日至年月日

區 間	數哩	車 列 走 行 哩	分 率 割 (百 分 比 例)	分 當 額	備 考
何々間					
何々間					
何々間(年月日開業)					
何々間(年月日迄)					
何々間(自年月日至年度末)					
合 計					

營業年度ノ中間ニ於テ營業ヲ開始シ又ハ補助終了シタルモノニ付テハ區間欄ニ其ノ年月日ヲ記載スヘシ
營業年度ノ中間ニ於テ補助滿期トナリタルモノニ付テハ滿期前後ノ走行哩ヲ區分シテ記載スヘシ

各事業關聯營業收入分割表

第二十一號様式

自年月日至年月日

事業種別	關聯營業收入以外當期決算額	分割率(百分比)	關聯營業收入分當額	備 考
輕便鐵道業				
鐵道業				
鑛業				
水運業				
電氣業				
庫業				
何々業				
合 計				

各事業關聯營業收入明細書

第二十二號様式

自年月日至年月日

科 目	金 額	備 考
雜 收 入		
預 金 利 子		
株 金 延 滯 利 子		
株 券 書 替 手 數 料		
、 、 、		
何 々		
、 、		
合 計		

各事業關聯營業費分割表

第二十五號樣式

自年月日至年月日

事業種別	關聯營業費以外 當期決算額	分割率 (百分比)	關聯營業費 分擔額	當期決算 額合計
輕便鐵道業 鐵道業 鑛水運業 電氣倉庫業 何々計				
合				

關聯營業費以外營業費當期決算額中ニハ興業營業關聯費及建設營業關聯費ヲ含マス

各事業關聯營業費明細表

第二十六號樣式

自年月日至年月日

科目	金額	備考
總係費 本社費 報酬給當、々、計 本報俸手、何、合		

營業費決算表

第二十四號樣式

自年月日至年月日

科目	決算額	備考
保存費 監督費 俸給費、 旅費、 工事費、 、 、 動力費 監督費、 、 發電所費、 、 何々 各事業關聯營業費 分擔營業費 建設營業關聯費 分擔營業費 合計		

各科目中ノ主ナルモノハ備考欄ニ説明スヘシ
營業費トシテ新設改良工事費、借入金利子、社債差
損金等ヲ支出シタルトキハ欄外ニ之ヲ記載スヘシ

益 金 計 算 表

第二十八號様式

自年月日至年月日

	金 額	備 考
輕便鐵道營業收入		
同 營 業 費		
補助區間利益ノ二十分一		
差 引 益 金		
營業年度開始前 建設費決算額		
當期建設費決算額 ノ二分一		
建 設 費 合 計		
建設費ノ年五分 補 助 金 額		

一營業年度ニ滿タサル期間ノ補助金ヲ計算スル場合
ニ於テハ第十三條ノ規定ニ依リ算出シタル建設費ヲ
記載シ備考欄ニ説明スヘシ
補助終了後仍償還ヲ終ル迄本號様式ニ準シテ調製ス
ヘシ

營業費區間期間分割表

第二十七號様式

自年月日至年月日

區 間	哩數	列 車 走行哩	分割率 (百分 比)	分擔額	備 考
何々間					
何々間					
何々間(年月日) 開業					
何々間(年月日迄)					
何々間(自年月日) 至年度末					
合 計					

營業年度ノ中間ニ於テ營業ヲ開始シ又ハ補助終了シ
タルモノニ付テハ區間欄ニ其ノ年月日ヲ記載スヘシ
營業年度ノ中間ニ於テ補助滿期トナリタルモノニ付
テハ滿期前後ノ走行哩ヲ區分シ記載スヘシ

益金計算表

第二十八號様式ノ二

自年月日至年月日

	自年月日 至年月日	自年月日 至年月日	合計	備考
輕便鐵道營業收入				
同營業費				
補助區間利益ノ二分一				
差引益金				
營業年度開始前 建設費決算額 當期建設費決算額 ノ二分一				
建設費合計				
建設費ノ年五分 通算益金額 補助金額				
補助金概算受領額				
補助金差引額 補助不足額				

第十一條第一項ノ規定ニ依リテ計算ヲ爲ス場合ニ於テハ本號様式ニ依リテ調製スヘシ
通算益金ノ欄ニハ第十一條第一項ノ規定ニ依リ算出シタル益金ヲ各期間ニ按分シテ記載スヘシ
補助終了復償還ヲ終ル迄仍本號様式ニ準シテ調製スヘシ

輕便鐵道補助法施行規則

三四〇

○軌道條例

(明治二十三年八月二十三日)
法律第七十一號

第一條 一般運輸交通ノ便ニ供スル馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道ハ起業者ニ於テ内務大臣ノ持許ヲ受ケ之ヲ公共道路上ニ布設スルコトヲ得
第二條 馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道敷設ノ爲メ起業者ノ負擔ヲ以テ在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シ若クハ新ニ軌道敷設クルノ必要アルトキハ之ニ要スル土地ハ起業者ニ於テ土地收用法ノ規定ニ依リ内閣ノ認定ヲ經テ之ヲ收用スルコトヲ得
第三條 在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シタル部分及新設シタル軌道敷ハ俱ニ道路敷ニ編入ス

○軌道條例取扱方

(明治三十四年十月二十五日)
内務省訓令第十七號

軌道條例 軌道條例取扱方

(四一、一〇選訓一)
改正

明治二十三年法律第七十一號軌道條例取扱方自今左ノ通心得ヘシ但明治二十三年内務省訓令第六六二號及明治二十七年同訓令第六六四號ハ之ヲ廢ス
第一條 願書ニハ起業目論見書、工事方法概略書並圖面、線路豫測圖(縮尺二萬分ノ一以上)工費概算書及營業上ノ收支概算書ヲ添付セシムルコトヲ要ス
第二條 地方長官ハ軌道ヲ敷設スヘキ公共道路ノ維持費ヲ負擔スル府縣郡市町村其ノ他公共團體ノ議會若クハ之ニ準スヘキ議會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス但軌道力單ニ道路ヲ横斷スルニ止マルトキハ此ノ限ニ在ラス
府縣制又ハ郡制實施ノ地方ニ於テ府縣郡會招集ノ時期ニアラサル場合ニ出願アリタルトキハ其ノ府縣郡參事會ノ意見ヲ以テ前項府縣郡會ノ意見ニ代フルコトヲ得
第三條 地方長官ハ意見書ヲ作り別記命令書案雜

三四一

形ニ準シ土地ノ狀況ヲ斟酌シテ命令書案ヲ調製シ之ニ添付スヘシ
 電氣以外ノ原動力ノ場合ニ於テハ其ノ原動力ノ種類ニ應シ命令書案ヲ調製スルコトヲ要ス命令書案第一條ニ記載スヘキ軌道敷設線路ノ發着點ニハ市區町村存名並地番若ハ地先地番ヲ掲記シ其ノ經過線路ハ成ルヘク細別シ國縣里道若ハ新設軌道敷ノ種類ニ應シ經過線路ノ順序ニ從テ列記スヘシ

第四條 命令書案雛形第五條第一項第四號及第五號中ニ規定セル幅員ハ最少限ヲ示セルモノナレハ命令書案調製ニ當リテ地方長官ハ交通上ノ關係ハ勿論其他軌道敷設ノ爲生スヘキ利害ヲ比較シテ周到ナル審査ヲ爲シ單ニ現在ノ利害ノミナラス將來交通上ノ得失ヲ斟酌シ適當ナル制限ヲ設クルコトヲ要ス

第五條 命令書案雛形第五條第一項第一號ノ屈曲ノ半徑ニ關スル規程ハ車體ノ構造ニ依リ相當變更スルヲ妨ケス

第六條 保證金ハ工事著手前ニ差出サシムヘシ
 第七條 車輛進行ノ速度ハ一時間八哩以内ニ於テ命令書案中ニ相當制限スルコトヲ妨ケス
 第八條 地方長官ニ於テ交通ノ狀況及車體ノ構造ニヨリテハ二車ニ限リ聯結進行セシムルモ支障ナシト認ムルトキハ命令書案雛形第十四條ヲ變更スルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ副申スヘシ

第九條 地方長官ハ運輸開始許可ノ申請アリタルトキハ工事カ工書方法書ニ違反セルコトナキヤ又ハ軌道ノ設備カ運輸ヲ開始スルニ不適當ナルコトナキヤ否ヤ嚴正検査スヘシ

第十條 特許狀並命令書ヲ交付シタルトキハ請書ヲ徵シ之ヲ進達スヘシ
 特許狀並命令書交付ノ時日ハ之ヲ報告スヘシ
 (別記)

命令書案雛形
 第一條 今般何某ニ對シ特許シタル軌道ノ線路ハ左ノ如シ

一 一 一 一
 一 一 一 一
 一 一 一 一
 一 一 一 一

ニ至ル國道
 ヨリ
 二至ル縣道
 ヨリ
 二至ル里道
 ヨリ
 二至ル新設軌道敷
 ヨリ

第二條 營業年限ハ明治何年何月何日迄トス

第三條 原動力ノ方式ハ何々トス

第四條 電氣ニ關スル事項ニ付テハ明治四十四年三月二十九日法律第五十五號電氣事業法並同年九月五日遞信省令第廿五號同施行規則ノ規定ニ依ルヘシ但同規則第三條ノ出願ハ此ノ命令書交付ノ日ヨリ六箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

第五條 特許ヲ受ケタル者ハ前條但書ニ依リ出願ヲ爲シ其ノ許可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ左ノ各號ニ準據シ線路實測圖(平面圖ハ縮尺二千分ノ一、縱斷面圖ハ縮尺二百分ノ一、横二千分ノ一、横斷面圖ハ二百分ノ一トス)工書方法書、圖面及工費豫算書ヲ調製シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

一 軌間ハ内法何尺何寸トス

二 軌條ハ何々ヲ用キ其重量ハ一碼ニ付何封度以上トス

三 軌條間ノ全部及其各左右一尺五寸通ハ木石砂利其ノ他適當ノ材料ヲ敷キ鐵軌面ト道路面ト高低ナカラシムヘシ

四 軌道ヲ敷設スル道路ハ左ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス

五 單線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連擔ノ場所又ハ連擔スヘキ場所ハ四間以上其ノ他ノ場所ハ三間以上複線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連擔ノ場所又ハ連擔スヘキ場所ハ五間以上其ノ他ハ四間以上

六 軌道ハ兩側人家連擔ノ場所又ハ連擔スヘキ場所ニ於テハ道路ノ中央ニ之ヲ敷設スヘシ但車體外一側ニ各二間以上ノ幅員ヲ存スルコト能ハサルトキハ其ノ一側ニ二間以上他ノ一側ニ三尺以上ノ幅員ヲ存スル點迄一方ニ偏シテ之ヲ敷設スルコトヲ得

七 前項以外ノ場所ニ於テハ道路ノ一方ニ偏シ路端

ヨリ車體外各三尺以上ノ地ヲ餘シテ軌道ヲ敷設スヘシ但國道及縣道ニ在テハ車體外ノ一側ニ二間以上ノ幅員ヲ存スルコトヲ要ス

道路ノ屈折部ノ内角ノ前後ニ於テ車體外各二間以上ノ幅員ヲ存スルトキハ其ノ内角ニ於テ少クトモ二間ノ幅員ヲ存スルヲ要ス其ノ他ノ場合ニ於テハ内角ニ於ケル幅員ノ最小限ハ三尺ニシテ其ノ外角ノ側方ニハ二間以上ノ幅員ヲ存スルヲ要ス

井戸、竝木、電柱、街燈、郵便函其ノ他道路上ノ建築物ヨリ其ノ側ノ路端迄ノ距離、溝渠、敷地及人道、車馬側ヲ區別セル道路ニ在テハ其ノ人道ハ前三項ノ幅員ニ算入セス

六 道路ノ一方ヨリ他ノ一方ニ軌道線ヲ移ス箇所ハ木又ハ石ヲ用キテ踏切ヲ設クヘシ

七 軌道力道路ヲ横斷スル箇所亦前號ニ同シ

八 橋梁ノ構造、幅員及耐力ハ地方長官ノ指定スル所ニ依ルヘシ

九 軌道敷設ノ爲ニ生スル道路路面及軌道内ニ於

ケル雨水ノ滯溜ニ付テハ完全ナル排除ノ方法ヲ設クハシ

十 勾配ハ二十五分ノ一ヲ超ユヘカラス

十一 屈曲ノ半徑ハ三十六尺ヲ以テ最小限トス

十二 車輛ニハ相當ノ避難器、制動器、驗速器及信號器ヲ裝置スヘシ

十三 地下ニ埋設シタル公衆通信用ノ電信又ハ電話道路、水道、瓦斯管其ノ他公共用ノ地下工作物ト交叉若クハ接近シテ軌道ヲ敷設スルトキハ其ノ線路又ハ工作物ヲ毀損セサル爲適當ノ豫防裝置ヲ爲スヘシ

十四 各種ノ人孔、制水瓣蓋等ニ接近シテ軌道ヲ敷設スルトキハ操業上障害ヲ與ヘサル爲適當ノ距離ヲ保タシムヘシ

十五 特許ヲ受ケタル者ニ於テ新設スヘキ軌道敷ハ車體外左右各三尺以上ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス

前項第三號乃至第六號及第九號ハ新設軌道敷ニ之ヲ適用セス

第六條 特許ヲ受ケタル者ハ前條ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月以内ニ工事ニ着手シ着手ノ日ヨリ何年内ニ竣工スヘシ但天災其ノ他正當ノ事由ニ因リテ本條ノ期間内工事ニ着手シ又ハ竣工スルコト能ハサルトキハ相當ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ

第七條 特許ヲ受ケタル者ニ於テ擴築シタル道路及改築シタル橋梁ハ竣工ト同時ニ無償ニテ國又ハ公共團體ノ有ニ歸ス

第八條 軌道敷設ノ爲道路ノ地表又ハ地下ニ於ケル建築物ノ移轉其ノ他ノ工事ヲ要スルトキハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ施行シ又ハ其ノ費用ヲ負擔スヘシ

第九條 工事ノ全部又ハ一部竣工シ運輸ヲ開始セシトスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 工事カ工事法書ニ違反スルモノト認ムルトキハ地方長官ハ其ノ改築又ハ停止ヲ命スヘシ

第十條 乗客ノ定員、荷物ノ制限、乘車賃、運送

賃及發車並營業時間ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキハ亦同シ

第十一條 電氣ニ關スル技術員、車掌及運轉手ノ資格及採用ノ方法ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキハ亦同シ

第十二條 車輛ハ一輛毎ニ地方長官ノ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 進行ノ速度ハ一時間八哩ヲ超過セシムルコトヲ得ス

第十四條 車輛ハ二車又ハ二車以上ヲ聯結シテ進行セシムルコトヲ得ス

第十五條 進行中ハ各車ノ間ニ相當ノ距離ヲ保タシムヘシ

日出前日没後ハ五町以上ノ距離ニ於テ容易ニ認メ得ヘキ燈火ヲ車輛ノ前後ニ點スヘシ

第十五條 乗客ノ昇降ノ爲ニスルノ外故ナク道路上ニ停車セシムルコトヲ得ス但乗客昇降ノ場合ト雖モ道路ノ交叉部ニ於テ停車セシムルコトヲ

得ス

第十六條 地方長官ノ指定シタル場所ニハ特ニ信號人ヲ置キ其ノ場所ニ於テハ進行ノ速度ハ一時間五哩ヲ超過セシムルコトヲ得ス

第十七條 左ニ掲ケタル箇所ハ地方長官ノ命スル所ニ從ヒ特許ヲ受ケタル者ニ於テ其ノ改築、修繕、掃除、撒水及除雪ヲ爲シ又ハ其ノ費用ヲ負擔スヘシ

一 道路及横切下水ハ軌條間ノ全部及其ノ左右各二尺通

二 橋梁ノ改築又ハ修繕ハ前號ニ定メタル幅員ト橋梁ノ幅員トノ比例ヲ以テ標準トシ其ノ橋梁ノ改築又ハ修繕費ノ全部ニ對シ特許ヲ受ケタル者ニ於テ負擔スヘキ費用ノ歩合ヲ定ムル橋梁ノ掃除、撒水及除雪ハ前號ニ依ルモノトス

特許ヲ受ケタル者ノ軌道ト他ノ軌道ト交叉スル場合ニ於テハ其ノ交叉面ニ係ル前項ノ義務ハ關係者ノ分擔トス

第十八條 車輛ハ常ニ清潔ニ保持シ其ノ修繕ヲ怠ルヘカラス

第十九條 地方長官ハ何時ニテモ軌道、車輛其ノ他工作物ヲ監督シ危險ナリト認ムルトキハ改築修繕ヲ命シ其ノ命ヲ執行シ終ルマテ其ノ使用又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險切迫ナリト認ムルトキハ地方長官ノ自ラ其ノ改築修繕ヲ爲スコトアルヘシ

第二十條 地方長官ハ何時ニテモ營業ニ關スル實況ヲ監督シ此命令書ノ條項又ハ此命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ違反セル事實アルトキハ之ヲ督責シ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ更正スル迄營業ヲ停止スコトアルヘシ

第二十一條 特許ヲ受ケタル者ハ内務大臣ノ許可ヲ得ルニ非レハ一部ノ營業ヲ廢止スルコトヲ得ス

第二十二條 特許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業ヲ休止スルコトヲ得ス

第二十三條 内務大臣及遞信大臣ハ公益上必要ト

認ムルトキハ何時ニテモ原動力ノ變更、其ノ方式、設備、線路若ハ敷設順序ノ變更又ハ交通上必要ナル線路ノ新設若ハ延長又ハ道路ノ擴築又ハ複線ノ敷設若ハ撤去又ハ一部線路ノ廢止ヲ命スルコトアルヘシ

第二十四條 地方長官ハ運賃、乗客ノ定員、荷物ノ制限、運送賃及發車並營業時間ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條 道路、橋梁、水道其ノ他ノ公共事業ノ爲必要アルトキハ地方長官ハ軌道其ノ他ノ工作物ノ改築若ハ一時撤去ヲ命シ又ハ一時車輛ノ運轉ヲ停止スルコトアルヘシ

交通危險ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ必要ノ部分ニ限り一時車輛ノ運轉ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十六條 軌道ヲ交叉シ若ハ之ニ接續シ又ハ之ニ接近シテ道路、橋梁、運河、鐵道又ハ他ノ軌道ヲ設クルコトアルモ特許ヲ受ケタルモノハ之

ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十七條 道路ニ敷設セル工作物其ノ他營業上必要ナル物件ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ地方長官ノ特許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ義務履行ノ擔保ト爲スコトヲ得ス

第二十八條 内務大臣及遞信大臣又ハ地方長官ハ公益上必要ト認ムル事項ヲ特許ヲ受ケタル者ニ命スルコトアルヘシ内務大臣及遞信大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ此ノ命令書ノ條項ヲ變更スルコトアルヘシ

第二十九條 將來定メラルル所ノ法令ノ結果トシテ此ノ命令書ノ條項ニ變更ヲ來スコトアルモ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十條 特許ヲ受ケタル者ハ半年毎ニ營業ノ報告書ヲ調製シ三十日內ニ地方長官ニ差出スヘシ地方長官ハ何時ニテモ營業ニ關スル帳簿書類等ヲ檢閲スルコトアルヘシ

第三十一條 國又ハ公共團體ニ於テ公益ノ爲軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ全部若ハ一部ノ專

用又ハ買収ヲ爲サムトスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但之ニ對シ補償ヲ求ムルコトヲ得
前項ノ物件ノ範圍ニ付争アルトキハ内務大臣之ヲ定ム

第三十二條 前條全部専用ノ場合ニ於テ月ヲ以テ専用期間ヲ算スルトキハ前年ニ於ケル平均収入月額又ハ前年ノ相當月ノ収入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定メ日ヲ以テ専用期間ヲ算スルトキハ前月ニ於ケル平均収入日額又ハ前年若ハ前月ノ相當日ノ収入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定ム但其ノ選擇ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得
前條一部専用ノ場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ノ選擇スル所ニ從ヒ全部ノ延長ニ對スル専用部分ノ延長ノ比例ヲ以テ全部専用ノ場合ニ於ケル補償金額ニ乘シ又ハ前項ト同一ノ方法ニ依リ其専用部分ニ對スル補償金額ヲ定ム
前條全部買収ノ場合ニ於テハ年率七分ヲ以テ前

五箇年間ノ純益平均年額ヲ除シ補償金額ヲ定ム但其ノ地方ニ於ケル金利率率ニ著シキ變更ヲ來シタルトキハ内務大臣及逓信大臣ハ本項ノ年率ヲ變更スルコトアルヘシ
役員賞與ノ性質ヲ有スル支出ハ前項純益金ノ内ニ算入ス

前條一部買収ノ場合ニ於テハ前三項ノ規定ヲ準用シテ補償金額ヲ定ム
開業ノ後本條ニ規定シタル時日ヲ經過セザルトキハ既往營業時日ヲ標準トシテ平均額ヲ算出ス
第三十三條 他ノ軌道營業者ニ於テ内務大臣及逓信大臣ノ許可ヲ得テ特許ヲ受ケタル者ノ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ一部ヲ共同使用セントスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但其ノ共同使用ノ條件ハ協議ノ上之ヲ定メ協議調ハサルトキハ内務大臣及逓信大臣之ヲ定ム
第三十四條 左ノ場合ニ於テハ特許ハ其ノ効力ヲ失フ
一 第四條但書ノ出願ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ

許可ヲ得サルトキ若ハ之ヲ取消サレタルトキ

- 二 第五條ノ期間内ニ認可ヲ申請セサルトキ又ハ其ノ認可ヲ得サルトキ
 - 三 第六條ノ期間内ニ工事ニ著手セサルトキ
 - 四 第四十二條第一項ノ保證金ヲ差出ササルトキ
 - 五 明治四十四年九月逓信省令第二十五號電氣事業法施行規則第十二條ニ依ル工事施行ノ認可ヲ得サルトキ又ハ之ヲ取消サレタルトキ
 - 六 全部ノ營業ヲ廢シタルトキ
 - 七 特許ヲ受ケタルモノ總テ死亡シタルトキ又ハ會社解散シタルトキ
 - 八 營業滿期ノトキ
- 第五條ノ認可申請以前ニ會社成立セサルトキハ特許ハ其効力ヲ失フ
創立總會ニ於テ又ハ總社員ニ於テ此ノ命令書ノ條項ヲ遵守シテ營業スルコトヲ議決シ又ハ同意

スルニ非サレハ特許ハ其効力ヲ失フ

- 第三十五條 前條ニ掲ケタル場合ノ外特許ヲ受ケタル者ニ於テ此命令書ノ條項又ハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキハ内務大臣及逓信大臣ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ解クコトアルヘシ特許ヲ受ケタル者力不可抗力ニ因ラスシテ滿一箇月間工事ヲ休止シ更ニ起工セザルトキ又ハ特許ヲ受ケタル者ノ中死亡者若ハ脱退者アリタル場合ニ於テ内務大臣及逓信大臣力殘存者ノミニテハ事業ヲ營ムニ適セスト認ムルトキ亦前項ニ同シ
- 第三十六條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ地方長官ハ制限ヲ定メテ道路ヲ原形ニ復セシムルコトアルヘシ
- 第三十七條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テ國又ハ公共團體カ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ全部又ハ一部ヲ買収セントスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ最近ノ財産目錄ニ記載シタル物件ノ價格ヲ以テ之ヲ賣渡スヘシ

買収者ニ於テ前項ノ價格ニ關シ異議アルトキハ其申請ニ依リ内務大臣及逓信大臣ハ地方長官、買収者及特許ヲ受ケタル者ヲシテ各三名ノ評價委員ヲ選定セシメ其ノ意見ヲ徵シテ其ノ價格ヲ定ム

本條ノ場合ニ於テハ第三十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十八條 特許ヲ受ケタル者ハ内務大臣及逓信大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第三十九條 特許ヲ受ケタル者ニ於テ此ノ命令書及此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ依リ履行スヘキ義務ヲ履行セサルトキハ地方長官ハ自ら代テ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第四十條 特許ヲ受ケタル者許可ヲ得スシテ營業ヲ休止シ又ハ一部ノ營業ヲ廢止シタルトキハ内務大臣及逓信大臣ハ市町村ヲシテ營業年限内特許ヲ受ケタル者ノ計算ヲ以テ營業ヲ爲サシメ又

ハ他人ヲシテ無償ニテ特許ヲ受ケタル者ノ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ヲ使用シ營業ヲ爲サシムルコトアルヘシ

本條ノ場合ニ於テハ第三十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四十一條 此ノ命令書及此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ依リ特許ヲ受ケタル者ニ於テ履行スヘキ義務ノ爲ニ生スル費用並第十九條第二項及第三十九條ノ費用ハ總テ特許ヲ受ケタル者ノ負擔トス

此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ因リ特許ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ受クルコトアルモ其賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十二條乃至第四十四條 (削除)
第四十五條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ハ特許狀及此ノ命令書ヲ地方長官ノ定メタル期日マテニ返納スヘシ

○二省以上交渉ノ事項ニ關スル件

(明治四一、一二勅令二六六) 改正
(明治四一、一二勅令三〇七)

第一條 軌道條例ニ依リ内務大臣ノ特許ヲ受ケ一般運輸ノ業ヲ營マントスル者ハ内閣總理大臣ノ許可ヲ受クヘシ
第二條 以下省略

○軌道條例及明治四十一年勅令第二百六十六號ニ依ル願書差出方

(明治四十一年十月)
(逓信省令第四十五號)

軌道條例及明治四十一年勅令第二百六十六號ニ依ル願書ハ内務、逓信兩大臣宛トシ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

○軌道抵當法

二省以上交渉ノ事項ニ關スル件 軌道條例及明治四十一年勅令第二百六十六號ニ依ル願書差出方 軌道抵當法

(明治四十二年四月)
法律第二十八號

第一條 軌道ノ抵當ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外鐵道抵當法ヲ準用ス(明治三三、三、法律五三、鐵道抵當法參照)

第二條 軌道財團ハ左ニ掲クルモノニシテ軌道財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス
一 軌道線路其ノ他ノ軌道用地及其ノ上ニ存スル工作物並之ニ屬スル器具機械

二 工場、倉庫、厩舎、發電所、變壓所、配電所、事務所、舍宅其ノ他工事又ハ運輸ニ要スル工作物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械
三 用水ニ關スル工作物及其敷地並之ニ屬スル器具機械

四 軌道用通信、信號又ハ送電ニ要スル工作物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械
五 前四號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動産ノ上ニ存スル地上權、

登記シタル賃借權及前四號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ存スル地役權

六 車輛及馬匹竝之ニ屬スル器具機械

七 保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料及器具機械

軌道營業者カ軌道ニ要スル電氣ノ餘力ヲ以テ電氣供給ノ業ヲ營ム場合各ニ於テハ其ノ供給ノ爲要スル第二號乃至第五號及第七號ニ掲ケタルモノ

ヲ軌道財團ニ屬セシムルコトヲ得

第三條 公共團體カ軌道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テハ鐵道抵當法第二十六條ノ規定ヲ準用ス

特許ニ附シタル條件ニ依リ軌道財團ニ屬スルモノヲ無償ニテ國又ハ公共團體ニ引渡スヘキトキハ其ノ財團ヲ目的トスル抵當權ハ消滅ス

第四條 軌道營業者カ株式會社ニ非サル場合ニ於ケル軌道抵當ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十二年七月勅令第九十一號ヲ以テ同年七月二十二

日ヨリ施行)

○軌道抵當取扱規則

(明治四十二年七月) 閣令第六號

第一條 軌道抵當ノ取扱ニ關シテハ鐵道抵當法施行規則ヲ準用ス(明治三八、五、遞令三七、鐵道抵當法施行規則參照)

第二條 抵當權ノ設定若ハ變更又ハ抵當證書若ハ信託證書ニ記載セル事項ノ變更ニ關スル書類ハ

內閣總理大臣及內務大臣宛トシテ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ但動力ニ電氣ヲ使用スル場合ニ於テハ內閣總理大臣、內務大臣及遞信大臣宛トス

第三條 左ノ書類ハ鐵道抵當法施行規則第二條第一項第六號及第七號ノ書類ニ代ハルモノトス

一 物件擔保ノ負擔アルトキハ其ノ總額及償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本又ハ證明書

二 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ總額及償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本

第四條 軌道財團ニ關スル公告ノ申請書、抵當權ノ登録ニ關スル申請書及軌道財團目錄ニ關スル書類ハ內閣總理大臣宛トシテ差出スヘシ

第五條 馬匹及電氣供給ノ爲要スルモノノ財團目錄ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第六條 馬匹、保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料ノ變更又ハ消滅ノ届出ハ決算期ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第七條 執行力アル正本付與ノ申請書ハ內閣總理大臣宛トシ之ヲ差出スヘシ

第八條 競落人ニ依テ發起セラレタル會社又ハ競落人タル會社ヨリ差出ス特許及許可ノ申請書ハ內閣總理大臣及內務大臣宛トシテ地方長官ヲ經由スヘシ

第九條 裁定申請書、管理人推薦ノ申立書、計算報告書及配當報告書ハ內閣總理大臣及內務大臣宛トシ之ヲ差出スヘシ

本令ハ明治四十二年法律第二十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

(別記)

馬		匹	
種類	名稱	性	毛色
內國產	牡	青
		年 齡	體 尺
		五 歲	五 尺
		產 地	特 徵
		熊本縣	頸二毛疵アリ

軌道抵當法取扱規則

種類	區間及電氣供給區域	線條數	支持物	亘長	所屬器具機械	雜種	外國種
					
					
					
					
					
					
					
					
					
					
					
					
					

電氣供給用電線路

種類	區間及電氣供給區域	線條數	支持物	亘長	所屬器具機械
----	-----------	-----	-----	----	--------

送電線	送電線	配電線	配電線	配電線	配電線
何々發電所ヨリ間 何々變電所ニ至ル間	何々發電所ヨリ間 何々變電所ニ至ル間	供給區域何々市内一圓	供給區域何々町 (村内)一圓	何々村(大字) 何々(一圓)
三專 用	三專 用	三條乃至 六條	三條乃至 六條
.....	專 用 用	專 用 用
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

軌道抵當法取扱規則

○私設鐵道法施行規則

(明治三十三年八月十日)
遞信省令第二十七號

私設鐵道法施行規則左ノ通定ム

私設鐵道法施行規則

- 第一條 私設鐵道假免許ノ申請書ハ發起人之ニ連署シ本店ヲ設置セントスル地ノ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ
- 第二條 地方長官ハ前條ノ申請書ニ意見書ヲ附シテ進達スヘシ
- 起業カ他ノ地方管内ニ係ルトキハ地方長官ハ關係地方長官ニ商議シ前項ノ意見書ヲ調製スヘシ
- 第三條 起業目論見書ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 目的
 - 二 商號及本店設置地
 - 三 線路ノ地點又ハ終點並其ノ經過スヘキ地名
 - 四 鐵道ノ種類及軌間
 - 五 資本ノ總額

- 六 株式總數及一株ノ金額
- 七 會社存立時期ヲ定メタルトキハ其ノ時期
- 八 發起人ノ氏名、住所
- 九 發起人ノ引受クヘキ株式ノ總數並各發起人ノ引受株數
- 前項ノ規定ハ鐵道延長ノ起業目論見書ニ之ヲ準用ス但シ建設資金ノ出資方法ヲ記載スヘシ
- 第四條 假免狀ヲ受ケタル後起業目論見書ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ認可ヲ受クヘシ但シ發起人ノ死亡、氏名、住所ノ變更ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 前項但書ノ場合ニ於テハ發起人ノ連署ヲ以テ之ヲ届出ツヘシ
- 第五條 假免狀ニハ商法ノ規定ニ依リ定款ニ記載スヘキ事項ノ外線路ノ起點、終點及其ノ經過地ノ地名ヲ記載スヘシ
- 第六條 起業カ公共ノ利益タルコトヲ證スル調書ニハ鐵道敷設ヲ必要トスル地方ノ狀況及鐵道敷設ニ因リ從來ノ交通機關ニ比シ運輸上ニ於テ公

衆ノ受クヘキ利益等ヲ詳細ニ記載シ第一號及第二號様式ニ據リ旅客表及貨物表ヲ添附スヘシ

第七條 線路豫測圖ハ左ノ二種トス

一 豫測平面圖

縮尺ハ一吋三十鎖トシ線路ノ中心線ハ赤色ヲ以テ彩リ其ノ經過スル地名及地勢ヲ明記スヘシ停車場ノ位置、名稱及曲線半徑並交角ヲ示シ距離ハ半哩毎ニ記入ス

二 豫測縱斷面圖

縮尺ノ長ハ平面圖ト同一ニシテ高ハ一吋百五十呎トシ中心線地面ノ高低黑色及施工基面ノ高低赤色ヲ半哩毎ニ記シ隧道及橋梁(溝橋ヲ含ム)ノ長、線路ノ勾配並停車場ノ位置、名稱ヲ記入スヘシ

市街地ニ係ル線路ノ部分ハ別ニ長一吋三鎖高一吋三十呎ノ縮尺ヲ以テ表ハセル平面及縱斷面圖ヲ添附スヘシ

第八條 線路豫測圖ノ説明書ニハ線路經過地ノ地勢ヲ詳記シ市街、村落、社寺、名稱、舊跡、公

園、道路、山嶽、河川、港灣等ノ重ナルモノ及要塞地トノ關係ヲ明ニスヘシ

説明書ニハ縮尺二十萬分ノ一以上ノ地圖ヲ添ヘ既成鐵道若ハ官設豫定線又ハ本免許ヲ受ケタル私設鐵道トノ關係ヲ明示スヘシ

第九條 敷設費用ノ概算書ハ第三號様式ニ依リ其ノ總額及内譯各項毎ノ金額ヲ記載シ且線路ノ哩數ヲ掲クヘシ

第十條 運送營業上ノ收支概算書ニハ收支及支出ノ總額及内譯ヲ示シ且資本ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ

線路延長ノ場合ニ於テハ前項ノ外延長ノ爲線路全般ニ及ホスヘキ收入及支出ノ概算ヲ記載スヘシ

第十一條 運送營業上ノ收支概算書ヲ説明書ニハ旅客貨物交通ノ概況及重要ナル貨物ノ種類ヲ詳説シ第四號様式ニ依リ每一哩ノ建設費、貨物噸數、旅客人數、貨物收入、旅客收入、營業費及各項ノ合計並純益及其ノ資本ニ對スル割合ヲ掲

載シタル表ヲ添付スヘシ

第十二條 線路豫測圖及説明書、敷設費用ノ概算書、運送營業上ノ收支概算書及説明書ニハ調査主任者之ニ署名捺印スヘシ

第十三條 假免許失効ノ場合ニ於テハ一箇月内ニ地方長官ヲ經由シテ假免許狀ヲ返納スヘシ前項ノ規定ハ創立總會ニ於テ會社設立ノ廢止ヲ議決シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 本免許申請期限延期ノ申請書ハ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ
地方長官ハ前項ノ申請書ニ意見書ヲ付シテ進達スヘシ

第十五條 本免許ノ申請書ハ總取締役之ニ連署シ本店所在地ノ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ
地方長官ハ前項ノ申請書ニ意見書ヲ付シテ進達スヘシ

起業カ本店所在地外ノ地方管内ニ係ルトキハ會社ハ其ノ關係部分ニ對スル書類圖面ノ謄本ヲ調

製シテ之ヲ關係地方長官ニ差出スヘシ

關係地方長官前項ノ書類圖面ヲ受取リタルトキハ各意見書ヲ進達スヘシ

第十六條 工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 單線又ハ複線等ノ區別

二 軌間及軌道ノ間隔

三 建築定規及車輛定規(三十五年遞信省令第十三號ヲ以テ本號追加)

四 曲線ノ最小半徑及反曲線間ノ最短直線

五 線路ノ最急勾配及縱弧線ノ最小半徑

六 施工基面ノ幅、築堤及切取斜面ノ勾配、排水渠ノ寸法及用地ノ幅

七 橋梁(溝橋ヲ含ム)ノ臺脚及其礎ノ施工方法桁及拱ノ材質、構造、寸法及所定最大活重

八 隧道ノ各種地質ニ應スル施工斷面、坑門排水渠及待避所ノ構造並各待避所間ノ距離

九 軌條及附屬品ノ材質、形狀及重量、枕木ノ材質、寸法及敷列間隔道床ノ種類及厚、轉

十 轍器及轍叉ノ構造並曲線ニ於ケル軌間ノ擴度及外方軌條ノ高度

十一 停車場ニ於ケル諸建築物、乗降場、貨物積卸、常置信號機、跨線橋、地下道、轉車臺、貯水器、石炭臺等ノ位置及構造、側線ノ配置、轍叉ノ交角、用地ノ境界並停車場埋程

十二 機關車ノ輛數、形狀、構造、寸法、重量及汽壓、客車、貨車其ノ他車輛ノ輛數、形狀、寸法、容積、重量、機關車及客貨車其ノ他車輛ノ車臺及車輛ノ構造、聯結具及緩衝器ノ裝置、寸法等(同上)

十三 其ノ他鐵道建設規程若ハ特種ノ設計ニ依リ施設スヘキ工事方法

電氣鐵道ニ在リテハ發電所、變壓所及配電所内機械器具ノ裝置法、原動機ノ種類、箇數及馬力數、發電機ノ種類、箇數及電

氣馬力數又ハ「ワット」、電壓變壓器(回轉

變流器ヲ含ム)ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワット」、電壓及其ノ配置法、電車

ニ裝置スル電動機ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワット」、電壓、電車内機械器

具ノ裝置法、電氣方式、配電法、電氣鐵道方式(單線式電氣鐵道ニ在リテハ軌鐵

ノ接續法ヲモ)、電氣線路ノ種類及構造方保安裝置法ヲ明細ニ記入スルコトヲ要ス

第一項中第一號、第二號、第四號、及第五號ヲ除クノ外各號ニハ設計圖面ノ添附ヲ要ス但シ停車場圖ハ縮尺一吋一鎖トス

第十七條 本免許申請ノ際橋梁及機關車ノ設計ヲ確定スルコト能ハサルトキハ橋梁ニ在リテハ適

宜ノ縮尺ヲ以テ河川橫斷面圖ニ平水位及最高洪水位ヲ示シ且橋臺、橋臺及橋桁ノ位置ヲ記入シ

タルモノ又機關車ニ在リテハ縮尺一吋八呎ヲ以テ表ハセル略圖ニ豫メ確定シ得ヘキ寸法、重量

等ヲ記載シタルモノヲ呈出シ橋桁又ハ機關車製

造著手前ニ詳細ナル設計ヲ定メ更ニ認可ヲ受クヘシ

第十八條 線路實測圖ハ左ノ諸圖トス

一 實測平面圖
縮尺一吋三十鎖トシ線路ノ左右各十鎖以内ノ地勢ヲ明ニシ其ノ他附近ノ市街、村落、社寺、名勝、舊跡、公園、道路、山嶽、河川、港灣、要塞地等ヲ示シ府縣、郡市、町村ノ境界及磁針方位ヲ記スヘシ線路中心線ハ赤色ヲ以テ彩リ距離ハ半哩毎ニ記シ曲線ノ起終點、半徑及交角、停車場、聯絡所、信號所ノ名稱及哩程、隧道及橋梁ノ名稱並位置ヲ示スヘシ若シ他ノ鐵道線路ト交叉スルカ或ハ之ニ接近若ハ連絡スル所アルトキハ該線路ノ前後各一哩間ノ中心線ヲ記入スヘシ
重要ナル建造物ニ接近シ又ハ之ヲ取除クヘキ箇所、重要ナル河川ヲ附替フヘキ箇所、重要道路又ハ軌道ヲ横斷シ若ハ之ヲ附替フ

ヘキ箇所並他ノ鐵道ト交叉シ又ハ之ニ接近若ハ連絡スル箇所ハ一吋三鎖ノ縮尺ヲ以テ其ノ局部ノ地形ヲ附記シ且設計ノ概要ヲ示スヘシ(三十五年遞信省令第十三號ヲ以テ本項中改正)
市街地ニ係ル線路ノ部分ニ付テハ別ニ縮尺一吋三鎖ノ平面圖ヲ添附スヘシ
電氣鐵道ニ在リテハ別ニ縮尺一吋三鎖ヲ以テ表ハセル全線ノ平面圖ヲ添附シ發電所、變壓所、配電所、電氣線路、電柱、埋線及埋線試驗口ノ位置、埋線ノ深、電氣線路ノ經過地名及近傍ノ町村名、電柱ノ番號、道路ノ幅、電柱ノ道路ヘ出幅及其ノ最近地ノ番地、他人ニ屬スル電燈線、電力線其ノ他電氣鐵道用電線ト交叉又ハ接近スル箇所、電氣線路ヨリ凡ソ一町以内ノ區域ニ在ル電氣線、電話線其ノ他電氣信號線等ノ位置並歸線ノ一部トシテ大地ヲ使用スル場合ニハ軌道ヨリ凡ソ二町以内ノ區域ニ在ル地

二

下埋設ノ金屬線金屬管其ノ他金屬體及發電機ノ一極ヲ接地スル點ノ位置等明瞭ナル凡例ヲ掲ケ記入スルコトヲ要ス
實測縱斷面圖
縮尺ノ長ハ平面圖ト同一ニシテ高ハ一吋百五十呎トシ中心線地面ノ高低(黑色)施工基面ノ高低(赤色)築堤ノ高(綠色)及切取ノ深(赤色)ヲ十鎖毎ニ記シ隧道及橋梁(溝橋ヲ含ム)ノ長、桁ノ種類及箇數、停車場、聯絡所、信號所ノ名稱、哩程及兩端區域、國道其ノ他重要ナル道路踏切ノ位置並線路ノ勾配ヲ詳記シ且欄外ニ直線及曲線ノ圖表ヲ示スヘシ
國道其ノ他重要ナル道路、軌道又ハ他ノ鐵道線路ト交叉スル箇所ハ適宜ノ縮尺ヲ以テ其ノ附近ニ於ケル高ノ關係ヲ示シ且設計ノ概要ヲ附記スヘシ他ノ鐵道ニ接近シ又ハ之ニ連絡スル場所ハ別ニ縮尺長一吋三鎖高一吋三十呎ヲ以テ表ハセル前後各一哩間兩線

三

對比ノ斷面圖ヲ添附スヘシ
市街地ニ係ル線路ノ部分ニ付テハ別ニ縮尺長一吋三鎖高一吋三十呎ノ縱斷面圖ヲ添附スヘシ
實測橫斷面圖
縮尺適宜トシ縱斷面圖ノミニテ地形ヲ示スニ不充分ナル箇所ニ限り之カ添附ヲ要ス
實測河川圖

四

內務省直轄河川其ノ他重要ナル河川ヲ橫斷スル箇所ニ限り調製シ平面圖ハ縮尺一吋三鎖縱斷面圖ハ縮尺長一吋三鎖トシ鐵道線路ノ上下流各半哩間ニ於ケル地形、堤塘、河床ノ形狀及其ノ地質、平水位及最高洪水位ヲ示シ且橋臺、橋脚及橋桁ノ置テ位記入スヘシ
實測圖面ニハ第五號及第六號樣式ニヨリ曲線表及勾配表ヲ添附スヘシ
圖面ハ總テ蠟布ヲ用ヒ縱橫各一呎ヲ以テ最小限トス

第十九條 工費豫算書ハ第七號様式ニ依リ其總額及内譯各項目毎ノ金額ヲ記載シ且線路ノ哩數ヲ掲クヘシ

工費豫算書ニハ第八號様式ニヨリ營業資金、工費並會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費及發起人カ受クヘキ報酬アルトキハ其ノ額ヲ合記シタル表ヲ添附スヘシ

第二十條 工費豫算總額ノ増減又ハ各線若ハ各區ニ對スル工費豫算ノ分合ヲ爲サントスルトキハ理由書及明細表ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 會社ハ每事業年度末ニ於ケル工費ノ豫算決算ノ差引對照表ヲ調製シテ定時總會後一週間以内ニ届出ツヘシ

第二十二條 工事方法變更認可ノ申請書ニハ理由書、工事方法書及圖面並新舊工費對照表ヲ添付スヘシ但シ停車場ニ關スル圖面ハ新舊設計ノ對照ヲ明示スルトキトキ要ス

第二十三條 認可ヲ經タル工事方法ノ範圍内ニ於ケル左ノ變更ハ前條ノ規定ニ準シ書類及圖面ヲ

添付シ其ノ都度届出ツヘシ

一 踏切道及道路、河川附替工事ノ伸縮増減、橋梁(溝橋ヲ含ム)及隧道ノ伸縮増減

二 停車場ニ於テ乗降場、常置信號機、工跨線橋及地下道ノ増設並其ノ他ノ建造物ノ増減及本線路ニ關係ヲ有セサル側線ノ伸縮、増減

三 車輛ノ増加(三十五年遞信省令第十三號ヲ以テ本號中改正)

四 車輛ノ改造但シ車輛ノ用法ヲ變更スルモノハ此限ニアラス(同上ヲ以テ追加)

第二十四條 左ノ各號ニ該當スルモノハ理由書及新舊對照圖並新舊工費對照表ヲ添付シ其ノ都度届出ツヘシ(同上ヲ以テ本條改正)

線路中心線ノ異動カ實測平面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋調密ノ地ニ於テハ左右各半鎖其ノ他ニ於テハ各五鎖以内ニ在ルトキ

二 曲線ノ半徑ヲ變更シテ之ヲ長カラシムルト

キ並之ヲ變更シテ二十鎖ヨリ短縮セシメサルトキ

三 施工基面高低ノ變更カ實測縱斷面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋調密ノ地ニ於テハ二呎其ノ他ニ於テハ六呎以内ニ在ルトキ

四 線路ノ勾配ヲ變更シテ之ヲ緩ナラシムルトキ並之ヲ變更シテ百分ノ一ヨリ急ナラシメサルトキ

停車場内線路ノ勾配、内務省直轄河川及其ノ他著名ノ建造物所在地ニ關係ヲ有スル場合ニ於テハ前項ニ該當スル場合ト雖モ認可ヲ受クルコトヲ要ス

前二項ノ外線路ノ變更ハ第一項ニ掲クル書類圖面ヲ添付シ認可ヲ受クヘシ

第二項中著明ノ建造物所在地ニ關係ヲ有スル場合及前項線路ノ變更ノ場合ニ於テハ地方長官ヲ經由スヘシ

停車場、聯絡所、信號所及隧道、橋梁ノ名稱ヲ

變更シタルトキハ之ヲ届出ツヘシ

第二十五條 假設工事ノ認可申請書ハ理由書、圖面、工事方法書及工費豫算書ヲ添付シ工費支出ノ途ヲ明示シ之ヲ差出スヘシ(同上ヲ以テ本項中改正)

認可ヲ經タル工事方法ノ範圍内ニ於ケル假設工事ノ變更ニシテ第二十三條第一號乃至第三號及第二十四條第一項第一號乃至第四號ニ該當スル場合ニ於テハ第二十三條ニ掲クル書類圖面等ヲ添付シ工費支出ノ途ヲ明示シ之ヲ届出ツヘシ(同上ヲ以テ本項追加)

假設工事ハ豫メ其使用期限ヲ定ムルコトヲ要ス第二十六條 左ノ假設工事ヲ施行スルトキハ理由書及圖面ヲ添付シ其ノ都度届出ツヘシ但シ第一號ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ届出ツル外即日電信ヲ以テ報告スヘシ

一 天災事變ニ際シ一時ノ用ニ供スル假設線路假、建造物

二 停車場内ニ於テ側線其ノ他建造物ノ改築工

事ヲ施スニ當リ設クル假設線路及假建造物
 第二十七條 第二十二條乃至第二十六條ノ圖面及
 工事方法書ニ付テハ第十六條及第十八條ノ規定
 ナ準用ス
 第二十八條 工事方法書及圖面、線路實測圖及工
 費豫算書其ノ他附屬表ニハ擔當技術者之ニ署名
 捺印スヘシ
 第二十九條 私設鐵道法第十條第二項第三號ニ揭
 ケタル決定書ノ謄本ハ認證ヲ受ケタル謄本ヲ以
 テ差出スヘシ
 第三十條 鐵道延長ノ假免許及本免許ノ申請書ニ
 ハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スヘ
 シ
 議事及決議ノ要領書ニハ左ノ事項ヲ附記スヘシ
 一 資本ノ總額
 二 株式ノ總數
 三 株主ノ總數
 四 議決權ノ總數
 五 出席株主ノ總數

六 出席株主ノ有スル株式ノ總數
 七 出席株主ノ有スル議決權ノ總數
 前項ノ規定ハ本規則ノ規定ニヨリ株主總會ノ議
 事及決議ノ要領書ヲ差出ス場合ニ之ヲ準用ス
 第三十一條 私設鐵道法及商法ノ規定ニヨリ爲シ
 タル登記ノ届出ハ登記ノ日ヨリ一週間内ニ其ノ
 登記謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ
 第三十二條 本免許失效ノ場合ニ於テハ一箇月内
 ニ地方長官ヲ經由シテ免許狀ヲ返納スヘシ
 第三十三條 會社ハ本免許ヲ受ケタルトキハ一箇
 月内ニ主任技術者ヲ選任スヘシ
 主任技術者ヲ置キタルトキハ一週間内ニ其ノ履
 歷書及技術修業ノ證明書類ヲ添附シテ届出ツヘ
 シ更任アリタルトキ亦同シ技術ニ關スル書類圖
 面ニシテ監督官廳ニ呈出スルモノニハ主任技術
 者之ニ署名捺印スヘシ
 第三十四條 主任技術者ノ缺員ヲ生シタルトキハ
 遲滞ナク其更任者ヲ選任シ前條第二項ノ規定ニ
 依リ届出ツヘシ

第三十五條 定款變更ノ決議認可ノ申請書ニハ株
 主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スヘシ
 第三十六條 増加資本ニ對スル新株ノ募集ヲ了リ
 タルトキハ株式申込書ノ謄本、取締役、監査役
 及検査役ヨリ株主總會ニ爲シタル報告ノ要領書
 ヲ添附シテ届出ツヘシ
 第三十七條 資本減少ニ係ル定款變更ノ決議認可
 ノ申請書ニハ債權者カ期限内ニ異議ヲ述ヘサリ
 シ旨並異議ヲ述ヘタル債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ
 擔保ヲ供シタル旨ヲ證スル書類ヲ添附スヘシ
 第三十八條 地ノ會社ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ
 目的トシテ之ヲ受クルノ認可申請書ニハ其ノ事
 由ヲ詳記シ社名、株數、取得ノ方法及費途ヲ記
 載シ質權ニ在リテハ尙ホ期間、元金額、利率、
 債務者ノ氏名等ヲ記載シ株主總會ノ議事及決議
 ノ要領書ヲ添附スヘシ
 第三十九條 鐵道ノ貸借又ハ營業ノ管理委託ノ認
 可申請書ニハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書、
 貸借又ハ管理ニ關スル契約書謄本等ヲ添附スヘ

第四十條 社債發行認可ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ
 記載スヘシ
 一 社債發行ヲ要スル事由
 二 社債ノ總額
 三 券面ノ金額
 四 社債ノ利率
 五 社債募集ノ初期及終期
 六 社債元利償還ノ方法及期限
 前項ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキハ
 更ニ其ノ認可ヲ受クヘシ
 第四十一條 前條ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附ス
 ヘシ
 一 株主總會ノ議事及決議ノ要領書
 二 最終ノ貸借對照表
 三 元利金支拂ノ豫算
 四 株金額及拂込額並ニ鐵道及之ニ屬スル物件
 ノ抵當ノ登記謄本
 五 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了

ヘサル總額

- 六 社債發行ニ關スル條件及規程
- 前項第六號ノ書類ニ記載ノ事項ヲ變更シタルトキハ一週間内ニ届出ツヘシ
- 第四十二條 社債募集ノ公告ヲ爲シタルトキハ一週間ニ届出ツヘシ
- 第四十三條 社債募集ノ公告ヲ了リタルトキハ募集締切ノ日ヨリ三十日内ニ左ノ事項ヲ記載シ届出ツヘシ
 - 一 募集締切ノ年月日
 - 二 募集金額
 - 三 應募金額
 - 四 募集契約締結ノ最昂、最低價格及會社ノ實收スヘキ金額
- 無記名式ノ債券ヲ發行シ又ハ記名式ノ債券ヲ無記名式ニ、無記名式ノ債券ヲ記名式ニ變更シタルトキハ其ノ金額、券數及發行又ハ變更ノ年月日ヲ記載シ發行又ハ變更ノ日ヨリ一週間内ニ届出ツヘシ

- 前項ノ規定ハ株券ニ之ヲ準用ス
- 第四十四條 會社ハ毎年社債ニ關スル左ノ事項ヲ翌年二月末日迄ニ届出ツヘシ
 - 一 其ノ年社債拂込高、既往累年拂込總高及未拂込高
 - 二 其ノ年社債償還高、既往累年償還總高及未償還高
 - 三 利子仕拂高
 - 四 債券讓渡讓受人ノ人員及債金高
 - 五 其ノ年末現在債權者ノ員數
- 第四十五條 鐵道及之ニ屬スル物件抵當負債ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ
 - 一 負債ヲ要スル事由及其ノ金額
 - 二 元利償還ノ方法及期限
 - 三 利率
 - 四 抵當物件ノ種類但シ目錄ヲ添附ス
 - 五 契約書謄本
 - 六 債券者ノ氏名、住所

- 前項ノ申請書ニハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書及總株金拂込額及社債總額並前ニ爲シタル抵當ノ登記謄本ヲ添附スヘシ
- 第四十六條 前條ノ外會社ニ於テ借入金ヲ爲シタルトキハ借入ノ日ヨリ一週間内ニ前條第一項第一號乃至第三號及第六號ノ事項ヲ記載シ届出ツヘシ其ノ事項ノ變更アリタルトキハ亦同シ
- 第四十七條 機關車、客車及貨車ノ讓渡又ハ二箇月以上ノ期間ヲ定メ若ハ二箇月以上ニ涉リ之カ貸渡ヲ爲ストキハ認可ヲ受クヘシ但シ連帶運輸ノ場合ニ於テ豫メ使用料ヲ定メタル交互ノ使用ハ此ノ限ニ在ラス
- 前項認可申請書ニハ契約事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ
- 第四十八條 會社合併認可ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ
 - 一 合併ノ事由
 - 二 合併方法
- 前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 株主總會ノ議事及決議ノ要領書
- 二 債權者カ期間内ニ異議ヲ述ヘサリシ旨並異議ヲ述ヘタル債券者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタル旨ヲ證スル書類
- 第四十九條 鐵道敷設ニ著手シタルトキハ一週間内ニ届出ツヘシ
- 第五十條 工事著手竣功期限ノ伸長延期並期限指定ノ申請書ハ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ
- 地方長官ハ前項ノ申請書ニ意見書ヲ附シテ進達スヘシ
- 第五十一條 工事施行中ハ三箇月毎ニ工程報告ヲ差出スヘシ
- 第五十二條 工事カ竣功シタルトキハ成功圖面並諸表ヲ添附シ届出ツヘシ
- 前項圖面及諸表ハ別ニ之ヲ定ム
- 第五十三條 旅客列車(混合列車亦同シ)ノ發着時間及度數ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

第五十四條 天災事變其ノ他已ムテ得サル事由ニ因リ一時旅客列車(混合列車亦同シ)ノ發着時間及度數ノ變更ヲ爲シタルトキハ直ニ届出ツヘシ

第五十五條 通常貨物列車及臨時旅客列車(混合列車亦同シ)ノ發着時間及度數ヲ定メ若ハ之ヲ變更スルトキハ届出ツヘシ

第五十六條 第五十三條ノ認可申請書ニハ運轉圖表及列車發着時間表ヲ添附スヘシ

前項列車發着時間表ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 驛名
- 二 各驛間ノ距離
- 三 各驛累計距離
- 四 列車ノ番號及種類
- 五 發着時刻
- 六 上下列車ノ區別

前項時間表ニハ聯結客車ノ等級及種類並他ノ鐵道ヘ連絡スヘキ接續時間ヲ附記スヘシ

第五十七條 列車發着時間及度數變更ノ認可申請書

書及届書ニハ理由書ヲ添附スヘシ

第五十八條 旅客列車(混合列車亦同シ)ノ發着時間及度數ノ變更ハ臨時列車ヲ除クノ外其ノ實施前少クトモ三日間各停車場ニ之ヲ揭示スルコトヲ要ス

第五十九條 他ノ鐵道トノ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ストキハ左ノ事項ヲ記載シ契約書ノ謄本ヲ添附シ實施後一週間内ニ届出ツヘシ

- 一 連帶驛名
- 二 旅客及荷物取扱方
- 三 賃金ノ割賦方
- 四 共同停車場及倉庫等ニ關スル使用料其ノ他ノ事項
- 五 線路及車輛ノ使用料、遲滯料等ニ關スル事項
- 六 運輸上ノ責任負擔方
- 七 運輸開始年月日

第六十條 會社力解散シタルトキハ登記謄本ヲ添附シテ届出ツヘシ

清算力結了シタルトキハ清算人ハ其ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ一週間内ニ株主總會ノ承認ヲ經タル清算報告書ヲ添附シテ届出ツヘシ

附則

第六十一條 本規則ハ私設鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十二條 私設鐵道法施行前ニ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ受ケタル他ノ會社ノ株式ヲ有スル會社ハ本規則施行ノ日ヨリ二週間内ニ第三十八條ニ掲クル事項及取得若ハ設定ノ年月日ヲ記載シテ届出ツヘシ

第六十三條 私設鐵道法施行前ニ鐵道及之ニ屬スル物件ヲ質權ノ目的トシテ負債ヲ爲シタル會社ハ本規則施行ノ日ヨリ二週間内ニ其ノ物件ノ種類、元金額、利率、期限及債權者ノ氏名並質權設定ノ年月日ヲ記載シテ届出ツヘシ

第六十四條 商法施行法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル事項ハ登記ノ日ヨリ一週間内ニ登記謄本ヲ添附シテ届出ツヘシ(様式略ス)

○臺灣私設鐵道規程

(明治四十五年一月二十六日) 臺灣總督府令第九號

臺灣私設鐵道規程

第一條 本令ニ於テ軌道ト稱スルハ公共道路上ニ軌條ヲ敷設シ一般交通運輸ノ用ニ供スル設備ヲ謂フ

瓦斯力、蒸汽力及電氣力ヲ用フル軌道ハ私設鐵道ノ規定ニ依ル

第二條 假許可及許可ノ申請書ニハ軌道ノ起點、終點、哩數、資本ノ總額、出資ノ方法並營業年限ヲ記載シ起業者之ニ署名シ組合ニ在テハ其組合ニ關スル契約書謄本、會社ヲ設立セムトスル者ニ在リテハ假定款謄本、會社ニ在リテハ其ノ登記謄本及定款謄本、公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ決議書謄本ヲ添附シ事務所所在地ノ廳長ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ假許可ノ申請書ニハ軌道平面圖(臨時臺灣土地調查局調製二萬分ノ

- 一 堡圖(許可ノ申請書ニハ左ノ書類並圖面ヲ添附スヘシ)
 - 二 工事ノ方法
 - 三 工事豫算書
 - 四 營業上ノ收支概算書
 - 五 軌道平面圖(縮尺一吋六釐)
 - 六 軌道縱斷面圖(縮尺縱一吋三十呎、横一吋三釐)
 - 七 專用橋梁ヲ架設スルトキハ其ノ設計圖(一吋四十呎詳細圖ハ一吋四呎)
 - 八 線路一覽圖(臨時臺灣土地調查局調製二萬分ノ一堡圖)
- 第三條 工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 單線又ハ複線ノ區別
 - 二 軌間及軌道ノ間隔
 - 三 曲線ノ最少半徑及線路ノ最急勾配
 - 四 軌條ノ重量
 - 五 車輪及車臺ノ構造、寸法、重量、最大積載量及制動機ノ裝置

- 六 專用橋梁ヲ架設スルトキハ其ノ設計ノ說明
 - 七 在來ノ橋梁ヲ使用スルトキハ其ノ材質、構造、寸法及竣工年月日
- 第四條 假許可及許可ニハ期限ヲ附ス假許可ニ附シタル期限内ニ許可ノ申請ヲ爲ササルトキ又ハ許可ニ附シタル期限内ニ敷設工事ヲ完了セサルトキハ假許可又ハ許可ハ其ノ効力ヲ失フ
- 起業者ノ責ニ歸スヘカラサル正當ノ事由ニ因リ期限内ニ許可ノ申請ヲ爲スコト能ハサルトキ若ハ敷設工事ヲ完了スルコト能ハサルトキハ其ノ期限ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得
- 第五條 軌道敷設工事ノ施行ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
- 一 軌道敷設ノ爲道路面ヲ切盛スル箇所ハ道路ノ全幅ニ互リ勾配ヲ同一ニスルコト
 - 二 軌道ハ兩側人家連檐ノ場所ハ道路ノ中央ニ敷設シ其ノ他ノ場所ハ人家少キ道路ノ一方ニ道端ヨリ一尺ヲ隔ツルコト

- 三 道路ノ幅十五尺ニ滿タル箇所ニアルトキハ十五尺以上ニ、複線及待避線ヲ設クル箇所ニシテ十八尺ニ滿タサルトキハ之ヲ十八尺以上ニ擴張スルコト
- 四 橋梁ノ幅十二尺ニ滿タサルトキハ之ヲ十二尺以上ニ擴張スルコト
- 五 道路ノ一方ヨリ中央部若ハ他ノ一方ニ軌道ヲ移ス箇所ハ道路方向線ト軌道中心線トノ交叉角ヲ四十五度ヨリ大ナラシメ且ツ軌道ノ外側ヲ高メサルコト
- 六 前號ノ箇所ハ道路ニ沿ヒ長十二尺以上路幅全體ニ互リ踏切工ヲ設クルコト
- 七 軌道ト道路ト交叉スル箇所ハ軌道ニ沿ヒ路幅全體ニ互リ踏切工ヲ設クルコト
- 八 踏切工ハ木石又ハ「コンクリート」ヲ用キテ堅固ニ造ルコト
- 九 軌道内ニハ雨水排除ノ方法ヲ設クルコト
- 十 軌條面ハ道路面ト高低ナラシムヘキコト
- 十一 半哩毎ニ距離ヲ示ス哩程標ヲ設クルコト

- 十二 急阪路其ノ他危險ノ箇所ニハ下車又ハ徐行スヘキ警標ヲ設クルコト
- 前項各號ニ依ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ附シ申請スヘシ
- 第六條 軌道若ハ工事ノ方法ヲ變更セムトスルトキハ理由書並圖面ヲ添ヘ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 工事施行中ハ二箇月毎ニ工程報告書ヲ鐵道部長ニ差出スヘシ
- 第八條 工事竣工シタルトキハ成功圖ヲ添ヘ鐵道部長ニ届出ツヘシ
- 一部ノ運輸營業ヲ開始セムトスルトキハ其ノ區間ノ竣工届ヲ提出スヘシ
- 第九條 營業者ハ運輸營業開始左ノ事項ニ付鐵道部長ノ許可ヲ受クヘシ
- 一 發著所(各所間ノ哩程並累計ヲ示スヘシ)
 - 二 臺車ノ數、腰掛數及日覆數
 - 三 臺車發著ノ時刻
 - 四 旅客及貨物賃金

五 臺車ノ乗客定員並貨物積載制限
 第十條 前條第一號、第三號乃至第五號ヲ變更セムトスルキトハ其ノ理由ヲ具シ鐵道部長ノ認可ヲ受クヘシ
 第十一條 複線ニ於ケル臺車ノ運行ハ左方ノ軌道ヲ進行スヘシ
 第十二條 臺車一時間ノ最大速度ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス
 一 市街地内ハ五哩
 二 其ノ他ハ八哩
 第十三條 急阪路其ノ他危險ノ箇所ハ徐行スヘシ
 二車以上續行スルトキハ適當ナル間隔ヲ保ツヘシ
 第十四條 交通頻繁ナル箇所又ハ展望惡シキ線路ヲ運行スルトキハ警鐘又ハ警笛ヲ以テ注意ヲ喚起スヘシ
 第十五條 夜間臺車ノ運行ニハ燈火ヲ揭示スヘシ
 第十六條 軌道及其ノ左右二尺通ノ道路ノ修繕並

掃除ハ營業者ニ於テ之ヲ爲スヘシ
 第十七條 軌道ヲ敷設シタル道路並橋梁ノ改築又ハ修繕ノ場合ニ於テ其ノ費用ノ幾分ハ營業者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトアルヘシ
 第十八條 營業者カ他ノ軌道ニ連絡シテ其ノ軌道ノ一部或ハ其ノ他ノ設備ヲ共同ニ使用シ運輸營業ヲ爲サムトスルトキハ契約書ノ謄本ヲ添附シテ鐵道部長ノ認可ヲ受クヘシ
 第十九條 正當ノ理由アルニ非サレハ營業者ハ旅客又ハ貨物ノ運送ヲ拒絕スルコトヲ得ス
 鐵道部長ハ必要アリト認ムルトキハ營業上ノ設備又ハ賃金ノ變更ヲ命スルコトヲ得
 第二十條 所轄廳長ハ緊急ノ必要アリト認メタル場合ニ於テハ軌道其ノ他工作物ノ改築、撤去若ハ一時臺車運行ノ休止ヲ命スルコトヲ得前項ノ命令ヲ爲シタルトキハ其ノ狀ヲ具シ直ニ鐵道部長ニ報告スヘシ
 第二十一條 左ノ場合ニ於テ假許可又ハ許可ハ其ノ効力ヲ失フモノトス

一 起業者全部ノ死亡
 二 會社、組合又ハ團體ノ不成立若ハ解散
 三 運輸營業ノ廢止
 四 營業期間ノ滿了
 第二十二條 左ノ場合ニ於テハ臺灣總督ハ假許可又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ但シ之カ爲損害ヲ生スルコトアルモ其ノ責ニ任セス
 一 公益上ノ必要ヲ生シタルトキ
 二 營業者カ業務ヲ爲スニ適セスト認メタルトキ
 第二十三條 許可カ其ノ効力ヲ失ヒ又ハ取消サレタルトキハ臺灣總督ハ期限ヲ定メテ道路ヲ原形ニ復セシムルコトアルヘシ
 第二十四條 假許可又ハ許可カ効力ヲ失ヒ若ハ取消サレタルトキハ一箇月内ニ地方廳ヲ經由シテ假許可又ハ許可書ヲ返納スヘシ
 第二十五條 線路ヲ新設シ第一條第一項ノ目的ニ供セムトスルモノニハ本令ヲ準用ス
 第二十六條 私設鐵道規則施行細則第一條、第二

條、第四條、第十條、第十二條第一項、第二十一條、第二十八條、第二十九條及第三十六條ハ之ヲ軌道ニ準用ス
 附則
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際既ニ許可又ハ假許可ヲ爲シタル軌道ハ本令ニ準據シタルモノト看做ス

○臺灣私設鐵道規則

(明治四十一年十二月 律令第二十號)

臺灣私設鐵道規則明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス
 第一條 鐵道ヲ敷設セムトスル者ハ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ
 第二條 運輸ヲ開始セントスル者ハ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ
 第三條 鐵道ノ設備ハ臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ

非サレハ之ヲ運輸ノ用ニ供スルコトヲ得ス設備
ヲ變更シタルトキ亦同シ

第四條 臺灣總督ハ當該官吏ヲ派遣シテ鐵道ノ工
事、設備、運輸、保線又ハ車輛ニ關スル狀態ヲ
監査セシメ不適當ト認ムル時ハ必要ナル命令ヲ
爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏ハ鐵道ニ關スル帳簿
書類圖面ヲ檢閲シ當業者ノ代理人又ハ使用人ニ
之カ證明ヲ求ムルコトヲ得

第五條 鐵道及之ニ附屬スル物件ハ臺灣總督ノ許
可ヲ受クルニ非レハ之ヲ讓渡シ貸渡シ又ハ擔保
ノ目的ト爲スコトヲ得ス但シ個人ノ專用ニ供ス
ル鐵道ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六條 鐵道ニ關スル事故ハ臺灣總督ノ定ムル所
ニ依リ遲滯ナク之ヲ届出ツベシ

事故査査上必要ト認ムル時ハ臺灣總督ハ現狀ノ
存置ヲ命スルコトヲ得

第七條 當業者カ鐵道ニ關スル法規又ハ法規ニ基
キテ發スル命令ヲ遵守セス其他公益ヲ害スヘキ
行爲アリト認ムル時ハ臺灣總督ハ許可ノ全部又
ハ一部ヲ取消シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコト
ヲ得

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下
ノ罰金ニ處ス

- 一 第一條ノ許可ヲ受ケスシテ工事ニ著手シタ
ル者
- 二 第二條ニ違反シテ運輸ヲ開始シタル者
- 三 第三條ニ違反シタル者
- 四 第四條ニ依ル命令ニ違反シタル者

第九條 前條第二號乃至第四號ノ場合ニ於テ其ノ
違反ノ行爲ニ依リテ得タル收入金ハ之ヲ沒取ス
收入金ト區別シ難キ他ノ收入金アル時ハ併セテ
之ヲ沒取ス

前項ノ沒取金ハ臺灣租稅滯納處分規則ノ例ニ依
リ之ヲ徵收ス但シ其ノ先取特權ハ公課ニ次キ之
ヲ行フ

第十條 當該官吏ノ訊問ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シ
又ハ其ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若クハ之ニ

支障ヲ加ヘタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但
シ刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ依ル

第十一條 第六條ノ届出ヲ怠リ又ハ現狀存置ノ命
令ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル時ハ當業者ヲ
千圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 鐵道ニ關スル法規又ハ法規ニ基キテ發スル
命令又ハ許可ニ附シタル條件若ハ條件ニ基
キテ發スル命令ニ違反シタル時
- 二 許可ヲ受クヘキ事項ニ關シ之ヲ受ケスシテ
施行シタル時過料ノ徵收ニ關シテハ非訟事
件手續法ニ依ル

第十三條 個人ノ專用ニ供スル鐵道ニシテ瓦斯
力、蒸汽力又ハ電氣力ヲ使用セサル者ニハ本令
ヲ適用セス

第十四條 一般交通運輸ノ用ニ供スル爲公共道路
上ニ敷設スル軌道ニ附テハ本令ヲ準用ス

前項ノ鐵道敷設ノ爲道路ヲ更正シ又ハ擴張シタ
ル時ハ其ノ更正又ハ擴張ニ係ル部分ノ敷地ハ之

ヲ道路敷ニ編入ス

第十五條 本令ニ定ムル者ノ外必要ナル事項ハ臺
灣總督之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ敷設中ノ鐵道ハ本令ニ依リ敷設
ノ許可ヲ得タルモノト看做ス

○臺灣私設鐵道施行細則

(明治四十一年十二月)
(臺灣總督府令第七十三號)

臺灣私設鐵道規則施行細則左ノ通相定ム

臺灣私設鐵道規則施行細則

- 第一條 私設鐵道ノ起業者ハ臺灣總督府管内ニ事
務所ヲ設クヘシ
- 第二條 鐵道ヲ敷設セムトスル者ハ假許可ノ申請
ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 許可及假許可ノ申請書ニハ鐵道敷設ノ目